

第十四	工事設計書	(様式第十一)
第十五	工事經費仕譯書	(様式第十二)
第十六	官有財産簿	(様式第十三)
第十七	支出報告書	(様式第十四)
第十八	支出見込書	(様式第十五)
第十九	決算報告書	(様式第十六)
第二十	臨時費受拂計算書	(様式第十七)
第二十一	過誤(不足)拂自覺報告表	(様式第十八)
第二十二	官有財産増減報告書	(様式第十九)
第二十三	身元保證金報告書	(様式第二十)
第二十四	保證人通知書	(様式第二十一)
第二十五	判決	(様式第二十二)
第二十六	判決申報書	(様式第二十三)

第三條 左ニ列記スル簿表ハ各號ニ示ス要件ニ基キ師團及臺灣陸軍ニ係ルモノハ當該經理部長其
他ハ陸軍監督部長其様式ヲ規定スヘシ

第一	歳入納票	年度科目、金額、事由年月日等ヲ掲ク
第二	受領證書	金額、事由年月日等ヲ掲ク
第三	支出目別簿	部局毎ニ仕拂命令額其累計ヲ目別ノ金額ニ分テ掲ク
第四	前渡金整理簿	出納官吏毎ニ部門ヲ股ケ前渡額、積算額、返納額、殘額等ヲ掲ク

第五	概算渡金整理簿	部局毎ニ部門ヲ股ケ概算渡額、積算額、返納額等ヲ掲ク但シ旅費ニア リテハ月別ニ部門ヲ股ケルヲ要ス
第六	前金拂整理簿	本項毎ニ部門ヲ股ケ契約金額、前金拂額、物品納入日、既收及未收物 品ノ價格等ヲ掲ク
第七	定額簿	歳出豫算額、支出請求額、殘額等ヲ掲ク
第八	金櫃現在簿	金額ニ現在スル現金ノ種類、金額等ヲ掲ク
第九	當分預求簿	預金ヲ預入ニ區分シ受拂、殘等ヲ掲ク
第十	仕拂請求書	年度科目、金額、事由年月日等ヲ掲ク
第十一	戻入納票	仕拂請求書ニ準ス
第十二	經費増額計算書	増額高、理由、増額ヲ要スル項内各目ノ支拂高、事由等ヲ掲ク
第十三	物品配與簿	物品ヲ配與シタル部局、員數等ヲ掲ク
第十四	給餉日計簿	營内營外ノ食數ヲ其内膳及各食ニ區分シ尙ホ貯藏ノ事由等ヲ掲ク
第十五	給飼日計簿	給飼日計簿ニ準ス
第十六	諸傳日計簿	物件ノ注文、受授、食需等ニ區分シ其目的ニ應ジ品目、數量、金額、事 由年月日等ヲ掲ク
第十七	被服地質請求書	品目、數量、事由等ヲ掲ク
第十八	經費一覽表	仕拂命令毎ニ豫算額、支出額、殘額等ヲ掲ク
第十九	受拂計算書	仕拂證明規程ニ定メアル仕拂計算書ニ準ス
第二十	納計算書	委託檢査取扱順序附屬書式第二號丁ノ附屬ニ準ス
第二十一	經費決算報告書訂正書	科目、金額、訂正スヘキ事由等ヲ掲ク
第二十二	下士卒俸給明細表	官等、給額、人員、小計、事由等ヲ掲ク
第二十三	委任經理三圖スル積立金現在高報告表	各種積立金ノ現在高ヲ管轄部隊及學校等ニ區分シテ掲ク

- 第二十四 糧 米 受 拂 表 前月迄及本月分ノ受拂代金渡ニ對スル石數、殘額等ヲ掲ク
- 第二十五 糧 米 仕 拂 明 細 表 實食數、代金渡ニ對スル食數、其内障及之ニ對スル石數等ヲ掲ク
- 第二十六 馬 糧 受 拂 表 糧米受拂表ニ準ス
- 第二十七 馬 糧 仕 拂 明 細 表 糧米仕拂明細表ニ準ス
- 第二十八 糧 食 諸 品 決 算 表 受拂、殘、實食數、代金渡食數、定額實費ノ過不足等ヲ掲ク
- 第二十九 飼 養 諸 品 決 算 表 糧食諸品決算表ニ準ス
- 第三十 審 理 書 管理、答復等ノ要旨ヲ掲ク
- 第三十一 判 決 處 分 要 求 書 判決ノ事項、處分ノ請求等ヲ掲ク
- 第三十二 判 決 通 知 書 判決ノ事項、通知ノ旨等ヲ掲ク
- 第三十三 定(臨)時 檢 査 檢 定 書 檢定年月日、金員、科目等ヲ掲ク
- 第三十四 物 品 調 書 定(臨)時檢査檢定書ニ準ス
- 第三十五 身 元 保 證 金 納 付 證 書 保證金、金庫ノ保管書就保證金ヲ納ムヘキ事由、年月日、職官氏名等ヲ掲ク
- 第三十六 土 地 抵 當 權 設 定 登 記 請 求 書 抵當權設定地、同設定ノ事由、年月日等ヲ掲ク
- 第三十七 土 地 抵 當 權 設 定 證 書 抵當權設定地、設定ノ事由、年月日等ヲ掲ク但シ他人ノ所有ニ屬スルモノハ其連署ヲ要ス
- 第三十八 有 價 證 券 質 權 設 定 證 書 有價證券ノ種類、番號、金額、質權設定ノ事由、年月日等ヲ掲ク但シ他人ノ所有ニ屬スルモノハ其連署ヲ要ス
- 第三十九 身 元 保 證 金 納 付 濟 書 納付人ノ官氏名、金額納付濟年月日等ヲ掲ク
- 第四十 身 元 保 證 金 免 除 願 免除スヘキ金額、保證ノ引續、年月日等ヲ掲ク保證人連署スルモノト
- 第四十一 身 元 保 證 金 辨 償 引 請 證 書 保證ノ金額、事由、年月日等ヲ掲ク
- 第四十二 身 元 保 證 金 轉 用 請 求 書 既納ノ金額(公積ナレハ額面、地所ナレハ裏帳ニ登記セル價格)轉用スヘキ金額、新舊警察職部隊及年月日等ヲ掲ク

- 第四十三 身 元 保 證 金 拂 戻 請 求 書 拂戻ヲ請求スヘキ事由、年月日等ヲ掲ク
 - 第四十四 身 元 保 證 金 辨 償 引 請 證 書 下 展 請 求 書 身元保證金拂戻請求書ニ準ス
 - 第四十五 身 元 保 證 金 簿 身元保證金ノ種類、金額、納付及拂戻等ヲ掲ク
 - 第四條 本規程ニ定ムルモノノ外必要ノ補助簿表ハ第三條ノ所管區分ニ從ヒ陸軍監督部長又ハ經理部長ニ協議ノ上之ヲ設クルコトヲ得
 - 第五條 帳簿ハ第一葉裏面ヨリ丁數ヲ附スルモノトス
 - 第六條 部門ヲ分ツ帳簿ニハ其索引ヲ設クルモノトス
 - 第七條 誤記ハ原字ニ朱線原字朱線ナルトニ條ヲ畫シテ之ヲ訂正シ改描塗抹スヘカラス但シ金員ニ在リテハ其數字全體ヲ訂正スルモノトス
 - 第八條 謄憑書ノ誤記ハ前條ニ依リ訂正シ其金員ニ在リテハ更ニ訂正ノ事由ヲ欄外ニ記註捺印スルモノトス
- (様式略ス)
- 陸軍第二十二號
- 臺灣島及澎湖島駐衛陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ヲ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス
- 明治三十五年三月十七日 陸軍大臣男爵兒玉源太郎
- 第十一條 補給廠長ヲ臺灣陸軍經理部長ニ改ム
 - 第十八條 第一項中「拾五錢」ヲ「貳拾錢」ニ改メ左ノ但書ヲ加フ
駐衛地備附ノ草鞋及足袋ノ保續ニ要スル費用ハ護送等ニ使用シタルトキハ被服補修料、匪徒鎮定ノ爲メニ使用シタルトキハ匪徒鎮定費ヲ以テ支辨スヘシ
 - 第二十條ニ左ノ二項ヲ加フ

勤務演習ノ爲召集ノ豫備役後備役見習士官下士兵卒及六週間現役兵ノ被服ハ之ヲ守備隊ニ備附
ケ所要ニ應シテ之ヲ貸與スヘシ其ノ定數ハ第十五表ニ依ル

前項ノ被服ニ係ル修理及保續ハ豫算定額内ヲ以テ實費支辨スヘシ
第五表備考中第一項ヲ左ノ如ク改ム

臺灣總督ハ臺灣陸軍經理部長ヲシテ地方ノ狀況ヲ酌量シ各地方ノ賄料定額ヲ定メシメ之ヲ陸軍
大臣ニ報告シ且臺灣陸軍經理部長ヲシテ當該官衙各隊ニ通報セシムヘシ但シ各地屯在部隊ノ人
員ト本文所定ノ額トヲ以テ算定シメル一人一日ノ平均額ハ本表賄料標準額ニ超過スルヲ得ス

第七表ヲ別表ノ如ク改ム
第八表中被服手入具ノ割註ニ「磨刷」ヲ加フ
第八表備考中第二項ヲ削除シ第三項但書ヲ左ノ如ク改ム
但作業頭巾同衣袴胸當及前垂ハ二箇年履靴ハ一箇年間應用ノ後實際ノ損敗ニ依リ換給ス
第九表中第一種帽ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

前	立	一	箇	十箇年間應用ノ後實際ノ損敗ニ依リ換給ス
---	---	---	---	---------------------

同表中外套及雨覆ノ支給區分ノ區畫ニ於テ「日覆」同シ「五箇年間應用ノ後實際ノ損敗ニ依リ換給ス」ニ改ム

同表中携行毛布ノ欄ヲ削除シ携帶天幕ノ支給區分區畫中「三箇年」ヲ「五箇年」ニ改ム

同表中厚毛布ノ割註「三枚」ヲ「四枚」ニ改メ其ノ支給區分ノ區畫中「携行毛布」同シ「十箇年間應用ノ後實際ノ損敗ニ依リ換給ス」ニ改ム

同表備考中第三項ヲ削除ス
第十四表ノ次ニ第十五表ヲ追加ス

(別表)

第七表

階	級	朝食料	晝食料	夕食料	日額
將	高等官二等以上	三十三錢	三十三錢	三十四錢	一圓
上	高等官三等以下 五等官以上	二十錢	二十錢	二十錢	六十錢
士	同六等以下 並委任待遇者	十六錢	十七錢	十七錢	五十錢
准	士官	十一錢	十二錢	十二錢	三十五錢
下	士官	十錢	十錢	十錢	三十錢
兵	監獄看守 卒	九錢	九錢	九錢	二十七錢
	傭	八錢	八錢	八錢	二十四錢

第十五表

品	目	駐荷地備附數	保存期限
第二種帽各兵科	步	三三四	五年
	騎	三三三	
	砲	四四	
	工	二二	
表	兵	四年六箇月	
	兵		

ハ自今左ノ區分ニ依リ之ヲ東京大阪小倉ノ衛戍監獄ニ移送シテ刑ノ執行ヲ爲スヘシ

東京 <small>(仙臺)</small>	大阪 <small>(名古屋)</small>	小倉 <small>(熊本)</small>
北 <small>(函館)</small>	北 <small>(神戶)</small>	

一前項ノ囚徒ハ毎月二回又ハ三回ニ繼メテ之ヲ押送スヘシ但拘禁上差支アルトキハ此限ニアラス

一前項ノ押送ハ監獄長ヨリ憲兵隊ニ請求シ憲兵ヲシテ之ヲ爲サシムヘシ

憲兵隊ニ於テ差支アルトキハ監獄長ヨリ師團長ニ稟申シ他ノ兵員ヲシテ押送ヲ爲サシムヘシ

明治三十五年三月二十二日 陸軍大臣男爵兒玉源太郎

○陸軍第二十八號

明治二十七年陸軍第二十三號陸軍省所管豫算事務順序中左ノ通改正シ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年三月二十四日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第一條 此順序ニ於テ官衙トハ參謀本部、教育總監部、都督部、師團司令部、臺灣總督府、陸軍大臣ニ直隸ノ官衙學校及陸軍省各局ヲ謂フ

第二條以下「第一課」ヲ「主計課」ニ改ム

第三條 各官衙長官ハ歲入徵收官毎ニ毎年度歲入概算書(陸軍省規程第二條第一項)ヲ調製シ歲入起因ニ關ス

ル法令契約等取調書(陸軍省規程第二條第一項)ヲ添ヘ前年度四月三十日迄ニ其調ヲ發シ之ヲ陸軍大臣ニ呈出スヘシ

陸軍大臣ハ之ヲ經理局ニ下附ス

第四條 削除

第六條中「前年度四月十五日マテ」ヲ「前條第二項下附ノ日ヨリ十二日以内」ニ改メ本條以下總テ刪註シ削ル

第七條第一項中「四月三十日」ヲ「五月二日」ニ第二項中「五日」ヲ「七日」ニ改ム

第八條中「前年度五月十五日マテ」ヲ「前條下附ノ日ヨリ十日以内」ニ改ム

第九條中「第四條」ヲ「第三條」ニ改ム

第十條及第十一條 削除

第十三條中「第十一條」計算書各目明細書取調書、金庫區分表ヲ「内閣ニ於テ決定ノ歲入概算額」ニ改メ「基キ」ヲ「下」更ニ「削ル」

第十四條 削除

第十五條 經理局主計課ハ歲入豫算額可公布ノ後大藏大臣ノ通知額ニ基キ歲入徵收官毎ニ歲入豫算書ヲ調製シ陸軍大臣ヨリ各官衙及歲入徵收官ニ下附ノ手續ヲ爲スヘシ但シ官衙長官ト歲入徵

收官ト同一ナルトキハ共ニ「省略スル」コトヲ得

第十六條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ部局毎ニ仕拂命令官アル場合ニハ明細仕拂豫算書ノ調製ヲ要セス

第十七條 經理局主計課ハ前條ノ豫算書及計算書ニ基キ更ニ明細仕拂豫算書仕拂豫算計算書ヲ調製シ陸軍大臣ヨリ仕拂豫算計算書ハ大藏大臣及會計検査院ニ送付各官衙、陸軍監督部及仕拂命令官ニ下附明細仕拂豫算書ハ會計検査院ニ送付各官衙、陸軍監督部及仕拂命令官ニ下附ノ手續ヲ爲スヘシ但シ部局毎ニ仕拂命令官アル場合ニハ明細仕拂豫算書ヲ省略スルコトヲ得

第十八條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ明細仕拂豫算増(減)額仕譯書ハ會計検査院ニ送付ヲ要セス

第十九條中「計算書」下ニ「陸軍豫算規程」ヲ加ヘ「附製」ノ下ニ「當該仕拂命令官ノ意見ヲ添ヘ」ヲ削ル

第十九條ノ二 各官衙長官ハ其所管ニ屬スル各部局ノ豫算仕拂豫算ニ流用ノ制ヲ彼此流用増減

スルコトヲ得此場合ニ在リテハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スル爲メ其増減ノ科目金額事由ヲ示ス報告

書ヲ調製シ陸軍監督部ニ送付スヘシ但シ仕拂豫算ニ流用ノ制限ヲ示スモノ並仕拂豫算計算書ノ

増減ヲ要スルトキハ前條第一項ニ準シ陸軍大臣ニ開申シ許可ヲ請フヘシ

陸軍監督部ハ前項ノ報告書ヲ調査シ意見アルモノハ之ニ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ呈出スヘシ

第二十條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第二十一條 此順序ニ定ムル諸計算書等ノ書式ハ特ニ規定アルモノ、外經理局長ノ定ムル處ニ依ル

第二十二條 附屬書式ハ之ヲ廢止ス但第十九條ノ書式ハ陸軍海表規程實施迄從前ノ規定ニ依ル

○陸軍第二十九號

明治三十三年陸軍第四十二號陸軍省所管歳入收納取扱規程中左ノ通改正シ明治三十五年四月一日

ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年三月二十四日 陸軍大臣 野村 元 陸軍大臣 野村 元

第一條中「納票」ノ下ニ「陸軍豫算規程」ヲ加ヘ末尾ニ「但シ納票ヲ發スヘキ應歳入徴收官ト同職ナル

トキハ納票ハ之ヲ省略スルコトヲ得」ヲ加フ

第二條 歳入徴收官ハ前條ノ書類ヲ調査シ適當ト認ムルトキハ十五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定

メ納人ニ對シ納入告知書ヲ發シ納金ノ際之ヲ添付セシムヘシ但シ納人ヲシテ收

入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス

第三條第一項中「納票」ヲ送付セシムル納入ノ手續ヲ爲シニ改ム

第四條 軍隊官衙學校等ニ於テ現金ノ徴收ヲ要スルトキハ當該長官之ヲ徴收シ其徴收額ハ所屬徴

收官ニ移スヘシ

前項ニ依リ現金ヲ徴收セントスル長官ハ所屬官吏ニ收入官吏ヲ命シ其ノ事務ヲ取扱ハシメ且該

收入官吏ノ氏名ヲ所屬歳入徴收官ニ通報スヘシ

第六條中「報告」ノ下ニ「以下」ヲ「スヘシ」ニ改ム

第七條第一項中「經理局」ヲ「陸軍監督部」ニ「第二項中「經理局第一課」ヲ「陸軍監督部」ニ「陸軍大臣」以下

ヲ「經理局」ニ送付スヘシ」ニ改メ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ經理局主計課ハ前項ノ報告書及月計

對照表ヲ調査シ陸軍大臣ヨリ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 歳入徴收ノ職務ヲ行フ各官ハ歳入徴收官ヨリ會計規則第五十二條第二項ニ依リ會計検査

院ニ證明スヘキ歳入徴收額計算書ヲ調査シ直ニ之ヲ同院ニ送付スヘシ

第十一條第一項中「検査員」ノ下ニ「又ハ該官吏自身検査ヲ受クル能ハサルトキ特命シテ立會シムル

官吏」ヲ加ヘ第二項ヲ左ノ如ク改ム

收入官吏ノ代理官ヲ要スルトキハ所屬長官之ヲ命スヘシ

第三項中「檢定書」ノ下ニ「陸軍豫算規程」ヲ加フ

第十二條 收入官吏ノ保管スル現金ニ異狀ヲ生シタルトキ若ハ收入金ヲ詐取セラレタルコトヲ發

見シタルトキハ其所屬長官ハ之ヲ所管長官ニ報告シ尙所管區分ニ從ヒ陸軍監督部長又ハ經理部長ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ所管長官ハ其狀況ヲ速カニ會計検査院ニ通報スヘシ

第十三條 前條ノ場合ニ於テ所管長官ハ臨時ニ検査員ヲ命シ帳簿金櫃ヲ検査セシムヘシ

前項ニ依リ調製セシ檢定書ノ一通ハ所管長官ヨリ陸軍大臣ニ提出スヘシ

第十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十四條 附屬書式ハ之ヲ廢止ス但第二條ノ書式ハ陸軍簿表規程實施迄前ノ規定ニ依ル

○陸軍第三十號

明治二十六年陸軍部第三十號陸軍省所管經費整理規程中左ノ通改正シ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年三月二十四日

陸軍大臣 野村 浩太郎

第一條 此規程ニ於テ官衙トハ參謀本部、教育總監部、都督部、師團司令部、臺灣總督府、陸軍大臣ニ直隸ノ官衙學校及陸軍省各局ヲ謂ヒ各所トハ陸軍大臣ニ直隸セラルル軍隊官衙學校等ヲ謂フ

第二條 削除

第三條 各官衙各所ニ於テ經費ノ支出ヲ要スルトキハ證憑書類ニ仕拂請求書陸軍簿表規程 第三條第十ヲ付シ仕拂命令官ニ送付スヘシ

現金前渡ノ場合ニ在リテハ其科目金額ヲ算定シタル調書ヲ作り前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ支拂請求書ヲ發スヘキ應ト仕拂命令官ト同應ナルトキハ仕拂請求書ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 第一項中「但書」第二項ニ改メ同條第二項第三項ヲ削リ左ノ一項ヲ加フ

陸軍大臣前項ノ具申アルトキハ之ヲ分擔ノ各局課ニ下シテ審議セシメ各局課及經理局主計課ハ陸軍省所管豫算事務順序第十六條及第十七條ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條中「附屬第一號書式」ヲ「其ニ改メ通知書」ノ下ニ陸軍簿表規程 第二條以下之ヲ加フ

第九條中「附屬第二號書式」ヲ削リ「科目訂正書」ノ下ニ陸軍簿表規程 第五條ヲ加フ

第十二條 仕拂命令官金庫出納事務規程ニ依リ金庫ヨリ歳出金月計對照表及歳出仕拂未濟繰越金

支出月計對照表ニ證憑書類ヲ添ヘ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ對查シ相違アルトキハ速ニ其事由

ヲ付シテ之ヲ返付シ相違ナキトキハ證明書ト記入署名捺印シ證憑書類ト共ニ三日以内ニ之ヲ

金庫ニ返付スヘシ

金庫ヨリ仕拂命令受領濟額報告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ其仕拂命令受領濟額ヲ仕拂命令發行額ニ對照シ前項ニ準シ證明ノ上返付スヘシ

前二項ニ依リ證明ヲ爲シタル後該證明ニ付銀額ヲ發見シタルトキハ其理由ノ證明書ヲ作り之ヲ

金庫ニ交付スヘシ

第十三條 仕拂命令官ハ支出簿陸軍簿表規程 第二條第三 支出目別簿陸軍簿表規程 第三條第三 ヲ備ヘ必要ニ應シ前渡金

整理簿陸軍簿表規程 第三條第四 概算渡金整理簿陸軍簿表規程 第三條第五 及前金拂整理簿陸軍簿表規程 第三條第六 ヲ備フヘシ

第十五條 仕拂命令官ハ毎月仕拂命令ヲ發シタル科目金額ノ支出報告書陸軍簿表規程 第二條第十七ヲ調製シ

翌月十日迄ニ陸軍監督部ニ發送スヘシ但シ九月及十二月分ニハ將來仕拂フヘキ科目金額ヲ確實

ニ算定シタル支出見込書陸軍簿表規程 第二條第十八ヲ添付スヘシ

陸軍監督部ハ前項報告書及見込書ヲ調査聚集シ 經費一覽表 陸軍簿記規程第三條第十八條 及支出見込書 陸軍簿記規程第八條 ヲ編製シ之ヲ經理局ニ送付スヘシ

經理局主計課ハ前項ノ經費一覽表及支出見込書ヲ調査シ意見アルモノハ之ニ意見ヲ附シ局長ヨリ陸軍大臣ニ呈出ノ手續ヲ爲スヘシ

第十六條 仕拂命令官ハ明細仕拂豫算書ノ區分 明細仕拂豫算書ノ令途ナキモノニ據リ其所管ニ屬スル經費ノ決算報告書 陸軍簿記規程第二條第十九條 ヲ編製シ翌年度八月三十一日迄ニ陸軍監督部ニ送付スヘシ

前項報告書提出後科目等ノ誤謬ヲ發見シ會計検査院ニ提出シタル證明書類ヲ訂正シタルモノアルトキハ共訂正書 陸軍簿記規程第三條第二十一條 ヲ陸軍監督部ニ送付スヘシ

第十七條 陸軍監督部ハ前條ノ決算報告書ヲ調査聚集シ翌年度十一月三十日迄ニ經理局ニ送付スヘシ

經理局主計課ハ前項ノ決算報告書ヲ調査シ陸軍大臣ヨリ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 仕拂命令ノ職務ヲ行フ各官ハ仕拂命令官ヨリ會計規則第五十二條第三項ニ依リ會計検査院ニ證明スヘキ支出ノ計算書及證據書類ヲ調査シ直ニ之ヲ同院ニ送付スヘシ

第十九條 各官衙各所ニ於テ法令ニ依リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ陸軍大臣ノ許可ヲ請フ爲メ翌年度五月五日迄ニ繰越計算書ヲ作り當該官衙長官ヨリ陸軍監督部ニ送付スヘシ

陸軍監督部ハ前項ノ計算書ヲ調査聚集シ更ニ繰越計算書ヲ作り意見アルモノハ之ニ意見ヲ付シ翌年度五月二十五日迄ニ之ヲ經理局ニ送付スヘシ

經理局主計課ハ前項ノ計算書ヲ調査シ陸軍大臣ヨリ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘキ手續ヲ爲スヘシ

第二十條 削除

第二十一條 中「經理局」ヲ「陸軍監督部」ニ改ム

第二十二條 中「納票」ノ下ニ「陸軍簿記規程第三條第十一條」ヲ加ヘ「告知書」ノ下ヲ「發スヘキ應ニ仕拂命令官ト同職ナルトキハ納票ハ之ヲ省略スルコトヲ得」ニ改ム

第二十三條 中「五百圓以上」ヲ「會計規則第六十七條ノ場合ニ於ケル」ニ改ム

第二十六條 中「契約」ハ「特ニ定ムルモノノ外」ヲ加フ

第二十七條 現金前渡ヲ受ケル官吏 府縣ニ屬スル官吏ニシテ召集職ノトキハ當該官衙各所ノ長官共官氏名 其印鑑 ヲ添ヘテ仕拂命令官ニ通報スヘシ

前項ノ官吏死亡其他ノ事故ニ依リ代理官若ハ分任官ヲ要スルトキハ當該官衙各所ノ長官所屬官吏ニ之ヲ命シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

會計規則第百條ニ依リ計算書ヲ調製セシムヘキ官吏ニ就テモ亦前項ニ準ス

第二十八條 第一項中「死亡」ノ下「停職」ヲ加ヘ第二項中「檢定書」ノ下ニ「陸軍簿記規程第三條」ヲ加フ

第二十九條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ保管スル現金ニ異狀ヲ生シタルトキハ其ノ長官之ヲ官衙長官ニ報告スルト同時ニ所管區分ニ從ヒ陸軍監督部長又ハ經理部長ニ通報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ官衙長官ハ其狀況ヲ速ニ會計検査院ニ通報スヘシ

第二十九條ノ二 前條ノ場合ニ於テ官衙長官ハ臨時ニ検査員ヲ命シ帳簿金櫃ヲ検査セシムヘシ

前項ニ依リ調製セル檢定書ノ一通ハ官衙長官ヨリ之ヲ陸軍大臣ニ呈出スヘシ

第三十條 中「受拂計算表」ヲ「受拂計算書 陸軍簿記規程第三條第十九條」ニ改ム

第三十條ノ二 現金前渡ヲ受ケタル官吏仕拂計算書ヲ提出後過誤拂不足拂アルコトヲ發見シタ

ルトキハ其自覺報告表陸軍簿表規程第
二條第二十一ヲ調製シ仕拂命令官ヲ經テ會計検査院ニ報告スヘシ

第八章 雜則

第三十一條ノ二 各官衙各所ニ於テ經費ノ支出上誰欺ノ事實アルコトヲ發見シタルトキハ當該官衙各所ノ長官ハ第二十九條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十一條ノ三 各官衙各所ニ於テハ定額簿陸軍簿表規程
第三條第七ヲ備ヘ仕拂豫算ノ現況ヲ明ニスヘシ

第三十一條ノ四 陸軍監督部長又ハ經理部長ハ所管內各所ノ十月一日ニ於ケル委任經理積立金現在高報告表陸軍簿表規程第
三條第二十三ヲ調製シ毎年十月三十一日迄ニ陸軍省經理局ニ送付スヘシ

第八章程附則ヲ「附則」ニ改ム

第三十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三十四條 附屬書式ハ之ヲ廢止ス但第六條及第九條ノ書式ハ陸軍簿表規程實施迄從前ノ規定ニ依ル

○陸軍第三十一號

明治二十七年陸軍第七十號臨時費支出及進理規程中左ノ通改正シ明治三十五年度分ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年三月二十五日

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第一條 戰時若ハ事變ニ際シ必要ナル經費ノ仕拂命令官ハ陸軍監督部長トシ其收支計算ニ關スル事務ハ臨時陸軍中央金庫部長臨時陸軍中央金庫部ヲ開設セサ
ラシテ之ヲ掌ラシム但シ臨時召集諸費ハ陸軍召集諸費支出規程ニ依ル

仕拂命令ノ委任ハ臨時令遵スル仕拂豫算書ニ依ル

第二條 第一號及第三號中「當該」ノ下「監督」ヲ「經理」ニ改ム

第六條中「官給傳票」ニ照シテ「陸軍省主任局長ノ通報」ニ照シニ改ム

第十二條中順序ヲ經テ陸軍省ニ届ケ出ツヘシヲ「當該部長ヨリ仕拂命令官ニ通報スヘシ」ニ改ム

第十四條ニ左ノ但シ書ヲ加フ

但シ金庫所在地ニ在リテハ當該部長ノ許可ヲ受ケ該現金ヲ其地ノ金庫ニ委託スルコトヲ得

第二十六條但シ書中「附表」以下ヲ「臨時費受拂計算書陸軍簿表規程第
二條第二十一以下」ニ改ム

第二十七條以下「受拂計算表」ヲ「臨時費受拂計算書」ニ改ム

第三十條中「經理局主任課長」ヲ「陸軍監督部長」ニ「送付」ノ下「スヘシ」ヲ「陸軍監督部長」ハ之ヲ主任收入官吏ニ下付スヘシニ改ム

附屬書式ハ之ヲ廢止ス

○陸軍第三十二號

明治三十四年陸軍第二十號陸軍省所管出納官吏身元保證金取扱規程中左ノ通改正シ明治三十五年

四月一日ヨリ之ヲ施行ス

陸軍大臣男爵兒玉源太郎

第一條 第一項ヲ左ノ如ク改ム

出納官吏ノ所屬長ハ該官吏ノ任免異動ニ際シ身元保證金報告書陸軍簿表規程第
二十三ニ準シテ調製シ仕拂命令官ニ送付スヘシ

第二條中「第一號書式ニ依リ」ヲ「身元保證金報告書」ニ改メ「陸軍簿表規程」第二十三條ニ依リ「報告スヘシ」ヲ「送付スヘシ」ニ改メ

第三條中「第二號書式」ノ「身元保證金」ニ改メ「納付證書」ノ下ニ「陸軍簿表規程」第三十五條ヲ加フ

第四條中「第三號書式」ノ「請求書」ノ下ニ「陸軍簿表規程」第三十六條及「通及第四號書式」ノ「設定證書」ノ下ニ「陸軍簿表規程」第三十七條ヲ加ヘ「通」ヲ削ル

第六條中「第五號書式」ノ「有價證券」ニ改メ「質權設定證書」ノ下ニ「陸軍簿表規程」第三十八條ヲ加フ

第九條中「第六號書式」ノ「身元保證金」ニ改メ「納付證書」ノ下ニ「陸軍簿表規程」第三十九條ヲ加フ

第十條中「第七號書式」ヲ「其」ニ改メ「願書」ノ下ニ「陸軍簿表規程」第四十條ヲ加フ

第十一條中「第八號書式」ヲ削リ「引受證書」ノ下ニ「陸軍簿表規程」第四十一條ヲ加ヘ「第九號書式」ニ依リ「其」ヲ保證人通知書」ニ改メ「陸軍簿表規程」第四十二條ヲ加フ

第十二條中「第十號書式」ヲ「其」ニ改メ「請求書」ノ下ニ「陸軍簿表規程」第四十三條ヲ加フ

第十三條中「第十一號書式」ヲ「其」ニ改メ「請求書」ノ下ニ「陸軍簿表規程」第四十四條ヲ加ヘ「第十二號書式」ヲ「身元保證金」ニ改メ「引受證書」ノ下ニ「陸軍簿表規程」第四十五條ヲ加フ

第十六條中「第十三號書式」ヲ「出納官吏」ヲ削リ「帳簿」ヲ「簿」ニ改メ「陸軍簿表規程」第四十五條ニ改メ

第十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十八條 附屬書式ハ之ヲ廢止ス但シ第一條乃至第四條、第六條、第九條乃至第十三條及第十六條ノ書式ハ陸軍簿表規程實施迄從前ノ規定ニ依ル

○陸軍第三十三號

明治三十五年度中備成病院條例第七條ノ定額ハ一日金拾四錢六厘同條例第九條ノ定額ハ一日金三

錢一厘屯田兵移住給與規則第十六條ノ代價及明治二十五年陸軍第二十六號ノ定額ハ一日金三錢三厘七毫未滿ノ者ハ金一錢七厘トス

明治三十五年三月二十六日

陸軍大臣 野澤 元 源 太郎

〔參照〕

勅令第二十七號衛戍病院條例(明治三十一年二月二十一日官報)抄錄

第七條 入院患者ノ治療ニ關スル諸費ハ病院ノ支拂トス但准士官以上ノ特別醫官及自費服役ノ一年志願兵並軍屬ニシテ其ノ傷疾疾病公務ニ起因セサル者ハ其ノ定額ヲ納付セシム

第九條 營外居住タル軍人軍屬ノ患者ハ入院費ニ關スル者ノ外衛戍病院ヨリ藥物用品ヲ與フルコトナシト雖モ土地ノ情況又ハ救急處置等ノ爲メ止テ得サル場合ニ限り軍醫ノ處方ニ據リ之ヲ與フルコトヲ得但シ其ノ傷疾疾病公務ニ起因セサル者ハ代價ノ定額ヲ納付セシム

勅令第九十六號屯田兵移住給與規則(明治二十七年七月十二日官報)抄錄

第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ醫劑等ハ屯田兵移住後給三箇年間ハ之ヲ官給シ爾後現役期限滿ツル迄ハ限メ定ムル所ノ代價ヲ徴收シテ之ヲ付與スルコトヲ得

陸軍第二十六號(明治三十五年三月三十一日)

北海道ニ於テ陸軍中野地方又ハ釧路アルモ止ムテ得サル場合ニ當リ官費治療ヲ受ケサル軍人軍屬及其家族ニシテ軍醫ノ處方ヲ以テ醫劑等ヲ特ニ請求シタルトキハ屯田兵部隊ノ醫室ヨリ之ヲ與フルコトヲ得但シ軍人軍屬ノ傷疾疾病公務ニ起因スルコトヲ證明スルモノ、他ハ其定額ヲ納付セシム

○陸軍第三十四號

明治二十六年陸軍第六百六號中左ノ通改正ス

明治三十五年三月三十一日

陸軍大臣 寺內 正 毅

「陸軍監獄看守長及看守服裝規則」ヲ「陸軍監獄看守長看守及陸軍看守服裝規則」ニ改ム

第一條中「看守長及看守」ヲ「看守長看守及看守」ニ改ム

附則

本達ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
○陸軍第三十五號
明治二十六年陸軍第七號中左ノ通改正ス

明治三十五年三月三十一日

陸軍大臣寺内正毅

「陸軍監獄看守及陸軍備人被服給與規則」ヲ「陸軍監獄看守陸軍警守及陸軍備人被服給與規則」ニ改ム
第一條及第二條中「陸軍監獄看守」ノ下ニ「陸軍警守」ヲ加フ
第四條中「陸軍監獄ニ於テ看守ヲ甲乙轉用シ若クハ陸軍軍隊官衙學校ニ於テ看守病人ヲ轉屬セシムルヲ」
第一條及第二條中「看守欄内ニ警守」ヲ加フ
第二條備考二「中陸軍監獄看守」ノ下ニ「陸軍警守」ヲ加フ

附則

本達ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○陸軍第三十六號

清國駐劄陸軍部隊給與令細則附表第三表ヲ別表ノ通改正ス

明治三十五年三月三十一日

陸軍大臣寺内正毅

(別表)

第三表

品目	給與	携行數		給與區分
		携行數	駐劄地交付數	
薄絨茶褐色夏衣袴	准士官以上高等文官	一組		
同 日 履		一箇		
同 垂 布		一箇		
茶褐色夏衣袴	准士官以上高等文官	二組	一組	
同 日 履	下士官判任文官職員看守病人 工從卒及馬卒代用者	二箇	一箇	
同 垂 布	各兵各部下士官看守病人工 從卒及馬卒代用者	一組	一箇	駐劄地ニ於ケル返納品ヲ 以テ充ツルモノトス
綈 衣 袴	看守病人工從卒及馬卒代用者	一箇		
外 袴		一箇		
外 袴	准士官以上	一箇		二箇年間着用ノ後實際ノ 損破ニ依リ換給ス
毛布製外袴一式	准士官以上下士官判任文官職員 看守病人工從卒及馬卒代用	一箇		三箇年間着用ノ後實際ノ 損破ニ依リ換給ス
混紡メリヤス襪袴袴下	各兵各部下士官看守病人工	二組	二組	毎年十一月ニ於テ二組ヲ 給ス
混紡メリヤス襪下	各兵各部下士官看守病人工	十組	十組	十一月ヨリ三月迄毎月二 組ヲ給ス
※小被服巻	各兵各部下士官看守病人工	一箇		
防塵用毛皮	准士官以上下士官判任文官職員 看守病人工	一箇	一箇	二箇年間着用ノ後實際ノ 損破ニ依リ換給ス
麻 脚 絆	看守病人工	一組		
短 靴	看守病人工從卒及馬卒代用者	二組		

考備 本表中准士官以上下士官卒ノ衣ニハ肩章ヲ附ス

○海軍省達第二十三號

明治三十年達第五十四號守備備人被服規則中左ノ通改正ス

但當分ノ内從前ノ被服ヲ混用スルコトヲ得

明治三十五年三月三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

守備備人服制表中職名欄印刷工ノ次兵器丁倉庫丁ヲ削リ電話丁ノ次へ兵器丁倉庫丁ヲ加へ使丁以下帽ノ地質及製式ノ欄兵器丁已下ニ同シヲ大工已下ニ同シニ改ム

同備考中兵器丁ヲ削ル

同製式圖中兵器丁已下常服法被及雨衣ノ兵器丁倉庫丁ヲ削リ守備已下常服及使丁已下雨衣ノ

電話丁ノ次へ兵器丁倉庫丁ヲ加フ

○海軍省達第二十四號

水雷艦機關日誌別冊ノ通定ム

但明治三十五年四月ヨリ施行スヘシ

明治三十五年三月四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

別冊ハ必要ノ向ヘ海軍艦政本部ヨリ配賦ス (別冊略ス)

○海軍省達第二十五號

明治三十年達第四百十七號ヲ廢ス

明治三十五年三月四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治三十年ハ功ニ海軍省達第四百十七號ハ水雷艦機關日誌機關月報機關半年報制定ノ件ナリ

○海軍省達第二十六號

軍艦機關日誌別冊ノ通定ム

但明治三十五年四月ヨリ施行スヘシ

明治三十五年三月四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

別冊ハ必要ノ向ヘ海軍艦政本部ヨリ配賦ス (別冊略ス)

○海軍省達第二十七號

明治三十年達第七十一號ヲ廢ス

明治三十五年三月四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治三十年ハ功ニ海軍省達第七十一號ハ軍艦機關日誌機關月報機關半年報制定ノ件ナリ

○海軍省達第二十八號

明治三十五年達第十三號中「度量」ノ下總テ「衡」ノ字ヲ加フ

明治三十五年三月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治三十五年ニハ海軍省達第十三號ハ海軍ニ於テ用フル度量法改正ノ件ナリ

○海軍省達第二十九號

海軍准士官下士任用進級取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十五年三月十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

兵曹長及其ノ相當官ノ不足數ハ准士官ノ數ノ中ニ包含セシムルモノトス

〔參照〕

海軍省達第七十七號海軍准士官下士任用進級取扱規則(明治二十九年九月十四日)抄録

第一條 艦團其ノ他各部ノ長ハ准士官下士任用進級試験合格ノ後部下ノ一等卒及下士中任用若クハ進級ニ適スル者ヲ撰拔シ准士官下士任用進級取扱名簿ヲ調製シ艦隊ニ屬スルモノハ各其ノ艦隊司令長官ニ其ノ他ハ被拔擢者ノ在籍留守府司令長官ニ進達スルヘシ

第五條第二項

上級ニ缺員アリ其ノ次級ノ候補者ノ數之ヲ補フニ足ラサルトキハ其ノ不足數ヲ順次次級以下ノ任用進級セシムヘキ數ニ加算スルコトヲ得但准士官ノ不足數ヲ一等下士以下ノ任用進級セシムヘキ數ニ加算スル場合ニ在テハ其ノ年四月一日十月一日現在所管ノ艦團部及各屬准士官ノ定員現員ニ基キ算出スルモノトス

第十三條第三項

實務ノ關ニハ日常ノ勤務教練及事業上ニ就キ各自ノ能否ヲ判定シ其ノ狀況通常ナル者ニ七十點以上佳良ナル者ニ八十點以上優等ナル者ニ九十點以上ヲ與フルモノトス但シ全點百點ヲ與フルハ非凡拔群ノ者ニ限ルヘシ

○海軍省達第二十號

海軍卒進級條例第十一條第一項中「四等卒ヲ」五月一日十一月一日現在セシ四等卒」ニ改メ「第十三條ヲ第一條」ニ改ム

明治三十五年三月十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第七十八號海軍卒進級條例(明治二十九年九月十四日)抄録

第十一條 艦團其ノ他各部ノ長ハ三月一日九月一日現在セシ部下二等卒三等卒若クハ四等卒ノ進級試験成績ト實務ノ能否ニ依リ進級セシムルニ適スル者ヲ撰拔シ之ヲ在籍留守府及各兵種管轄ニ區別シテ順序ヲ定メ候補名簿ヲ調製シ候補者ノ員數ヲ各在籍留守府ノ司令長官ニ報告スヘシ但シ實務ノ能否ヲ定ムルハ海軍准士官下士任用進級取扱規則第十三條ニ準スルヘシ

○海軍省達第三十一號

海軍糧食條例第八條ノ食料ハ明治三十五年度間左ノ通定ム

明治三十五年三月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

備考	割増食料	食料				食代價
		外	内	外	内	
清國韓國及亞細亞洲露領沿岸ハ内國額ニ依ル	外	外	内	外	内	一食代價
	額十	額八	額十二	額七	額六	皿
	額五	額二	額一	額五	額六	皿
		額三	額三	額三	額三	皿
		額	額	額	額	皿

○海軍省達第三十二號

糧食經理規程第六條ニ依リ適宜ノ糧食ヲ給與スル場合ノ最上限金額ハ明治三十五年度間左ノ通定

明治三十五年三月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

食	別		食代價
	内	外	
食	七	十	一食代價
額	額	額	額
額	額	額	額

鹽	一貫匁	二〇〇	二〇〇	〇九〇	一〇〇	一〇〇	〇九〇	〇九〇	一七〇	一六〇
凝 脂	同	一〇九〇	一一八〇	一〇〇〇	一一八〇	一一八〇	一一八〇	一〇九〇	一一九〇	一〇五〇
火酒	燒 酎 一 升	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇	七〇〇

備考

- 一 本表記載外ノ諸外國ニ在テハ時價ヲ以テ購買スルモノトス
- 二 本表ノ代價ヲ以テ購買シ能ハサルトキハ一割増以内ノ代價ヲ以テ購買スルコトヲ得但シ艦隊所屬ノ艦船ニシテ艦隊主計長其ノ地ニ在ルトキハ其ノ承認ヲ受クヘシ
- 三 前項ニ依リ割増購買ヲ爲シタルトキハ其ノ品名代價ヲ在籍鎮守府經理部長ヲ經テ經理局長ヘ報告シ艦隊所屬ノ艦船ハ同時ニ艦隊主計長ニ報告スヘシ

○海軍省達第三十四號

明治二十七年達第三十三號艦團部隊金錢出納規程中左ノ通改正ス

明治三十五年三月十七日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條第二項中「金庫ヨリ」トアル四字ヲ刪ル

第五條ヲ左ノ通り改ム

主計長ハ前渡金受入ノ外現金ノ受入ヲ爲ストキハ第二號書式ノ受入傳票ヲ調製シ所轄長ノ檢印ヲ受ケ受入ノ手續ヲ爲スヘシ

但歲入金ニ在テハ同時ニ歲入歳出取扱規程第二十條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條第二項中「調製シ」トアル下ニ「其月ノ現計書ト共ニ之ヲ」ノ十一字ヲ加フ

第九條中第二ヲ左ノ通り改ム

二 當該委任仕拂命令官所在地外ニ於テハ第六號書式ノ二ノ振換納金請求書ヲ調製シ之ニ現金

ヲ添ヘ最寄金庫ヘ拂込シ其振換證書ヲ受ケタルトキハ之レニ第七號書式ノ返納票ヲ添ヘ當該委任仕拂命令官ニ送付スヘシ

(書式中改正アリ略ス)

○海軍省達第三十五號

糧食經理規程中左ノ通改正ス

本達ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行ス

明治三十五年三月十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二十五條中「當該」ヲ「該請負人」ヲ置キタルニ改ム

第二十八條ノ二 兵備品會計官吏他鎮守府在籍ノ艦船ニ糧食品ヲ供給シタルトキハ糧食品供給月報ヲ調製シ請負人ヨリ供給ニ係ルモノハ其ノ月末日迄ニ到達シタル糧食取扱主任ノ領收票寫ヲ添ヘ翌月五日迄ニ該艦船在籍鎮守府兵備品會計官吏ニ送付スヘシ

糧食品検査證書書式ノ次ニ左ノ書式ヲ追加ス

明治何年度何年何月分糧食品供給月報

品名	種類	生 麵 包		白 米		麥 何		金額合計
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	
軍艦松島								
軍艦高千穂								
同 何								
各地購買人其ノ他ヨリ供給商別								
紙領收票寫ノ通								

可ヲ受ケタル後チ其ノ式場ニ參列スヘキ諸官ニ通知スルモノトス

第二條 式場ノ設備ハ別紙圖例ニ依ルヘシ但シ必要ナルトキハ適宜之ヲ變更スルコトヲ得

第三條 證書受領ノ手續ハ左ノ諸號ニ依ル(圖例參看)

一 證書受領者ハ指名ニ應シ列ノ中央前(イ)ニ出テ正面ニテ停止シ玉座(御座)ニ對シ第一回ノ敬禮ヲ行フ

二 玉座(御座)ノ六步前(ロ)ニ進ミ玉座(御座)ニ對シ第二回ノ敬禮ヲ行フ

三 三步後退シテ(ハ)ノ所ニテ玉座(御座)ニ對シ第三回ノ敬禮ヲ行フ

四 側面ニ轉シ校長ノ六步前(ニ)ニ進ミ敬禮ヲ行フ

五 卓前ニ進ミ右手ヲ以テ證書ヲ受領シ左手ヲ副テ披見シ直ニ之ヲ左手ニ移シ三步後退シテ

(ホ)ノ所ニテ再ヒ敬禮ヲ行フ

六 側面ニ轉シ證書預所ニ至リ後チ新整列位置ニ就ク

第四條 御下賜品拜受ノ手續ハ左ノ諸號ニ依ル(圖例參看)

一 前條第一號第二號ノ事ヲ行フ

二 側面ニ轉シ御下賜品奉授者(通常侍從武官)ノ六步前(ヘ)ニ進ミ敬禮ヲ行フ

三 卓前ニ進ミ兩手ヲ以テ御下賜品ヲ奉戴シ之ヲ胸前水平ノ位置ニ保持ス

四 轉回シテ再ヒ敬禮點(ロ)ニ進ミ正面ニテ玉座(御座)ニ對シ第三回ノ敬禮ヲ行フ

五 三步後退シ(ハ)ノ所ニテ轉回シテ御下賜品預所ニ至リ後チ定位位置ニ復ス

第五條 臨御若ハ皇族ノ御臨場ナキトキハ玉座(御座)ノ位置ニ海軍大臣若ハ所屬長官ノ席ヲ設ク

ヘシ此ノ場合ニ於テ證書(御下賜品)受領者ハ其ノ六步前ニ至リ一回敬禮ヲ行ヒタル後チ第三條(第四條)ニ準シ證書(御下賜品)ヲ受領シ直ニ其ノ預所ニ至ルモノトス

第六條 各練習所海兵團病院ニ於ケル證書證狀及御下賜品授與式ハ前諸條ニ準シ施行スヘシ但シ特ニ認可ヲ受ケヘキ規定アル場合ノ外ハ十日日前其ノ所屬長官ニ届出ツヘシ

其ノ他ノ場合ニ於ケル證書賞品徽章等授與式モ亦第二條乃至第五條ニ準シ施行スヘシ

本條ノ授與式ニ於テハ御下賜品拜受ノ場合ヲ除ク外適宜總代者ヲシテ受領セシムルコトヲ得

第七條 各學校練習所海兵團病院ニ於テ卒業證書證狀ヲ授與スルトキハ左ノ諸官其ノ式場ニ參列スルモノトス

一 海軍大學校

海軍大臣 軍令部長 教育本部長 軍務局長 砲術練習所長 將校學生卒業

水雷術練習所長 將校學生卒業 機關學校長 機關學生卒業

二 海軍軍醫學校

海軍大臣 教育本部長 軍務局長 醫務局長 大學校長

三 海軍兵學校

海軍大臣 吳鎮守府司令長官 教育本部長 軍務局長

四 海軍機關學校

海軍大臣 橫須賀鎮守府司令長官 教育本部長 軍務局長

五 海軍砲術練習所

海軍大臣 士官以上卒業 橫須賀鎮守府司令長官 士官以上卒業 教育本部長 軍務

○海軍省達第四十號

明治三十年達第百七十二號ヲ廢ス

明治三十五年三月二十四日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔参照〕

明治三十年十一月海軍省達第百七十二號ハ本業證書照狀等授與ノトキ式場列席員ノ件ナリ

○海軍省達第四十一號

明治三十年達第百一號歳入歳出取扱規程中左ノ通改正ス

明治三十五年三月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第五條第一項中「毎月」ノ下ニ「末」ヲ加ヘ第二項中「俸給及諸給」ヲ「各項」ニ改ム

第六條中「其ノ都度」ヲ削リ此場合ニ於テハ「ノ下」ニ「毎月末」ヲ加フ

第十四條ヲ左ノ通改正ス

歳入歳收官其ノ所管收入ノ納入金庫出納區域外ニアルトキハ適宜納入金庫ヲ指定シ其ノ收入ヲ徴收シ又金庫出納區域外ノ金庫ノ保管證書ヲ以テ納付セル契約保證金ヲ官ノ所得トシ收入スル場合ハ保管物取扱規程第十四條第一項ニ依リ其ノ保管スル金庫ニ對シ歳入トシテ拂込ノ手續ヲ爲シ徴收スヘシ

第二十條第二項中「金庫」ノ上ニ「其ノ所在地」ヲ加ヘ又以下ヲ削ル

第二十一條中「租稅外」ヲ削リ「現金出納」ヲ「收入」ニ改ム

第二十三條中「租稅外」ヲ削リ「第六條」ヲ「第七條」ニ改ム

第二十九條中「對スル」ヲ「對シ」第十一號書式ノ「ニ改ム

第三十八條第三項中「及十二月分」ヲ削ル

第四十二條第四十三條第五十四條中「現金前渡金」ノ五字ヲ削ル

第四十五條第二項中「ヲ作リ」ノ下ニ「詳細ノ事由」ヲ記入シ「ヲ加フ

第五十三條中「艦團隊」ヲ「艦團部隊」ト改メ第一項中「爲換納金領收」ヲ「振換」ニ改ム

第五十六條中第二項ヲ左ノ通改ム

委任仕拂命令官ハ翌年度六月三十日ニ於テ終リタル前年度ニ屬スル歳出簿ノ結果ニ據リ經費決算額明細書ヲ作り翌年度八月三十一日マテニ經理局長ニ送付スヘシ但經費決算額明細書様式ハ經理局長ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第五十七條中「各計算書」ヲ「書類」ニ改ム

第六十二條中「軍港内」ノ下（無効ハ）「ノ割註」ヲ削リ「新原」ヲ「海軍」ニ改ム

書式

第七號書式中「割印」ヲ削リ第十一號書式ヲ別紙ノ通定メ第二十五號書式ヲ廢ス（別紙略ス）

○海軍省達第四十二號

海軍省處務規程第七條別表ヲ左ノ通改正シ明治三十五年三月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年三月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

總務局	七	録事	技手
軍務局	六		
人事局	八		

醫務局	四		
經理局	三十五		
司法局		三	
			一
			三

〔參照〕

海軍省第五十六號海軍省總務規程(明治三十四年五月十四日)抄錄
第七條 各局ニ屬シテ事務及技手ヲ配置スルコト別表ノ如シ
(別表)

總務局	八	屬	錄	事	技	手
軍務局	七					
人事局	十					
醫務局	五					二
經理局	四十二					五
司法局			三			

○海軍省第四十三號

海軍監獄書記同看守長同看守配置表中舞鶴海軍監獄ノ欄監獄看守ノ部「十」ヲ「十一」ニ改ム
本達ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年三月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省第四十四號

艦團部需用品定額表中左ノ通追加ス (追加略ス)

明治三十五年三月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省第四十五號

海軍艦政本部處務規程中左ノ通改正ス

明治三十五年三月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第九條中三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ四號以下順次繰下ク

〔參照〕

海軍省第五十八號海軍艦政本部處務規程(明治三十四年五月十四日)抄錄
第九條 第二部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

○海軍省第四十六號

明治三十四年連第四十九號造船、造兵材料資金取扱規程ヲ海軍造兵、造船材料資金取扱規程トシテ同
規程中左ノ通改正シ明治三十五年度ヨリ施行ス

明治三十五年三月二十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二十二條二項中第六條「トアル」ヲ「第四條第二」ト改メ「更定」トアルヲ「令示」ト改ム

第三十八條ヲ左ノ通改ム

鎮守府所在地ノ各廳長ハ此規程ニ據リ豫算ノ令示ヲ受ケタルトキハ當該鎮守府經理部長ニ回示
シ又經理局ヘ送付スル書類ハ當該鎮守府經理部ヲ經由シ經理部長ハ之ヲ調査シ意見ヲ附シテ經
理局長ニ送付スヘシ

規程中「造船及造兵」トアルヲ「造兵及造船」ニ改ム

(書式中改正アリ略ス)

○陸軍第三十七號
臺灣島及澎湖島駐紮陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

第三十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ
第三十二條 陸軍警守ノ給與ハ陸軍監獄看守ニ同シ

○陸軍第三十八號

委託検査ニ係ル金銀物品出納證明及検査規程左ノ通定ム

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

委託検査ニ係ル金銀物品出納證明及検査規程

第一章 總則

第一條 委託ニ係ル金銀物品ノ出納證明及検査ノ方法ハ本規程ニ依ルヘシ但シ本規程ニ定メサルモノハ一般ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 會計法第二十六條第二十七條會計規則第八十四條第八十五條第八十八條第八十九條第九十八條ノ二第百條物品會計規則第九條第十五條第十六條第十八條及第十九條會計規則第百二條ノ件ヲ除ク中本閣大臣又ハ各省大臣トアルハ當該長官會計検査院トアルハ陸軍監督部長又ハ經理部長トス

第二章 證明

第三條 出納官吏ハ受託検査官ノ検査判決ヲ受クル爲計算書委任經理ニ係ル金銀ニ在リテハ陸軍製シ證明ノ手續ヲ爲スヘシ

明治三十五年四月 陸軍省陸軍第三十七號 陸軍第三十八號 委託検査ニ係ル金銀物品出納證明及検査規程 八七

委任經理ニ係ル金銀物品ノ出納ニ關シ検査上便宜トスルトキハ受託検査官ニ於テ毎月若ハ數月分ノ計算ヲ證明セシムルコトヲ得

第四條 物品會計官吏物品出納簿表規程第二條第九乃至第十二以下條之ヲ計簿ニ充テ證明セムトスルトキハ帳簿ノ末尾ニ出納計算ノ確實ヲ證明シ署名捺印スヘシ

前項ノ證明ハ物品出納簿ニ委託検査以外ノ物品出納ヲ記入セサル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第五條 出納官吏交替ノトキ若ハ代理官ヲ命セラレタルトキハ當該出納官吏ノ出納ヲ通セル計算書又ハ物品出納簿ニ前任者後任者又ハ代理官連署シテ證明スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ各出納官吏ノ管理期ヲ明記シ證憑書類ヲ各管理期ニ區分シテ整理スヘシ

連帶責任ニ非ラサル金銀ノ出納又ハ委任經理ニアラサル金銀ノ出納ニ係ルモノハ前項ノ限ニ在ラズ

第三章 検査

第六條 受託検査官ニ於テ審査上不明ノ事項アルトキハ口頭ヲ以テ推問シ後證ヲ要スルモノハ審理書ヲ發シテ辨明又ハ正誤セシムルコトヲ得

前項ノ審理書ノ往復ハ當該長官ヲ經由スヘシ

第七條 受託検査官出納命令ニ對シ不當ト檢定シタルトキハ之ヲ當該長官ニ通牒シ事ノ重大ナルモノハ尙陸軍大臣ニ稟申スヘシ

第八條 受託検査官ハ出納官吏ノ計算書ヲ検査シ辨償責任アリト判決シタルトキハ判決書表規程第二條第二十ヲ添ヘ當該長官ニ其ノ處分ヲ要求スルコトヲ得第三十一條第一項ニ依リ判決シタルトキハ會計法第二十七條ニ依リ特ニ證明シタル場合ニ限り判決書ヲ添ヘ之ヲ當該長官ニ通知スルコトヲ得

規程第三條第三十二ニモハレ但シ當該長官ニ於テ判決前辨償ヲ命シタルモノハ責任ノ有無ニ拘ラズ判決書ヲ添ヘ之ヲ當該長官ニ通報スヘシ

第九條 受託検査官出納官吏ノ證明ニ對シ全部正當ト判決シタルトキハ一管理期若ハ一年度分ヲ通シタル認可狀ヲ交付スヘシ

受託検査官ノ判決ニ對シ當該長官出納官吏ノ辨償責任ニ關スル處分ヲ完了シタルトキモ亦前項ニ同シ

第十條 受託検査官第八條ニ依リ判決書ヲ發シタルトキハ其ノ謄本ヲ添ヘ大藏大臣ニ申報スルコトヲ得

第四章 再審

第十一條 出納官吏會計検査院法第二十四條ニ依リ再審ヲ求ムトスルトキハ其ノ事實ヲ詳記シタル申報書ニ關係書類ヲ添付シ當該長官及受託検査官ヲ經テ會計検査院ニ提出スヘシ

第十二條 受託検査官前條ノ書類ヲ受ケタルトキ若ハ再審ヲ要スヘキ事項アルコトヲ發見シタルトキハ委託検査取扱順序第三號ノ手續ヲ爲スヘシ

第五章 雜則

第十三條 出納官吏ノ所屬長官會計規則第八十八條ニ依リ辨償ヲ命シタルトキハ順序ヲ經テ之ヲ陸軍大臣ニ報告シ又受託検査官ニ通報スヘシ

第十四條 出納官吏ニ對スル辨償責任ノ處分ヲ完了シタルトキハ當該長官ヨリ之ヲ受託検査官ニ通報スヘシ

附則

第十五條 明治二十四年陸軍第三百三十號及明治三十二年陸軍第六十一號ハ之ヲ廢止ス
第十六條 本規程ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

明治二十四年八月十日陸軍第三百三十號ハ委任經理ニ係ル會計ノ検査及證明手續書同三十二年十月二日陸軍第六十一號ハ軍隊官衙學校其他ニ於ケル物品出納計算ノ検査及證明手續ナリ

○陸軍第三十九號

會計法第十五條第二項ニ依リ現金ノ前渡ヲ要スル場合ニ於テ現金前渡ヲ受クル官吏ニ關スル規程左ノ通定メ明治三十五年度分ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年陸軍第十三號ハ明治三十四年度分限リ之ヲ廢止ス

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

第一條 仕拂命令官ノ下ニ一名ノ主任現金前渡官吏及其ノ所管軍隊附屬大隊官衙學校ニ各一名ノ分任現金前渡官吏ヲ置ク

第二條 必要アルトキハ分任現金前渡官吏ノ下ニ分任官ヲ置クコトヲ得

第三條 主任現金前渡官吏ハ師團及臺灣陸軍經理部ニ在リテハ部員タル副監督共ノ他ニ在リテハ附屬上等計手ヲ以テ充ツ但シ上等計手附屬セサルトキハ當該長官之ヲ定ム

分任現金前渡官吏及分任官ハ附屬上等計手ヲ以テシ上等計手附屬セサルトキハ當該長官之ヲ定ム

第四條 前各條ノ外臨時必要ノ場合ニハ別ニ現金前渡官吏ヲ置クコトヲ得

第五條 本規程ノ出納官吏ハ當該長官之ヲ命ス

〔參照〕

明治三十二年四月十日陸軍第十三號ハ會計法ニ依リ當時現金前渡ヲ受クヘキ資格ヲ有スル官吏ノ件ナリ

○陸軍第四十號

軍隊內務書中左ノ通改正セラル (改正略ス)

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第四十一號

陸軍工事請負及物件購買規程左ノ通相定ム

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

陸軍工事請負及物件購買規程

第一條 師團及臺灣陸軍軍隊官衙所要物件ノ購買、修理、製作等並師管及臺灣內陸軍營繕事項及國防業務ニ係ル契約ハ當該經理部長之ヲ擔任スヘシ但シ會計法第二十四條第七號ノ場合ニ在リテ工事及糧米、馬糧ニ係ルモノヲ除ク外ハ當該軍隊官衙長其ノ契約ヲ擔任スルモノトス

前項ノ軍隊官衙ニ於ケル委任經理ニ屬スル物件ノ購買、修理、製作等ニシテ其ノ費額前項但書ノ範圍ヲ超過スル見込アルモノハ當該長官其ノ契約ヲ經理部長ニ委託スヘシ

第二條 前條以外ノ軍隊官衙學校ニ於テ所要物件ノ購買、修理、製作等ニ係ル契約ハ當該長官之ヲ擔任スヘシ

第三條 會計法第二十四條第四號ニ依リ隨意契約ニ依ルコトヲ得ル物品左ノ如シ

一 銃砲及彈藥ノ製造ニ要スル特殊ノ性質又ハ特別使用ノ目的アル材料、石炭及コークス

二 火藥ノ製造及火具ニ要スル特殊ノ性質又ハ特別使用ノ目的アル材料

- 三 馬具ノ製造ニ要スル特殊ノ性質又ハ特別使用ノ目的アル皮革及麻具
- 四 溶解爐用耐火煉瓦及掛塙ニシテ製造場所ニ限リアルトキ
- 五 銃砲及火藥製造ニ要スル特殊ノ性質又ハ特別使用ノ目的アル工具
- 六 軍馬ニ要スル干草及蹄鐵
- 七 服用糧食品製造材料ニシテ特殊ノ性質又ハ特別使用ノ目的アル諸品
- 八 被服給與品ニシテ特殊ノ性質又ハ特別使用ノ目的アル諸品
- 九 絨製造ニ要スル特殊ノ性質又ハ特別使用ノ目的アル羊毛染料及油類
- 十 歩工兵科ニ屬スル器具及材料ニシテ特殊ノ性質又ハ特別使用ノ目的アルモノ
- 第四條 糧米、馬糧供給請負ノ契約ニ於テハ、契約擔任官ハ供給者ヲシテ豫備トシテ左ノ現品ヲ所要ノ地ヨリ三里以内ニ貯藏セシメ、部下職員ヲシテ時々其ノ貯藏ノ有無ヲ検査セシムヘシ
- 一 精米及大麥ハ一箇月需用高ノ十分ノ三以上但シ精米ニ代ヘ玄米ヲ貯藏セシムルコトヲ得
- 二 干草ハ一箇月需用高ノ二分ノ一以上藁ハ一箇月四分ノ一以上
- 第五條 契約擔任官ハ標本ヲ定メテ物件ノ購買、修理、製作等ノ契約ヲ爲シ必要アルトキハ供給者ヲシテ更ニ同一ノ標本ヲ出シシムヘシ
- 契約擔任官ニ於テ物件ノ供給者ヲシテ物件ヲ需用スル軍隊官衙學校ニ直接納付セシムルノ必要アルトキハ契約書ノ寫ニ標本ヲ添ヘ當該軍隊官衙學校ニ送付シ検査ノ上受領セシムルコトヲ得
- 第六條 師團及臺灣陸軍軍隊官衙ハ其ノ所要糧米、馬糧ノ需用高ヲ概算シテ豫メ當該經理部ニ請求シ經理部長ハ之ニヨリテ購買ヲ爲シ實際ノ需用ニ臨ミ當該軍隊官衙ヲシテ時々ノ所要額ヲ受領セシムヘシ但シ演習行軍等ノ際出張地ニ於テ所要ノ糧米、馬糧ハ當該軍隊官衙ニ於テ直接購

買ムルコトヲ得

第七條 被服給與品中左ニ掲グル品種ノ購買契約ハ第一條及第二條ノ規定ニ拘ハラズ被服廠長之ヲ擔任スヘシ

各種絨、厚毛布、各種雲齋、厚織麻布、厚織木綿、軍靴並其ノ材料、水筒及飯盒

第八條 契約擔任官ニ於テ明治三十三年勅令第二百八十號ニ依リ指名競争ニ付シタルモノアルトキハ速ニ其ノ事由ヲ詳具シ陸軍監督部ヲ經テ陸軍大臣ニ報告スヘシ

第九條 物件ノ買却及貸借ニ關シテハ本規程ヲ準用ス

附則

明治二十三年訓令乙第二十八號陸軍工事請負及物品購買手續ハ之ヲ廢止ス

○陸軍第四十二號

明治三十四年陸軍第七十七號陸軍官舎取扱規則附表中左ノ通追加ス

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

一 一等ノ貸渡區分ノ畫ニ 獨立大隊長

二 二等乙ノ貸渡區分ノ畫ニ 二等衛戍病院長

○陸軍第四十三號

明治二十四年陸軍第七十號陸軍部內諸學校軍隊ハ入學及分遣派遣者ニ係ル俸給其他給與方中第三項ヲ左ノ通改正シ明治三十五年度分ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

一 旅費ハ入學及分遣派遣ノトキハ原部隊ニ於テ支給シ復歸事故歸郷ノトキハ當該校隊ニ於テ支給

スヘレ但レ陸軍大學校學生候補者再審査監督學生及監督講習生本試験ノ爲滞在中ノ日當ハ原部隊ニ於テ支給スヘレ

○陸軍第四十四號

陸軍物品會計規程別冊ノ通改正ス

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

(別冊)

陸軍物品會計規程

第一條 本規程ニ於テ物品ト稱スルハ物品會計規則ノ規定ニ依ルモノヲ云フ
第二條 物品ノ出納命令ハ左ノ諸官之ヲナスヘレ

- 一 陸軍省ニ在リテハ 總務局庶務課長
- 一 參謀本部ニ在リテハ 參謀部長
- 一 教育總監部及都督部ニ在リテハ 參謀部長
- 一 師團司令部ニ在リテハ 經理部長
- 一 其ノ他ノ部隊ニ在リテハ 當該部隊長

前項ノ命令官ハ其ノ命令ヲ部下ノ官吏ニ委任スルコトヲ得

第三條 物品會計官吏ハ物品出納ノ命令官ヲ兼スルコトヲ得ス

第四條 物品會計官吏及其ノ代理官若ハ分任官ハ當該部隊長其ノ所屬官吏ニ之ヲ命スヘレ

物品會計規則第十三條ノ立會人及同第十五條第二項但書ノ官吏ニ付キテモ亦前項ニ同レ

第五條 物品會計官吏ハ物品出納簿陸軍省規程第二條第八項委任經理ニ係ル簿物品配與簿陸軍省規程第三條第一項

三ヲ備ヘ物品ノ出納及配付ニ關スル事項ヲ記載スヘレ

物品ノ出納ハ傳票陸軍省規程第三條第十六項領收證書出納命令官ノ決定書ニヨリ之ヲナスヘレ

第六條 物品中各自專用ノモノハ其ノ使用者共用ノモノハ監守者ヲ定メ其ノ監守者之ヲ保管スヘレ

官舎備付ノ物品ハ居住者之ヲ保管スヘレ

前二項ノ保管者ハ物品會計規則第七條ノ例ニ依リ辨償ノ責ニ任スヘレ

第七條 物品會計官吏ハ前條ノ物品ニ付キ其ノ保管者ニ對シ監督ノ責任アルモノトス

第八條 物品會計規則第十五條ノ計算書ハ年度經過後又ハ物品會計官吏交替後二箇月以内ニ物品會計官吏ヨリ當該部隊長ヲ經由シ陸軍省ニ在リテハ總務局庶務課長師團及臺灣ニ在リテハ當該

經理部長其ノ他ニ在リテハ陸軍監督部長ニ提出スヘレ

陸軍省總務局庶務課長、監督部長及經理部長ハ前項ノ計算書ニ付キ下検査ヲ執行シ受領ノ日ヨ

リ一箇月以内ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘレ

第九條 物品會計規則第十條ノ二ノ検査ハ毎年一回之ヲ行フモノトス

第十條 前條及物品會計規則第十一條第十二條ノ検査ハ陸軍省ニ在リテハ總務局庶務課長其ノ他

ニ在リテハ監督部長及經理部長各其ノ監督區域ニ依リ之ヲ行フヘレ但シ時宜ニ依リ當該部隊長

ニ其ノ検査ヲ委任スルコトヲ得

第十一條 物品ノ備付受領修理又ハ交換ヲ要スルトキハ物品取扱主任其ノ品目員數ヲ傳票陸軍省規程

第十三條ニ記入捺印シ所屬長ノ檢印ヲ受ケ物品出納命令官ニ請求スヘレ

第十二條 物品ノ購買ヲ要スルトキハ物品會計官吏ヨリ會計主任官吏ニ請求スヘレ

會計主任官吏ハ所屬長ノ許可ヲ得注文傳票陸軍省規程第三條第十六項現品ト共ニ之ヲ物品會計官吏ニ

交付スヘレ

第十三條 不用トナリタル物品ハ物品取扱主任ヨリ其品目員數ヲ傳票第三條第十六條ニ記入捺印シ所屬長ノ檢印ヲ受ケ現品ト共ニ物品會計官吏ニ返納スヘシ

第十四條 物品中使用ニ堪ヘサルモノ又ハ將來所要ノ目的ナキモノハ各部隊長適宜ノ處分ヲナスヘシ但シ廢品處分ニ關シ別ニ規定アルモノハ其ノ規定ニ依ルヘシ

第十五條 物品ヲ保管轉換セントスルトキハ相互ノ所管長官協同ノ上執行スヘシ

第十六條 政府ノ保管ニ屬スル物品ハ政府所屬ノモノト區別シテ整理スヘシ

第十七條 本規程ノ外物品ニ關スル細則ハ各部隊長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

○陸軍第四十五號

軍隊經理規程左ノ通定ム

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

軍隊經理規程

第一章 總則

第一條 軍隊ノ經理ハ左表ノ區分組織ニ依リ經理委員之ヲ行フヘシ

種別	區分	委員		附屬員
		少佐	首名	
金櫃委員	步兵野戰砲兵 要砲砲兵砲隊	少佐	一名	上等計手
	騎立者ハ分屯セル大隊	大尉	一名	
糧食委員	騎兵野戰砲兵砲隊	大尉	一名	上等計手
	步兵要砲砲兵大隊	中尉	一名	

附屬員ニ在リテハ中(少)計手
 給養馬隊ニ在リテハ右ノ下士

種別	區分	委員		附屬員
		少佐	首名	
救恤委員	步兵騎兵(甲)野戰砲兵	少佐	三名	上等計手
	騎立セル大隊	大尉	一名	

第二條 聯隊長ハ大隊ニ於テ經理ヲ爲スハ所屬經理委員ヲ指揮監督シ委員及附屬員ヲ任免ス

第三條 聯隊長ハ臨時必要ニ際シ第一條ニ定ムル委員ノ數ヲ增加シ又ハ規定外ニ當該兵科ノ下士上等兵ヲ委員ニ附屬セシムルコトヲ得

第四條 首坐ハ事務ヲ整理シ委員尉官ヲ監督ス

第五條 委員尉官ハ附屬員ヲ指揮シ事務ヲ掌リ其ノ管掌ニ屬スル物品ニ付物品會計官吏ノ職務ヲ行フ

第六條 附屬員ハ左ノ事務ニ服ス

一 上等計手ハ計算記簿ニ係ル事務ヲ掌ル

金櫃委員附屬上等計手ハ前項ノ外委員ノ指揮監督ヲ受ケ出納官吏物品會計官吏以下同シノ職務ヲ行フ

二 計手ハ上等計手ヲ補助シ計算記簿其ノ他ノ雜務ニ服ス

三 炊事掛ハ炊事當番卒ヲ指揮シ炊爨事務ヲ掌リ糧食品ノ出納分配貯藏及之ニ關スル記簿等ニ係ル雜務ニ服ス

四 給養掛下士ハ馬糞ノ出納分配貯藏及之ニ關スル記簿等ニ係ル雜務ニ服ス

五 縫靴工長ハ被服工場ノ取締縫靴工卒ノ教育ニ任シ被服品ノ出納分配貯藏等ニ係ル雜務ニ服ス

第七條 前條第一號ノ出納官吏ノ取扱フヘキ現金左ノ如シ

- 一 前渡金
- 二 委任經理ニ屬スル現金
- 三 一年志願兵ノ自辦金
- 四 其ノ他法規上取扱フヘキ官金

第八條 首坐ハ委員ノ事務執行ニ關スル手續ヲ確定シ聯隊長ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 物件ノ賣買、貸借及請負等ニ係ル契約ハ聯隊長之ヲ當該委員首坐ニ委任シテ擔任セシムルコトヲ得

第十條 前條ノ場合ニ於テ賣買、貸借及請負等ニ係ル物件ノ數量、品質、價格供給者ノ選定並納品検査ノ方法ハ委員商議ノ上首坐之ヲ決シ聯隊長ノ認可ヲ受クヘシ但シ日常所要ノ物件ニ係ル場合ニ於テハ聯隊長ハ概括シテ認可ヲ與フルコトヲ得

第十一條 委任經理ニ屬スル定額金ノ請求書ニハ首坐之ニ署名證明シ其ノ他ノ金錢收支ニ關スル證書ニハ首坐之ニ認印シテ金額委員ニ送付スヘシ

第十二條 水火盜難等ニ依リ金錢物品ニ異狀アリタルトキ又ハ仕拂ニ關シ詐欺ノ事實アルコトヲ發見シタルトキハ當該委員ニ於テ直ニ検査シ聯隊長ヨリ速ニ其ノ狀況ヲ所管長官ニ報告シ同時ニ經理部長ニ通報スヘシ

第十三條 經理部長會計ノ検査ヲ終リタルトキハ主要帳簿ノ末尾ニ検査済ノ旨ヲ記シ署名捺印スルモノトス

第十四條 委任經理外ニ屬スル物件ノ經理ハ聯隊長經理委員ニ之ヲ分掌セシムヘシ

第十五條 大隊ヲ成サハル隊ニ在リテハ本規程ニ準シ其ノ經理ヲ行フヘシ

第十六條 經理委員ハ別ニ規定アルモノノ外附表ニ定ムル簿表ヲ備フヘシ

第十七條 聯隊大隊ニ於テ經理ヲ爲スモノハ大隊以下同シニ金櫃ヲ置キ聯隊長ノ定ムル規定ニ從ヒ委員之ヲ管守スヘシ

第十八條 金櫃ハ内函ニ二箇ノ異リタル鑰ヲ備ヘ首坐及出納官吏各其ノ一ヲ保管シ外扉ノ鑰ハ首坐之ヲ保管スヘシ

第十九條 左ノ現金及物件ハ之ヲ金櫃ニ收藏スヘシ

- 一 第七條ニ列記スル現金及之ニ代ルヘキ書類
- 二 出納官吏ノ印章
- 三 引出切符
- 四 保管證書
- 五 現金出納簿他ノ整理ナル函ニ結納スル補助ケナシ

第二十條 前條第一項第一號ノ現金及書類ヲ領收シタルトキハ直ニ之ヲ金櫃ニ收藏スヘシ

第二十一條 金錢ノ出納ニハ聯隊長其ノ命令ヲ發スヘシ但シ日常ノ收支ニ係ル命令ハ之ヲ首坐ニ委任スルコトヲ得

聯隊長又ハ首坐ハ證書ニ檢印シテ前項ノ命令ニ代用スルコトヲ得

第二十二條 金錢ノ仕拂ハ成ルヘク一定ノ期日ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第二十三條 出納官吏現金ノ預ケ入又ハ引出ヲ爲サムトスルトキハ首坐ノ承認ヲ受ケ引出切符ノ原符ニ其ノ認印ヲ受クヘシ

第二十四條 委員中交替アルトキハ前任者後任者其ノ他ノ委員及出納官吏立會ノ上金櫃帳簿ヲ檢査シ試算表適宜ノ位置ニ事務ノ受授ヲ連署證明スヘシ

前任者後任者同時ニ受授スルコト能ハサルトキハ前任者其ノ他ノ委員及出納官吏ト前項ノ檢査及證明ヲ爲シ後任者就職ノトキ更ニ同様ノ手續ヲ爲スヘシ

出納官吏交替ノトキハ一般ノ規定ニ依ルノ外前二項ヲ準用ス

第二十五條 委員ハ毎月最終ノ給料支給日ニ於テ其ノ月ニ仕拂ヒタル下士卒俸給明細表ヲ中隊長ヨリ徴スヘシ

第二十六條 聯隊長ハ少クモ毎月一回金錢ノ現在高及帳簿ヲ檢査シ試算表ニ檢印スヘシ但シ部下金櫃委員タルニ命シテ本文ノ檢査ヲ行ハシムルコトヲ得

第三章 糶秣事務

第二十七條 糶秣ハ毎月需用ノ數量ヲ概算シ首坐署名ノ上前月中ニ經理部ニ請求スヘシ
前項ノ糶秣ハ毎月實食數ニ應シテ定額ヲ以テ決算ノ剩餘アルトキハ之ヲ翌月ニ繰越シ差繼受ト爲スヘシ

第二十八條 賄料及糶秣ノ代金渡ニ係ル金額ハ毎月實食數ニ應シテ決算シ其ノ内譯及事由ヲ明記セル請求書ヲ調製シテ首坐署名ノ上之ヲ金櫃委員ニ送付スヘシ

第二十九條 委員ハ毎月糶米馬糶ノ受拂表及其ノ仕拂明細表ヲ調製シテ經理部ニ送付スヘシ

第三十條 委員ハ毎月糧食諸品決算表及飼養諸品決算表ヲ調製シ委任經理ニ屬スル糶秣ノ決算ヲ爲スヘシ

第三十一條 裝蹄及剔毛ニ係ル經理ハ本章ニ準シ之ヲ行フヘシ

第四章 被服事務

第三十二條 委員ハ毎年被服費ノ定額内ニ於テ現品交付ニ屬スル被服品中當該年度所要ノ品種數量ヲ算定シ聯隊長ヨリ前年度八月一日迄ニ之ヲ經理部長ニ通報スヘシ

前項ノ定額ハ定員及定率年額ニ依リ之ヲ算定スルモノトス

第三十三條 前條ノ現品ハ當該年度ニ至リ需用ニ臨ミ被服地質請求書ヲ調製シ首坐ヨリ之ヲ陸軍被服廠ニ請求スヘシ

第三十四條 被服費定額中金額ヲ以テ交付ヲ受クヘキ分ハ四回ニ分チテ請求書ヲ調製シ首坐署名ノ上之ヲ金櫃委員ニ送付スヘシ

第三十五條 第三十二條第一項ニ依リ算定シタルモノ、外臨時ニ現品交付ニ屬スル被服品ノ需用生シタルトキハ聯隊長ハ經理部長ノ承認ヲ經テ其ノ購買ヲ陸軍被服廠長ニ委託スヘシ

第三十六條 被服ノ製作ハ職工ヲ備役シテ之ヲ爲シ又ハ營業者ニ請負ハシムヘシ

第三十七條 下士以下ニハ漸次左表ノ被服定數ヲ所持セシムヘシ

品目	定數	製		
		第一	第二	第三
前立一箇正裝用				
第二種帽二箇軍裝及常用常				

考	備	青	軍	略	外	夏	秋	冬
一	第二種帽ノ制ナキモノハ第一種帽ヲ以テ軍裝用トス	一箇	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽
二	地方ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ木表ノ員數ヲ増加スルコトヲ得	一箇	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽
三	木表外給與被服品ノ所持定數ハ各隊ニ於テ適宜之ヲ定ムルモノトス	一箇	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽	正裝及軍裝用帽

第三十八條 被服品中帽、衣袴、外資、背蓋及厚毛布ニハ左ノ區分ニ依リ標記ヲ附スヘシ

（附則） 委員ノ検査ヲ終リタル後之ヲ記入ス

製 作 年 月 最期供用スルトキ中隊ニ於テ之ヲ記入ス

供 用 年 月 最期供用スルトキ中隊ニ於テ之ヲ記入ス

中 隊 名 中隊ニ受入レ供用ノ時々之ヲ記入ス

第三十九條 被服品ハ其ノ保存期限ニ拘ハラヌ實際供用シ得ル限り之ヲ使用セシムヘシ

第四十條 委員ハ聯隊長ノ許可ヲ受ケ縫靴工率ヲ聯隊被服工場ニ集メ被服ノ修理ニ従事セシムヘシ

第四十一條 被服補修ノ爲日當所要ノ費用ハ月額ヲ定メ其ノ經理ヲ中隊長ニ分任スルコトヲ得

第四十二條 中隊長ハ中隊ニ係ル被服ノ維持保藏ノコトニ任スヘシ

第四十三條 隨營具及消耗品ニ係ル經理ハ本軍ニ準シ之ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テ日當所要ノ費用ハ月額ヲ定メテ其ノ經理ヲ中隊長ニ分任スルコトヲ得

附 則

第四十四條 明治三十三年陸軍第十六號軍隊經理條例ハ之ヲ廢止ス

第四十五條 本規程ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（附表）

經理委員ノ備フヘキ簿表

甲、金價簿表	乙、糧食簿表
一 總 理 簿 金額ノ收支ヲ整理スルモノニシテ陸軍簿表規程第二條第六ニ依ル	一 糧食品受拂簿 糧食品受拂ノ記録スルモノニシテ陸軍簿表規程第二條第十一ニ依ル
二 賦 算 簿 賦算ノ計算ヲ一自瞭然タラシムルモノニシテ陸軍簿表規程第二條第七ニ依ル	二 馬 糞 受 拂 簿 馬糞ノ受拂ヲ登記スルモノニシテ陸軍簿表規程第二條第十一ニ依ル
三 受 領 證 書 金價ノ現在額ヲ明ニスルモノニシテ陸軍簿表規程第三條第八ニ依ル	三 給 飼 日 計 簿 日々ノ食料受取ヲ登記シ決算ノ用ニ供スルモノニシテ陸軍簿表規程第三條第十四ニ依ル
四 金 價 現 在 簿 金額ノ現在額ヲ明ニスルモノニシテ陸軍簿表規程第三條第八ニ依ル	四 給 飼 日 計 簿 日々ノ食料受取ヲ登記シ決算ノ用ニ供スルモノニシテ陸軍簿表規程第三條第十四ニ依ル
五 當 分 預 簿 各分ノ預金額ヲ明ニスルモノニシテ陸軍簿表規程第三條第九ニ依ル	五 諸 傳 單 物件ノ所用、注文、返納等ニ際シ關連シテ後附ト爲スモノニシテ陸軍簿表規程第三條第十六ニ依ル
六 下 士 卒 俸 給 明 細 表 下士卒俸給ノ明細ヲ記スルモノニシテ陸軍簿表規程第三條第十二ニ依ル	

六 糧米受拂表	每月糧米ノ受拂ヲ證明スルモノニシテ陸軍簿表規程第三條第二十 四ニ依ル
七 糧米仕拂明細表	毎月現食數ニ應シ糧米ノ費消高ヲ明ニシ糧米受拂表ニ添付スルモノ ニシテ陸軍簿表規程第三條第二十五ニ依ル
八 馬糧受拂表	毎月馬糧ノ受拂ヲ證明スルモノニシテ陸軍簿表規程第三條第二十 六ニ依ル
九 馬糧仕拂明細表	毎月現飼數ニ應シ馬糧ノ費消高ヲ明ニシ馬糧受拂表ニ添付スルモノ ニシテ陸軍簿表規程第三條第二十七ニ依ル
十 糧食諸品決算表	毎月委任經理ノ決算ヲ明ニスルモノニシテ陸軍簿表規程第三條第 二十八ニ依ル
十一 飼養諸品決算表	毎月委任經理ノ決算ヲ明ニスルモノニシテ陸軍簿表規程第三條第 二十九ニ依ル
丙 被服委員	
一 被服品受拂簿	被服品ノ受拂ヲ登記スルモノニシテ陸軍簿表規程第二條第九ニ依 ル
二 陣營具受拂簿	陣營具ノ受拂ヲ登記スルモノニシテ陸軍簿表規程第二條第十二ニ 依ル
三 賭博票	乙ノ第五ニ同シ
四 被服地質請求書	現品交付ニ關スル被服品ヲ請求スルトキ用ニルモノニシテ陸軍簿 表規程第三條第十七ニ依ル

○陸軍第四十六號

陸軍給與令細則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

第六條第四號中「上等工長」ノ下ニ「及上等計手」ヲ加フ

○陸軍第四十七號

明治三十三年陸軍第八十五號陸軍砲工學校以下學校學生並生徒入學時期中第八項ヲ左ノ通改正ス

明治三十五年四月一日

陸軍大臣寺內正毅

八 要塞砲兵射擊學校甲種學生ハ每年十二月上旬及六月上旬乙種學生ハ每年十二月下旬

〔參照〕

陸軍第八十五號(明治三十三年八月二十三日)抄錄

八 要塞砲兵射擊學校甲種學生ハ每年一月中旬及七月上旬乙種學生ハ每年十二月下旬

○陸軍第四十八號

明治二十九年陸軍第七十七號中出張所ノ欄軍馬補充部鍛冶谷澤支部白石出張所ヲ「軍馬補充部白石支那部」ニ改ム

明治三十五年四月十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第四十九號

明治三十六年十二月陸地測量部修技所生徒二十名ヲ召募ス
但シ採用手續ハ明治二十五年本省令第四號陸地測量部修技所生徒採用規則ニ依ル

明治三十五年四月十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第五十號

各官衙學校ニ於ケル金銀糧食被服其ノ他ノ物品ニ係ル經理ハ軍隊經理規程ニ準據シ委員ヲ設ケ之ヲ行フヘシ

明治三十三年陸軍第十八號ハ之ヲ廢止ス

明治三十五年四月十一日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第五十一號

陸軍軍人休職退役免役及諸生徒免除ニ係ル診斷證書調製並審査規定別冊ノ通定ム

明治二十二年陸軍第百十二號ハ之ヲ廢止ス

明治三十五年四月十一日

陸軍大臣寺内正毅

(別冊)

陸軍軍人休職退役免役及諸生免役ニ係ル診斷證書調製並審査規定

第一條 陸軍軍人傷痍疾病ノ爲職務若ハ服役ニ堪ヘサル者アルトキハ軍醫其ノ診斷證書第一號ヲ作り病床日誌寫若ハ病歴書第二號ヲ添へ准士官以上及在郷下士兵卒ニ在リテハ之ヲ本人ニ交付シ現役及召集中ノ下士兵卒ニ在リテハ本人ノ所屬長ニ移スヘシ但シ充員召集補充召集國民兵召集諸生徒入隊入校及帶忠入營新兵除役ノ場合ニ在リテハ病床日誌寫病歴書ノ添附ヲ要セズ

第二條 軍醫在ラサル地ノ現役下士ニシテ傷痍疾病ノ爲服役ニ堪ヘスト認メタル者アルトキハ所屬長ハ其ノ病名原因經過現症療法及豫後ヲ詳記シタル醫師ノ病況書ヲ出サシムヘシ

第三條 陸軍服役條例ニ規定スル醫師ノ病況書ニ記載スヘキ事項ハ前條ニ據ル

第四條 師團長或ハ軍醫部長ヲシテ診斷證書若ハ病況書ヲ審査判定セシム但シ軍醫部長ニ係ルモノハ所在地衛戍病院長ヲシテ審査判定セシム

第五條 師團長所管外ノ官衛學校及憲兵隊ニ係ルモノハ營隊長官ヨリ診斷證書若ハ病況書ヲ所在地師管ノ軍醫部長或ハ軍醫部長ニ移シ其ノ審査判定ヲ經ルモノトス但シ陸軍省ニ係ルモノハ醫務局衛生課長ヲシテ審査判定セシム

臺灣及外國駐節部隊ヨリ遷送ノ者等ニシテ特ニ規定アルモノハ本條ニ據ルノ限ニアラス

第六條 軍醫部長或ハ病院院長以下同シ診斷證書ヲ審査シ適當ト認メタルモノハ之ニ署名シ其ノ不適當ト認メタルモノハ之ニ意見書ヲ附シ又病況書ヲ判定シタルトキハ病況判定證書第三號ヲ添付スヘシ但シ病床日誌寫病歴書ハ審査ニ任シタル官衛ニ留メ置クモノトス

軍醫部長病況書ヲ判定スルニ方リ軍醫ノ診斷ヲ必要ト認メタルトキハ師團長其ノ他該書類ヲ移シタル長官ニ其ノ意見ヲ申告スヘシ

第七條 下士以下服役免除ニ際シ歩行者ハ獨行シ難キ者アルトキハ衛戍病院長若ハ主任軍醫或ハ軍醫部長其ノ證明書ヲ作りテ本人ノ所屬長ニ移スヘシ

第八條 豫備役後備役下士兵卒及補充兵演習召集及教育召集ノ場合ニ於ケル検査ニ於テハ第一條第一號ノ者ヲ除クニ於テ一時演習ニ堪ヘサル者ハ單ニ軍隊手帳ニ記入スルニ止メ本規定ニ據ルヲ要セズ

第一號書式 (用紙業流紙)

診斷證書

部隊號(在籍者ニ在リテハ本籍地)

官位(等級) 氏名

右何年何月何日何傷ヲ受テ(何病ニ罹リ)爾來加減ノ處現今何何ノ症ヲ患シ何何ノ用ヲ廢スル(妨クル)ニ由リ不堪何役(職務)(修學)者ト診斷候也

何年何月何日

主任 職官氏名 〇

兼任 職官氏名 〇

何師團軍醫部長 氏名 〇

右審査候處適當ヲ診斷ト認定候也

- 備考
- (一) 職務免役、修學ニ堪ハサル區分ハ左ノ各號ニ依リ記入スヘシ第三號書式亦同シ
 - イ 在職准士官以上ニ在リテハハ職務ニ堪ハサル者、永久服役ニ堪ハサル者
 - ロ 在職准士官以上ニ在リテハハ永久服役ニ堪ハサル者
 - ハ 現役下士官卒ニ在リテハハ現役ニ堪ハサル者、常備後備役ニ堪ハサル者、兵役ニ堪ハサル者
 - ニ 在職ノ豫備役、後備役下士及召募中ノ豫備役、後備役下士官卒ニ在リテハハ豫備後備役ニ堪ハサル者
 - ホ 在職下士官卒ニ在リテハハ兵役ニ堪ハサル者
 - ヘ 召募中ノ補充兵ニ在リテハハ補充兵役ニ堪ハサル者、兵役ニ堪ハサル者
 - ト 生徒中各兵科士官候補生、醫官候補生、見習醫官、見習獸醫官、見習獸醫官ニ在リテハハ一時服役ニ堪ハサル者、常備後備役ニ堪ハサル者、兵役ニ堪ハサル者、其ノ他ノ諸生徒ニ在リテハハ修學ニ堪ハサル者
 - (二) 陸軍病院入院ノ患者ニ在リテハハ病院長主任ナルトキハ坐坐ヲ要セス
 - (三) 陸軍病院ニ入院セサル患者ニ係ルモノハ主任軍醫之ヲ調製シ坐坐ヲ要セス但シ高級故參ノ軍醫ト協同シタル場合ニ在リテハハ之ヲ坐坐トナス
 - (四) 在職軍醫ハ本新式ニ據ルモ妨ガシ但シ住所ヲ同シスヘシ第二號書式亦同シ
 - (五) 分院ニ於テハ高級軍醫ハ某病院某分院ト同書シ職官氏名ヲ記シ病院長ニ推スルコトヲ得
 - (六) 豫備役、後備役者ニ在リテハハ官等(等級)上ニ役別ノ記載ヲ要ス第二號、第三號書式亦同シ

第二號書式 (用紙美濃紙)

病歴書	現經原病 症通因名
部隊號(在職者ニ在リテハ本籍地) 官等(等級) 氏 名	

第三號書式 (用紙美濃紙)

病況判定證書	職 官 氏 名
部隊號(在職者ニ在リテハ本籍地) 官等(等級) 氏 名	
何年何月何日	何年何月何日
何師團軍醫部長 氏 名	何師團軍醫部長 氏 名
印	印

〔參照〕

明治三十二年七月陸軍第五十二號ハ陸軍軍人ニシテ傷疾疾病ニ罹リ現役常備後備役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ハサル者ノ取扱手續ナリ

○陸軍第五十二號

陸軍給與令細則中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年四月十一日

陸軍大臣寺內正毅

第二條第一號及第二號ヲ左ノ如ク改ム

每月二十四日 陸軍省庶務課長、參謀本部總務部長、陸地測量部長、教育總監部參謀長、陸軍監督部

長、近衛師團經理部長、兵器監ノ仕拂命令ニ係ルモノ

毎月二十五日 前號以外仕拂命令官ノ仕拂命令ニ係ルモノ

第六條第一號ヲ左ノ如ク改メ第二號ヲ削ル

一丙額及丁額ヲ給スル者ノ外在職將校同相當官ハ甲額ニ依ル

第七條中「上級ノ職務心得勳加給俸」ノ下ニ「在勳加俸」ヲ加フ

第五十條第一項ヲ左ノ如ク改ム

第四十四條乃至第四十六條ノ精米相場ハ當該師管ヲ管轄スル師團ノ經理部長之ヲ指定スヘシ但

シ近衛師團ニ係ルモノハ同師團經理部長之ヲ指定ス

第七十五條第二項割註中「監督部長」ヲ「經理部長」ニ改ム

第八十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

馬糞及増飼ノ定量ニ對スル代金交付ノトキ其ノ代金算出ノ相場ハ第五十條ノ區分ニ依リ之レヲ

指定スヘシ

第九十六條ヲ削除ス

○陸軍第五十三號

本年陸軍第二十六號ノ別表中砲兵工廠提理ノ欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

明治三十五年四月十一日

陸軍大臣寺內正毅

千住製絨所長 千住製絨所ニ係ル收入、經費

○陸軍第五十四號

明治二十九年陸軍第五十一號中左ノ通改正ス

明治三十五年四月十七日

陸軍大臣寺內正毅

第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

四 陸軍省經理部士官但内三名ハ除ク

第四號ヲ第五號ニ第五號ヲ第六號ニ改ム

〔参照〕

明治二十九年十月十號陸軍第五十一號ハ砲馬本分者中營分騎馬ヲ飼養セシメサル者ノ件ナリ

○陸軍第五十五號

明治三十四年陸軍第十二號陸軍勤務演習效令中左ノ通改正ス

明治三十五年四月二十一日

陸軍大臣寺內正毅

第一條第三種中「兵卒」ノ下ニ「軍樂部」ノ割註ヲ加フ

第三條中「師團長」ノ下割註ヲ削ル

第五條中「同見習軍吏」及其四ヲ削ル

第六條中「監督部」ヲ「經理部」ニ改ム其四ノ科目ヲ擴張スルヲ其四ノ甲ニ據ルニ改ム

第七條第二項中「監督部長」ヲ「經理部長」ニ改ム承認若クハヲ削ル

第八條中「第六條ニ準ス」ノ下ニ「經理部准士官」ニ在リテハ附ノ割註ヲ加ヘ同條第二號中「士官」ノ下

ニ「及准士官」ヲ加フ

第九條 復習ノ爲メ豫備役後備役將校同相當官及准士官ヲ召集スルハ左ノ各號ニ據ル

一 陸軍補充條例第五十八條第一號ニ該ル各兵科將校ハ第一種勤務演習ヲ行ヒタル翌年ヨリ豫備役後備役ヲ通シテ隔年

- 二 陸軍補充條例第五十八條第二及第三號ニ該ル各兵科將校ハ豫備役ニ在リテハ其役ニ入りタル翌々年ヨリ每三年後備役ニ在リテハ該役間一回
- 三 陸軍補充條例第五十八條第一號ニ該ル各部將校相當官ハ第一種勤務演習ヲ行ヒタル翌々年ヨリ豫備役後備役ヲ通シテ每三年
- 四 前號以外ノ各部將校相當官ハ各役間一回
- 五 各兵科特務曹長ハ豫備役ニ在リテハ其役ニ入りタル翌々年ヨリ每三年後備役ニ在リテハ該役間一回
- 六 前號以外ノ准士官ハ各役間一回
- 第十二條ノ末尾ニ「但召集年次ハ附表第三號ニ據ル」ヲ加フ
- 第十三條第一號中「看護手」ノ下ニ「醫備步兵隊ニ入營セシ者ニシテ現ニ當ノ副註ヲ加フ
- 第二十二條 勤務演習監督者ハ各種勤務演習終了後全年度ノ勤務演習ニ關シ左ノ各號ニ從ヒ報告スヘシ
 - 一 第一種悉皆及第二種將校同相當官ノ勤務演習成績表ハ各人毎ニ調製シ各兵科ニ在リテハ師團長（旅團下ノ聯隊ニ在リテハ旅團長）醫備步兵隊（師團長ヨリ師團長及陸軍省當該局長ニ報告ス但成績表ニ記載スヘキ事項ハ各兵科ニ在リテハ師團長之ヲ定メ各部ニ在リテハ陸軍省當該局長之ヲ定メテ當該部長ヲシテ豫メ部隊長ニ示シ置カシムヘシ
 - 二 第三種將校同相當官ノ戰時職務ニ關スル勤務演習成績ノ報告モ前號ニ同シ
- 第二十三條 師團長ハ師團内各種勤務演習完結後一箇月以内ニ各種勤務演習成績ニ關シ必要ナル

事項 第二種勤務演習ニ在リテハ進級ヲ教育總監ニ報告スヘシ

教育總監ハ各師團ニ於ケル第二種勤務演習中進級ノ見込アル各兵科將校ノ成績ヲ取纏メ意見ヲ附シ之ヲ陸軍大臣ニ移スヘシ

第二十四條 削除

第二十五條ヲ第二十四條ニ改メ末尾ニ「但守備混成旅團長ハ各種勤務演習ニ召集スヘキ各部上長官以下ノ人員及時期ニ付テハ當該部長ト協議ノ上之ヲ定ムヘシ」ヲ加フ

附則ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十五條 豫備役後備役軍吏ノ勤務演習科程ハ附表第二號其四ノ乙ニ同シ

第二十六條中「上長官」ノ下ニ「軍吏」ヲ加フ

附表第一號中「監督部」ノ區畫ヲ左ノ如ク改メ「軍吏部」ノ區畫ヲ削リ同備考第四中「軍吏部」ヲ「經理部」ニ改メ備考第七ヲ加フ

經 理 部	上長官、士官、准士官	營該經理部（軍吏上等計手ハ經理部所在地ノ各隊）	經 理 部 長
	下 士 各		
隊 各	隊 各	隊 各	隊 各

七 陸軍補充條例中別ニ監督者ノ規定アルモノハ之ニ據ル

附表第二號其二學科摘要第二項中「圖上」及「現地講話」ヲ削ル

附表第二號其四ヲ別紙ノ通改ム

附表第三號中「警備隊歩兵」ノ區畫ヲ削リ「衛生部」ノ次ニ左ノ區畫及備考ヲ加フ

備	歩兵	毎三年	三週間	第二、第三週間	毎三年	三週間	現役最	年	三週間
考	等階歩兵隊ニ入營セシ者ヲ除クモルハ現ニ警備隊ニ居住スル者ニ限ル	右	右	右	右	右	同	右	右

(別紙)

附表第二號其四ノ甲

豫備役後備役監督副監督勤務演習科程表

科	目	要
監督勤務	一 監督勤務ハ主トシテ作戦給養ニ關スルコトヲ講習セシメ、 二 陸軍經理ハ監督勤務上ニ必要ナル一般ノ事項ヲ講習セシム	
陸軍經理	一 陸軍經理ハ勤務上必要ナル陸軍一般ノ事項及特ニ會計法規ニ係ルコトヲ講習セシム、 二 陸軍經理ハ勤務上必要ナル事項ヲ講習セシム	
國 際 法	三 國際法ハ陸軍條規ニ關スル概要ヲ講習セシム	
私法及關係法	四 私法及關係法ハ契約ニ關スル概要ヲ講習セシム	
術 平 時 勤務		
戰 時 勤務		

附表第二號其四ノ乙

豫備役後備役上等計手勤務演習科程表

科	目	要
陸軍經理	一 陸軍經理ハ勤務上必要ナル陸軍一般ノ事項及特ニ會計法規ニ係ルコトヲ講習セシム、 二 陸軍經理ハ勤務上必要ナル事項ヲ講習セシム	

科	目	要
術 平 時 勤務	一 陸軍經理ハ勤務上必要ナル陸軍一般ノ事項及特ニ會計法規ニ係ルコトヲ講習セシム、 二 陸軍經理ハ勤務上必要ナル事項ヲ講習セシム	
戰 時 勤務		

○陸軍第五十六號

陸軍代理規則中第九條ヲ左ノ通改正セラル

明治三十五年四月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

第九條 長官ノ廳内ニ次級者ナキトキ又ハ第八條第一號ノ場合ニ於テ次級者該長官ノ名ヲ以テ事務ヲ處理シ難キトキハ所管長官適宜ノ措置ヲ爲スコトヲ得

【參照】

陸軍第五十一號陸軍代理規則(明治三十四年八月三日)抄録
第九條 長官ノ廳内ニ次級者ナキトキハ所管長官一時出陣ノ處置ヲ爲スコトヲ得

○陸軍第五十七號

臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十五年四月三十日

陸軍大臣寺內正毅

第二十條第二項中「第二種帽」ノ下割註中「前章ヲ除ク」及「衣袴」ノ下割註ヲ削リ左ノ但書ヲ加フ
但シ免官免役トナリ歸郷スル者ニ附與スル帽ハ前章衣ハ袖章ヲ除却スヘシ
第九條中「枕」ノ支給區分「携帶衣類」ニ同シ「三箇年間應用ノ後實際ノ損破ニ依リ換給ス」ニ改ム
第十三條中本小絨腹巻ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

〔參照〕

明治三十一年七月海軍省第七十九號ハ鎮守府兵部工場海軍造船廠及海軍下瀬火藥製造所勤務時間並ニ職工服
務時間表ナリ

○海軍省第五十一號

造兵工務規程第八條以下ヲ左ノ通改正シ明治三十五年度ヨリ之ヲ施行ス
但書式ハ必要ノ向ヘ艦政本部ヨリ配賦ス (書式略ス)

明治三十五年四月十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第八條 造兵廠長兵器廠長下瀬火藥製造所長ハ前年度ニ於テ増減シタル諸機械ノ配置圖面及其ノ
明細並修理及保存期限ヲ第一號書式ニ依リ五月末日迄ニ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ (長兵器廠
長ハ所管鎮守府艦政部
長ヲ經由ス以下同シ) 但シ諸機械ニシテ將來据付クヘキ計畫アルモノハ之ヲ圖面及目錄中ニ掲
ケ共ノ旨ヲ附記スルヲ要ス

第九條 造兵廠長兵器廠長下瀬火藥製造所長ハ前年度ニ於テ増減シタル諸建築物及構内ノ境域ヲ
示シタル圖面並其ノ明細ヲ第二號書式ニ依リ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ但シ建築物ニシテ將
來建設スヘキ計畫アルモノハ圖面及目錄中ニ之ヲ掲ケ共ノ旨ヲ附記スルヲ要ス

第十條 造兵廠長兵器廠長下瀬火藥製造所長ハ造兵ニ關スル左ノ件々ヲ所定ノ時期ニ於テ各表式
ニ依リ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

- 一 前年度中ノ工業力年報 毎年五月末日迄
- 二 製造兵器落成月報 第三號書式 第四號書式 第五號書式
- 三 購買兵器月報 第五號書式

四 前月中ノ兵器修理及備裝月報

五 前月中ノ歳出經常部造兵及修理費支出月報 第六號書式 第七號書式

六 前月中ノ歳出臨時部造兵費支出月報 第八號書式 第九號書式

七 前月中ノ職工人員異動工數及給別月報 第十號書式 第十一號書式

八 前年度中ノ受託兵器製造修理費年報 第十二號書式 第十三號書式

九 前年度中ノ海軍部内依託工事費年報 第十四號書式 第十五號書式

十 翌年度ニ繰越兵器組替報告 第十六號書式 第十七號書式

十一 翌年度ニ繰越購買兵器組替報告 第十八號書式 第十九號書式

第十一條 造兵廠長兵器廠長下瀬火藥製造所長ハ前月中ニ要シタル歳出經常部造兵及修理費支辨
備入ノ異動及給別ヲ第十四號書式ニ依リ翌月十五日迄ニ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十二條 前年度ニ於テ使用シタル造兵材料ノ數量及價格ヲ第十五號及第十六號書式ニ依リ五月
末日迄ニ吳造兵廠長及兵器廠長ハ鎮守府司令長官ヲ經テ海軍大臣ニ東京造兵廠長及下瀬火藥製

造所長ハ海軍艦政本部長ヲ經由シテ海軍大臣ニ報告スヘシ

第十三條 造兵廠長兵器廠長下瀬火藥製造所長ハ前年度ニ於テ造兵材料ニ組替若ハ受入タル廢兵
器又ハ造兵材料殘屑ヲ第十七號及第十八號書式ニ依リ五月末日迄ニ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第十四條 要港部ニ於テ兵器ヲ修理シタルトキハ同部參謀長ハ其ノ月ノ費額等ヲ第十九號書式ニ
依リ翌月末日迄ニ共所在海軍區ヲ管スル鎮守府ヲ經テ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

○海軍省達第五十二號

海軍軍人俸給加俸支給細則第十三條第一號ヲ左ノ通改正ス

一 入院若ハ陸地療養ノ者ニハ其ノ翌日ヨリ退院若ハ療養ヲ終リタル前日マテ

明治三十五年四月十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十三號

雇員備人規則中左ノ通改正ス

明治三十五年四月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條左表中裁縫手、麵包手、長倉庫丁ノ各欄、鎮守府經理部衣糧科ヲ「鎮守府經理部」ニ改ム
同表「大工」ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

鐵	關	手	鎮守府經理部、海軍醫院
火	夫		橫須賀鎮守府經理部
鐵	工		鎮守府經理部

同表「洗濯夫」ノ欄、病院ノ下ニ「鎮守府經理部」ヲ加フ

○海軍省達第五十四號

雇員備人給與規則第二表中「水栓番人」ノ次ニ「機關手」ヲ、「大工」ノ次ニ「鐵業工」ヲ、「傳書、飼養夫」ノ次ニ「火夫」ヲ追加ス

明治三十五年四月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十五號

明治三十二年達第五十七號中「庫」ヲ「科」ニ改メ「麵包器械工」並ニ「削」

明治三十五年四月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治三十二年達第五十七號ハ鎮守府經理部衣糧庫ニ於テ使役スル麵包器械工並ニ麵包夫服業時間表ナリ

○海軍省達第五十六號

明治二十四年達第八十四號貸與品表中左ノ一廉ヲ加フ

明治三十五年四月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

注水器亞鉛鍍 候補生實地演習ノ爲メ乘艦ノ時

○海軍省達第五十七號

艦團部需用品定額表中左ノ通追加及削除ス（加除略ス）

明治三十五年四月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十八號

職工人夫給與規則別表備考第三項中「第四第五第六」ヲ「第四乃至第八」ニ改正ス

明治三十五年四月二十五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第五十九號

雇員備人規則第三條別表中「舞鶴水雷團」ノ欄給仕「一」ヲ「三」ニ剃夫「一」ヲ「二」ニ改ム

明治三十五年四月三十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○陸軍第五十八號

陸軍經理學校條例第二十條ニ依リ本年採用スヘキ第二期監督講習生ニ係ル事項左ノ通定ム

明治三十五年五月十三日

陸軍大臣寺内正毅

- 一 第二期監督講習生ハ七十名トシ明治三十五年八月入校セシム
- 二 各兵科士官ニ施行スヘキ豫備試験問題左ノ通

受験者ハ本年七月四日迄ニ陸軍監督講習生試験規定ニ依リ其答案ヲ提出スヘシ

論文

陸軍會計經理ノ方式ヲ論ス

○陸軍第五十九號

陸軍監督部検査規程左ノ通定ム

明治三十五年五月十六日

陸軍大臣寺内正毅

陸軍監督部検査規程

第一條 陸軍監督部ニ於テ行フ検査ヲ分テ通常検査臨時検査ノ二種トス

第二條 通常検査ハ豫メ時期ヲ定メテ行フモノトス

臨時検査ハ必要アルトキ臨時行フモノトス

第三條 部長ハ部員ヲシテ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條 師團及臺灣陸軍各部團隊ニ係ル検査ハ師團及臺灣陸軍經理部ノ検査上必要アルトキ之ヲ行フヘシ

第五條 検査上必要ト認メタルトキハ動員ニ關スル會計經理ヲモ併セテ検査スヘシ

第六條 通常検査ヲ行ハムトスルトキハ其ノ時期及提供セシムヘキ書類検査員ノ人名其ノ他検査ニ關スル要件ヲ豫メ當該部隊長ニ通知スヘシ

第七條 部隊ヲシテ臨時検査ヲ行ハシムトスルトキハ臨檢章ヲ携帶セシムヘシ

第八條 部長ハ検査成績ニ意見ヲ附シ毎年十二月陸軍大臣ニ提出スヘシ但シ臨機報告ヲ要スルモノハ其ノ都度之ヲ提出スヘシ

検査上違法ト認めタル事項ハ部長ヨリ當該所管長官ニ通報スヘシ

第九條 部長ハ検査上必要ナル文書報告ヲ豫メ各部團隊長ニ要求シテ提出セシムルコトヲ得

○陸軍第六十號

兵器取扱規則別冊ノ通改正ス

但シ從來ノ令達及指令等ニシテ本規則ニ抵触スルモノハ總テ廢止ス

明治三十五年五月十九日

陸軍大臣寺內正毅

(別冊)

兵器取扱規則目次

- 第一章 總則
- 第二章 管理保管
- 第三章 定期報告
- 第四章 兵器委員
- 第五章 検査
- 第六章 費用

- 第七章 新調修理
- 第八章 支給交換
- 第九章 返納
- 第十章 毀損亡失及廢兵器ノ處分
- 第十一章 要塞備附兵器使用手續
- 第十二章 赴任ノ際佩用刀取扱手續
- 第十三章 雜則

附則

- 第一表 武器彈藥器具材料區分表
- 第二表 兵器類別表
- 第三表 其一 某兵器本(支)廠保管兵器員數表樣式
- 同 其二 某要塞備附兵器支廠保管兵器員數表(甲)樣式
- 同 其三 某要塞備附兵器支廠保管兵器員數表(乙)樣式
- 同 其四 某隊(學校)(臺北兵器本廠)(兵器支廠)保管兵器員數表樣式
- 同 其五 臺灣兵器本(支)廠保管兵器修理用半成品員數表樣式
- 同 其六 某要塞臨時防禦用兵器員數表樣式
- 同 其七 某要塞備附築城部支部保管兵器員數表樣式
- 第四表 支廠保管官衙所用兵器取扱區分表
- 第五表 軍隊學校ニ於テ製造若ハ直接買收ヲ許スヘキ品目表

第六表 修理制限表

第七表 軍隊學校ニ於テ使用ヲ要スル工廠製成品(半成品)品目表

第八表 第二類兵器交換分數表

第九表 平時諸兵器携帶兵器表

第十表 第一演習用彈藥支給定數率

同 其二野戰砲兵中隊演習用彈藥支給定數率

第十一表 第一要塞砲兵演習用彈藥支給定數率

同 其二臺灣守備砲中隊演習用彈藥支給定數率

第十二表 要塞砲兵演習用特別支給彈藥定數表

第十三表 軍隊ニ於テ定數外保管シ得ヘキ兵器定限表

兵器取扱規則

第一章 總則

第一條 本規則ハ平時ニ於テ兵器ヲ整備シ專ラ戰時ノ供用ヲ完全ナラシムル爲メ其ノ方法ヲ定ム

第二條 本則ニ於テ兵器ト稱スルハ第一表ニ掲クル武器彈藥器具材料ノ總稱ナリ(兵器細目名稱表ハ別ニ之ヲ定ム)

第三條 本則ニ於テ兵器種類ヲ類別シテ第一表ノ如ク二類ニ區分ス

第四條 本則ニ於テ本廠、支廠、分廠ト記スルハ陸軍兵器本廠同支廠同分廠ヲ謂ヒ工廠ト記スルハ砲兵工廠派出所ヲ含ムヲ謂ヒ軍隊ト記スルハ憲兵、歩兵、騎兵、砲兵、工兵鐵道隊、輜重兵ノ各隊、屯田兵隊、警備隊及軍樂隊ヲ謂ヒ學校ト記スルハ生徒隊若ハ教導隊ヲ有スル學校並砲兵工科學校ヲ謂

ヒ官衙ト記スルハ陸軍諸官衙師旅團司令部ヲ含ム及生徒隊若ハ教導隊ヲ有セサル學校砲兵工科學校ヲ除クヲ謂フ

第五條 本則ニ於テ本廠長、支廠長ト記スルハ陸軍兵器本廠長同支廠長ヲ謂ヒ隊長、校長ト記スルハ前條ニ掲クル軍隊若ハ學校ノ長ヲ謂フ

第六條 本則中支廠長並支廠ノ爲メニ記スルモノハ總テ臺北兵器本廠長及同本廠ニ適用ス

第七條 本則ニ於テ新調ト稱スルハ第一表ニ掲クル名稱中ノ物品物品名目表ヲ含ムヲ製造若ハ調辦スルヲ謂フ又修理ト稱スルハ同物品ヲ修理若ハ其ノ一部分ヲ調辦スルヲ謂フ

第八條 本則ニ於テ本須ト稱スルハ本廠貯藏ノ兵器ヲ謂ヒ支須ト稱スルハ支廠並分廠貯藏ノ兵器ニシテ之ヲ分テ第一及第二支須トス其ノ第一支須ハ官衙所要及豫備ヲ謂ヒ第二支須ハ其ノ他ノモノヲ謂フ

第二章 管理、保管

第九條 兵器ハ平時之ヲ別テ本廠、支廠、分廠、要塞及築城部支部、軍隊學校ニ配備シ其ノ管理保管ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 本須ハ本廠長之ヲ管理シ且ツ保管ノ責ニ任ス
- 二 第一支須ハ本廠長之ヲ管理シ支廠長保管ノ責ニ任ス
- 三 第二支須ハ師團長若ハ臺灣守備混成旅團長要塞所在地支廠ノモノ之ヲ管理シ支廠長保管ノ責ニ任ス但シ勳員計畫上師團長ノ主管ニ係ラサル特設部ニ要スルモノニ在リテハ本廠長之ヲ管理ス
- 四 要塞備附兵器要塞臨時防禦用兵器ヲ含ムハ要塞司令官若ハ警備隊司令官之ヲ管理シ支廠長若ハ築城部支部長保管ノ責ニ任ス

季報

半年報

- 一、某兵器本廠保管兵器圖數表 第三表其一
- 二、某要需備附兵器支廠保管兵器圖數表(甲) 第三表其二
- 三、某要需備附兵器支廠保管兵器圖數表(乙) 第三表其三
- 四、某隊(學校)臺北兵器本廠(兵器支廠)保管兵器圖數表 第三表其四
- 五、臺灣兵器本廠保管兵器修理用半成品圖數表 第三表其五
- 六、某要需備臨時防禦用兵器圖數表 第三表其六
- 七、某要需備附築城部支廠保管兵器圖數表 第三表其七

第四章 兵器委員

第十三條 軍隊ニ在リテハ兵器ノ整理ヲ掌ルベシムル爲メ左ノ兵器委員ヲ置キ隊長之ヲ選任ス但シ獨立中隊以下ノ軍隊ニ在リテハ之ニ準シ適宜委員ヲ設クルモノトス

- 少佐若ハ大尉 一人首座
- 大尉若ハ中尉 一人乃至三人

砲兵隊ノ武器主管工兵隊、輜重兵隊ノ材料主管ハ必ス委員中ニ加フルモノトス

第十四條 隊長ハ保管兵器整理一切ノ責ニ任シ兵器委員ヲシテ其ノ事務ヲ擔當セシム

第十五條 首座委員ハ隊長ニ對シ兵器整理ノ責ニ任シ委員ヲ指揮シ且ツ兵器彈藥費ノ經理事務ヲ整頓ス

第十六條 委員ハ兵器ノ支給、交換、貯藏、保存、工場ノ監視及新調、修理品等ノ検査ヲ掌ル

第十七條 委員ハ下士若干名ヲ選シ隊長ニ上申シ助手トシテ細務ニ服セシム

第十八條 學校ニ在リテハ第十三條乃至第十七條ニ準シ委員ヲ設ケ兵器ノ整理ヲ掌ラシム

第五章 検査

第十九條 兵器ノ検査ハ兵器監又ハ兵器監部ハ員若ハ陸軍大臣ヨリ特ニ命ゼラレタル臨時検査官之ヲ行フ

第二十條 検査ハ兵器ノ保存、數量及兵器彈藥費支途ノ適合共ノ他一般整理ノ其況ヲ檢ス

検査終レハ兵器監若ハ臨時検査官ハ其ノ成績ニ意見ヲ添ヘ陸軍大臣ニ報告ス

第二十一條 各管理官ハ毎年一回其ノ管理スル兵器ノ検査ヲ行フ但シ教育總監ハ參謀長、憲兵司令官ハ隊長ヲシテ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

検査終レハ管理官ハ其ノ成績ニ意見ヲ添ヘ兵器監ニ通報若ハ報告ス

第六章 費用

第二十二條 本廠、支廠、築城部支廠及軍隊學校ニ於テ管理スル費用左ノ如シ

- 一、本廠、支廠
 - 〔兵器ノ新調ニ係ル費用〕
 - 〔兵器ノ修理手入ニ係ル費用〕
 - 〔兵器ノ運搬ニ係ル費用〕
 - 〔兵器ノ新調ニ係ル費用〕
 - 〔兵器ノ修理手入ニ係ル費用〕
 - 〔兵器ノ運搬ニ係ル費用〕
- 一、築城部支廠
 - 〔兵器ノ新調ニ係ル費用〕
 - 〔兵器ノ修理手入ニ係ル費用〕
 - 〔兵器ノ運搬ニ係ル費用〕
- 一、軍隊、學校
 - 〔兵器ノ新調ニ係ル費用〕
 - 〔兵器ノ修理手入ニ係ル費用〕
 - 〔兵器ノ運搬ニ係ル費用〕

第二十三條 軍隊、學校ニ於テ要スル兵器及修理用半成品ノ運搬費ハ當該支廠ノ管理費用ヲ以テ支辨ス但シ支廠所在地ニ在リテハ通常運搬費ヲ支出セズ支廠ニ就キ授受スルモノトス

第二十四條 軍隊、學校ニ於ケル費用ノ仕拂ハ首座委員ノ承認セシ證書ヲ以テ其ノ手續ヲ爲スモ
ノトス

第七章 新調修理

第二十五條 左ニ掲クル兵器ハ兵器監之ヲ工廠ニ命シテ製造セシメ若ハ木廠ニ命シテ調辨セシム
而シテ其ノ費用ハ木廠、屯田兵器ニ在リヨリ支出セシム

一 第一類兵器並分數交換ニ要スル第二類兵器

二 新規支給ニ要スル兵器

三 各種彈藥第四十六條第五十三條第五十七條第二項ニ掲

四 前三項ノ外特ニ令違アルモノ

前各項ニ掲クル兵器ノ外ハ木廠、支廠、築城部支部若ハ軍隊、學校ニ於テ調辨ス但シ臺灣屯在ノ軍
隊及屯田兵隊ニ在リテハ修理手入用材料半成品ヲ除クノ外ハ兵器廠ニ於テ調辨スルモノトス
小銃及火砲ヲ外國ニ注文セントスルトキハ兵器監ハ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 軍隊、學校ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ兵器委員傳票ヲ製シ隊長若ハ校長捺
印ノ上支廠ニ託シ該費用ハ當該軍隊、學校ノ管理費用ヲ以テ支辨ス但シ東京大阪屯在ノ軍隊、學
校ニ在リテハ工廠ニ於テ製造スルモノニ限り直ニ工廠ニ託スヘシ

築城部支部保管ノ兵器ヲ新調セントスルトキモ亦前項ノ手續ニ準ス

第五表ニ掲クル兵器ハ第一項ノ手續ニ據ラス軍隊、學校ニ於テ直ニ製造若ハ調辨スルコトヲ得

第二十七條 兵器廠ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ木支廠長ハ工廠ニテ製作スルモノハ工廠
ニ注文シ其ノ他ハ他ヨリ調辨ス但シ支廠ニ於テ第二十六條第一項及第二項ノ注文ヲ託セラレタ

ルトキモ亦同シ

要塞所在地支廠並臺灣兵器廠ニ於テ兵器ヲ新調セントスルトキハ其ノ修理所ニ於テ製造スル
モノトス但シ製造シ得サルモノハ前項ニ準シ工廠ニ注文シ若ハ他ヨリ調辨ス而シテ其ノ費用ハ
臺灣屯在ノ軍隊ニ係ルモノハ兵器廠ニ於テ支辨シ要塞所在地基隆澎湖軍隊、學校若ハ築城部支
部ニ係ルモノハ其ノ實費ヲ當該軍隊、學校若ハ築城部支部ヨリ支拂フモノトス

第二十八條 兵器ノ修理ハ工廠、軍隊、學校、在臺灣兵器廠並要塞所在地支廠ニ於テ執行ス但シ軍隊、
學校ニ於テハ第六表ニ掲クルモノ、修理ヲ許サス

第二十九條 軍隊、學校ニ於テ第六表制限内兵器ノ修理並制限外ト雖トモ修理シ能ハサル兵器ノ
修理及築城部支部保管兵器ノ修理ヲ要スルトキハ第二十六條第一項及第二項並第二十七條ノ手
續ニ據ル

第三十條 軍樂器ノ修理ハ前條ノ手續ニ據ラス軍隊、學校ニ於テ直ニ處辨スヘシ

第三十一條 軍隊、學校内ニ於テスル兵器ノ製造、修理ハ工長及兵卒ヲシテ之ニ從事セシム但シ學
校及屯田兵隊ニ在リテハ職工ヲ備役スルコトヲ得

第三十二條 工廠外ニ在リテ新調、修理ニ要スル材料中第七表ニ掲クル品目ハ必ス工廠ノ製作ニ
係ル成品若ハ半成品ヲ使用スヘシ但シ其ノ購買手續ハ第二十六條第一項及第二十七條ニ據ル

第三十三條 支廠及軍隊保管兵器ノ手入ハ兵卒ヲ以テ施行スルモノトス但シ支廠分廠及屯田兵
隊ニ於テハ管理費用内ヲ以テ職工ヲ備役スルコトヲ得

第三十四條 支廠保管兵器ノ手入ニ兵卒ヲ要スルトキハ支廠長分廠ニ在リテハ分廠附下士所要ヲ計リ衛戍司令
官東京支廠ニ在リニ請求スルモノトスハ該該師團長ニ請求スルモノトス

第八章 支給交換

第三十五條 左ニ掲クル補給ハ本廠長直ニ之ヲ執行ス

一 兵器表ニ基テ支給

二 勦員計畫訓令ニ基テ特ニ要スル兵器ノ支給

三 第二類兵器ノ交換

四 土匪討伐ニ費消セシメ彈藥

第三十六條 左ニ掲クル補給ハ支廠長直ニ之ヲ執行ス但シ第二乃至第五項ハ當該官衙長官若ハ隊

長第六及第七項ハ衛戍司令官ノ請求ニ據ルモノトス

一 演習用彈藥

二 官衙ニ要スル兵器ノ支給交換

三 見習監督見習警官見習藥劑官見習獸醫官豫備後備見習士官各部ノ者ヲ含並定員外見習士官以下同シ

官用刀劍ノ支給

四 近衛守衛隊用彈藥ノ補給

五 用發及禮砲用彈藥ノ補給

六 非常及正午號砲用彈藥ノ補給

七 衛戍服務用彈藥ノ補給

第三十七條 第一類兵器ハ全ク其ノ用ニ堪ヘサルニ至リ交換ス而シテ其ノ交換期ハ毎年六月及十

二月トス但シ第二類兵器中屬品銃砲ノニ係ルモノハ第三類兵器ノ取扱ニ準シ處理スルモノトス

臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ノ兵器ニ在リテハ類別ヲ問ハス總テ其ノ用ニ堪ヘサルニ至リ交換ス

ルモノトス

第三十八條 第一類兵器ノ交換ハ支廠長ノ檢定書ヲ添ヘ各保管者ヨリ管理官ニ上申シ同官ハ之ヲ

一 檢シトナシ交換期ノ前月二十日迄兵器監部ニ兵器監ニ請求ス但シ時宜ニ據リ支廠長ノ檢定

書ニ代メルニ本廠長ノ檢定書ヲ以テスルモ妨ケナシ

第三十九條 第二類兵器ハ分數交換表第八表ニ據リ毎年六月交換ス其ノ員數ハ當該本廠長之ヲ

調査シ前々年度會計年度十一月截止日迄ニ兵器監ニ上申スヘシ

新設増設若ハ兵器ノ種類交換等ニヨリ一月ヨリ六月迄ニ支給シタル第二類兵器ノ新品ハ其ノ年

ニ於テ同シク六月ヨリ十二月迄ニ支給シタルモノハ翌年ニ於テ分數交換ヲ行ハサルモノトス

第四十條 第三類兵器對第二類兵器ノ分數交換ヲ行ハサルモノ及分數交換定數以外ニ新調ヲ要

スルモノハ各管理ノ費用ヲ以テ準備スルモノトス

第四十一條 臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ要スル第二類第三類兵器ノ補給ハ前三條ノ規定ニ據ラ

ズ隊長之カ理由ヨリ悉クシ臺灣守備混成旅團長若ハ第七師團長ニ上申シ同官ノ請求ニ據リ臺北兵

器本廠長若ハ旭川支廠長適宜ノ時期ニ於テ之ヲ執行ス但シ基隆及澎湖島要塞砲兵隊並臺灣屯在

砲兵隊ニ在リテハ隊長ヨリ直ニ請求スルモノトス

臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ於テ修理用半成品若ハ成品ヲ要スルトキハ傳票ヲ以テ兵器廠ニ請

求ス

第四十二條 演習用彈藥ハ軍隊屯田兵隊ニ在リテハ第十乃至第十二表ニ掲載スル員數ニ基キ支給

シ學校及屯田兵隊ニ在リテハ兵器表ノ定數ニ據ル

第四十三條 演習用彈藥ハ毎年十二月運輸不便ノ地ニアリテハ此ノ時期ヲ適宜伸縮スルコトヲ得支給ス但シ臺灣守備隊ニ在リ

テハ各共ノ隊ノ交代後ニ於テ支給ス

第十一表其一及要塞砲兵射擊學校演習用彈藥機關砲彈ハ種類ヲ變更シテ支給ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ隊長若ハ校長ハ支給期前ニ當該支廠長ニ協議シ支廠長ハ第一支須ノ定數ト當該軍隊學校ノ定數ニ應スル費額内ニテ支給數ヲ定メ本廠長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第十二表ノ演習用彈藥ニ在リテモ又其ノ種類ヲ變更シテ支給ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ隊長ハ前々年度會計十二月盡日兵器本廠ニ到著期日迄ニ支廠ヲ經テ本廠長ニ協議シ本廠長ハ當該軍隊ノ定數ニ應スル費額内ニテ支給數ヲ定メ兵器監ニ上申シ兵器監ハ當該要塞備砲ノ命數及彈藥製作貯藏ノ景況ヲ願慮シ其ノ許否ヲ定ムヘシ

軍隊學校ニ在リテハ毎年消費セシ演習用彈藥ノ明細書ヲ製シ十一月盡日臺灣守備隊ニ在リテハ交代歸還ノ前月盡日關ヲ以テ翌月十五日迄ニ當該支廠ニ通報シ支廠ハ之ヲ本廠ニ報告スヘシ

演習用彈藥所要員數ハ當該本廠長之ヲ調査シ前々年度會計十二月盡日迄ニ兵器監ニ上申スヘシ

第四十四條 彈藥ハ左ノ順序ニ從ヒ支給シ且製造ノ舊キモノヨリ新陳交換シテ使用ス

- 一 軍隊學校ヘノ支給ハ支須ヨリス
- 二 支須中ニ在リテハ第一ヨリ第二ニ補充ス
- 三 支須ノ補充ハ本須ヨリス

要塞備附彈藥ニ在リテモ亦本條ニ準ス

第四十五條 軍隊憲兵隊及屯田兵隊學校ヘ支給スル彈藥中左ニ掲グルモノハ學校ヘ支給スル小銃空包成品材料ニテ支給シ其ノ他ハ總テ完成品ヲ以テス而シテ材料ニテ支給ヲ受クルモノハ當該軍隊學校ニテ填實シ完成品ニテ支給スルモノハ當該支廠ヨリ工廠ニ注文シ若ハ支廠ニ於テ填實ス

第四十六條 彈藥ノ材料並屬品中左ニ掲グル者ハ當該支廠、軍隊、學校ノ管理費用ヲ以テ調辨スヘシ

- 一 小銃空包填藥及狹窄射擊實包給彈
- 二 火砲用各種彈除ク及藥筒、藥包、空包海岸砲用空包
- 三 三十一年式速射野砲空包用十字形
- 四 海岸砲用空包藥蓋、彈底支桿
- 五 爆包並擬放火用藥蓋
- 六 騎兵用火具中ノ麻糸、摺附木、油紙
- 七 正午號砲用紙藥蓋

第四十七條 憲兵隊及屯田兵隊ニ在リテハ前二條ノ規定ニ據ラス總テ完成品ヲ以テ支給ス

第四十八條 軍隊ニ在リテ一時過員トナリタル者ニ要スル彈藥ハ當該軍隊演習用定數内ヲ以テ應用スルモノトス

第四十九條 平時ニ在リテ見習士官、下士兵卒並諸生徒等ニハ第九表ニ掲載スル携帶兵器ヲ支給ス

第九章 返納

第五十條 總テ兵器ハ兵器表ノ定數ニ超過スルヲ許サス故ニ過數トナリタルモノハ軍隊、學校及築城部支部ニ在リテハ支廠ニ支取ニ在リテハ本廠ニ返納スヘシ但シ軍隊憲兵隊、屯田兵隊及屯田兵隊在ノ平

ニ在リテハ第十三表ニ掲クル第二、第三類兵器ニ限り演習用トシテ同表定限以内ハ各管理費用内ヲ以テ保管スルコトヲ得

第五十一條 見習監督、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官及豫備後備見習士官並定員外見習士官ニ支給シタル刀劍ハ其ノ用ヲ終リタル後直ニ支廠ニ返納スヘシ但シ破損シアルモノハ當該軍隊ヲハ支廠ニ在リノ管理費用ヲ以テ修理ヲ加フルモノトス

第五十二條 小銃並拳銃ノ藥莢、挿彈子及螺門管ハ毎演習ノ終リニ之ヲ收集シ藥莢ハ空雷管（野兵隊除ク）ヲ拔除シ且洗淨（北ノ儘）シテ毎年十二月（運搬不便ノ地ニ在リテハ翌年三月迄ニ支廠ニ返納スヘシ但シ空包用及狹窄射擊用藥莢並空包用挿彈子ハ毎年十二月定限ノ六分ノ一ヲ返納シ交換品ノ支給ヲ受クルモノトス）

速射砲用藥莢ハ毎演習ノ終リニ於テ空爆管ヲ拔除ノ上之ヲ洗淨シ毎年十二月破損品ヲ返納シ交換品ノ支給ヲ受クルモノトス但シ要塞用速射砲藥莢ニ在リテハ總テ返納スルモノトス

第五十三條 小銃並拳銃藥莢、挿彈子及螺門管ヲ返納スルニ方リ小銃並拳銃藥莢及螺門管ニ在リテハ定數ノ百分ノ五挿彈子ニ在リテハ百分ノ二ヲ減耗ノ定限トス之ヲ超過スルトキハ當該軍隊ノ管理費用内ヲ以テ補充スヘシ但シ臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ在リテハ軍隊ニ於テ補充スルコトナク隊長ノ理由書ヲ添フルモノトス

第五十四條 軍隊、學校ニ於テ三十一年式速射野山砲射擊ヲ行フトキハ放射シタル彈丸（榴彈ヲ及信管類ハ成ヘク之ヲ集拾シ置キ演習後之ヲ支廠ニ支廠ハ之ヲ本廠ニ返納スヘシ但シ運搬ニ要スル費用ハ支廠ニ於テ支辨スルモノトス）

第五十五條 空虛トナリタル彈藥箱、火藥箱、及火具箱ハ格納シ置キ適宜ノ時期ニ於テ軍隊、學校ニ

在リテハ支廠ニ支廠ニ在リテハ本廠ニ返納スヘシ

第十章 毀損亡失及廢兵器ノ處分

第五十六條 總テ兵器ヲ毀損亡失シタルモノハ左ノ二項ニ據リ處分ス但シ其ノ事由避クヘカラサルコトニ起因スルカ或ハ公務執行中ノ過失ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 毀損シタル兵器ノ新調ヲ要スルトキハ新調代價ノ半額（毀損品ノ相當代價ヲ控除ス）修理ニ止マルモノハ修理全價ヲ補償セシム

二 亡失シタル兵器ハ新調代價ノ半額ヲ補償セシム

一年志願兵ニモ亦本條ヲ適用スト雖モ官費服役證書ヲ付與シタルモノノ外ハ各自ニ支給スル携帶兵器ニ限り其ノ事由ノ如何ニ拘ハラヌ補償セシム

第五十七條 毀損亡失シタル兵器ハ左ノ各項ニ據リ補充ス

一 第一類兵器ヲ亡失シタルトキハ第三十八條ニ據リ代品ノ支給ヲ請求ス此ノ場合ニ在リテハ支廠長ノ檢定書ニ代フルニ保管者ノ理由書ヲ以テス

二 第二、第三類兵器及彈藥ヲ毀損亡失シタルトキハ第二十六條乃至第二十九條ニ據リ新調若ハ修理ス但シ第一類兵器ニシテ單ニ修理ニ止マルモノモ亦本項ニ據ル

三 臺灣屯在ノ軍隊及屯田兵隊ニ在リテハ前項ニ據ラス其ノ代品ヲ要スルモノハ第四十一條ニ修理ニ止マルモノハ第二十八條及第二十九條ニ據リ取扱フモノトス

第五十八條 天災事變等ニ依リ毀損亡失シタル兵器ニシテ特ニ交換支給ヲ要スル場合ニ在リテハ各保管者ハ詳細ナル理由書ヲ附シ要スレハ兵器本支廠長ノ檢定書ヲ添ヘ管理官ヲ經テ兵器監ニ請求若ハ申請シ兵器監ハ要スレハ意見ヲ具シテ陸軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十九條 前條ノ場合ニ於テ兵器ノ修理ヲ要シ其ノ管理費用内ヲ以テ支辨シ難キ者ハ各管理官ハ保管者ヨリ詳細ナル理由ヲ添ヘ陸軍大臣ニ申請スヘシ

第六十條 兵器ハ全ク其ノ用ニ堪ヘサルモノニ非サレハ廢品ト爲スコトヲ得ス
本廠長ハ必要ニ應ジ其ノ管理兵器ノ試験ヲ行ヒ又ハ支廠長ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得但シ之ヲ爲火砲射撃ヲ行フヲ要スルトキハ兵器監ノ認可ヲ受クヘシ
前項試験ノ結果修理ノ目途ナク全ク其ノ用ニ堪ヘサルモノハ廢品處分ヲナスヘシ但シ第一類兵器及彈藥ニ在リテハ兵器監ノ認可ヲ受クヘシ

第六十一條 火藥火具類ニ變敗ノ徵アリテ其ノ用ニ堪ヘサルノ虞アルトキハ管理官ハ木支廠長ニ檢定ヲ請求スルモノトス
此ノ檢定ノ爲特ニ火砲射撃ヲ要スルトキハ木支廠長ハ順序ヲ經テ兵器監ノ認可ヲ受クヘシ
檢定ノ爲消費シタル彈藥ハ之ヲ補充シ其ノ員數ヲ兵器監ニ報告スヘシ

第六十二條 前條ニ據リ檢定ノ結果火藥火具類ノ交換ヲ要スル場合ニ在リテハ各管理官ハ保管者ヨリ詳細ナル理由ヲ徵シ之ニ木支廠長ノ檢定ヲ添ヘ之ヲ兵器監ニ請求スルモノトス

第六十三條 不用並廢兵器ハ總テ木廠若ハ支廠ニ於テ處分スルヲ法トス然レトモ廢兵器ニ在リテハ軍隊、學校及築城部支部ニ於テ處分スルコトヲ得此場合ニ在リテハ豫メ當該木廠長若ハ支廠長ノ檢査承認ヲ受クルモノトス但シ第一類兵器並彈藥ノ廢品及不用兵器ノ處分ハ木廠長之ヲ兵器監ニ上申シ認可ヲ經ルヲ要ス

第十一章 要塞備附兵器使用手續

第六十四條 要塞砲兵隊ニ於テ要塞備附ノ兵器(彈藥ヲ除ク)ヲ使用セントスルトキハ當該隊長先

ツ保管者ト協働シ砲臺ノ名稱、兵器ノ種類員數、使用ノ目的及時日等必要ノ件ヲ詳記シ管理官ノ承認ヲ經テ當該支廠ヨリ借用シ使用後要塞砲兵材料保存法第四章ニ掲グル手入ヲ爲シ一週日以内ニ支廠ニ返納スヘシ
使用後ニ要スル修理材料ノ途ハ總テ當該隊長ノ責任ニシテ其ノ費用モ亦該隊ノ管理費用ヲ以テ支辨スルモノトス

要塞臨時防禦用兵器ノ使用手續モ亦本條ニ據ル

第六十五條 前條ニ據リ兵器ノ授受ヲ爲ストキハ支廠長精密ノ檢査ヲ行ヒ授受ヲ明ニシ又要スレハ隨時之カ檢査ヲ施行スルコトヲ得

返納兵器ヲ受領スルニ當リ修理及手入ノ不充分ナルモノアルヲ認ムレハ支廠長ハ更ニ之カ復行ヲ要求スルコトヲ得

第六十六條 學校其ノ他ニ於テ要塞備砲ヲ使用セントスルトキハ本章ノ手續ニ據ルモノトス

第十二章 赴任ノ際佩用刀取扱手續

第六十七條 支廠及分廠ニハ赴任用刀ヲ備フルヲ以テ准士官(明治三十二年十二月一日以前任以下赴任スルトキハ兵器委員ハ該官在リテ支廠若ハ分廠ニ赴任用刀ノ支給ヲ請求シ之ヲ佩用赴任セシメ著任ノ上ハ兵器委員ハ該官在リテハ交換方ヲ請求セシム但シ支廠或ハ分廠不在地ノ軍隊、官術學校ニハ支廠保管ノ定數内ヨリ赴任用刀ヲ適宜ニ分配貯藏セシム
勳員ニ方リ下士以下赴任スルトキハ兵器ヲ携帶セシメサルモノトス但シ臺灣ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條 前條ニ據リ兵器委員若ハ支廠或ハ分廠ニ交換方ヲ請求スルトキハ現官ニ相當スル刀

劍ヲ支給シ赴任用刀ハ直ニ返納セシム但シ軍隊、學校ニ在リテハ更ニ兵器委員ヨリ當該支廠若ハ分廠ニ返納スルモノトス

第六十九條 支廠若ハ分廠ニ在リテハ毎年五月、十一月ニ於テ赴任用刀ノ員數ヲ調査シ過數ハ之ヲ本廠ニ返納シ不足トナリタルモノハ支給ヲ受クヘレ

第七十條 中央幼年學校及砲兵工科學校保管ノ赴任用刀ハ生徒卒業赴任ノ際之ヲ支給シ著任ノ上ハ支廠ヲ經テ原所管ニ返送ス

第七十一條 軍隊保管ノ士官候補生赴任用刀ハ士官候補生士官學校分遣ノ際之ヲ支給シ著任ノ上ハ該校ニ預リ置キ卒業歸隊ノ際本人ニ支給ス

第七十二條 地方幼年學校ノ卒業生徒ニシテ中央幼年學校へ轉入ノ際要スル所ノ佩用刀ハ第六十七條及第六十八條ニ據リ取扱ヒ原所管ノ支廠ニ返送スルモノトス

第七十三條 准士官以下刑期満期、無罪免訴等ニテ原所管へ復歸ノ際刀劍ヲ要スルトキハ當該官衙ヨリ支廠へ照會シ赴任用刀ノ支給ヲ受ケ本人ニ佩用セシメ復歸後ノ取扱ハ第六十八條ニ準據ス

第七十四條 准士官以下分遣中死亡若ハ其ノ他ノ事故ニ據リ携帶ノ兵器ヲ原所管ニ返送スルヲ要スルトキハ第七十條ノ手續ニ準據ス

第十三章 雜則

第七十五條 一年志願兵ニ要スル兵器彈藥ヲハ當該軍隊用ノ定數内ヲ以テ應用シ演習用彈藥ハ第二十六條第一項ノ手續ニ據リ新調ス但シ官費服役證書ヲ付與シタルモノニ要スル彈藥並各自ニ支給セサル砲兵彈藥、騎、工兵用火具等ノ如キモノニ在リテハ一年志願兵ノ種類如何ニ拘ラス當

該軍隊ノ演習用定數内ヲ以テ應用スヘシ

第七十六條 學校若ハ官衙へ分遣中ニ在ル者ノ携帶セシ兵器ノ新調、修理、手入並第一類兵器ノ交換ハ當該學校若ハ支廠保管ノ兵器ニ準シ取扱フヘシ

第七十七條 軍隊、學校ニ於テ測腔機ヲ要スルトキハ支廠保管ノモノヲ請求シテ使用スヘシ

第七十八條 各種砲彈丸ノ帶脂ヲ要スルモノハ當該支廠ニ於テ裝著ノ上支給ス

第七十九條 平時使用セサル兵器ニシテ秋季演習ノ爲特ニ使用シタルモノノ修理手入ニ要スル費用ハ演習費ヲ以テ支辨スルモノトス

第八十條 臺灣總督ハ事變ニ際シテ陸軍大臣ノ認可ヲ經ルノ邊テ兵器廠保管ノ兵器ヲ使用セシトキハ直ニ之ヲ陸軍大臣ニ報告シ且ツ兵器監ニ通報スヘシ

附則

第八十一條 要塞備附兵器ニシテ未タ要塞司令部ノ設置ナキ場合ニ在リテハ當該本廠長之ヲ管理ス

第八十二條 演習砲臺ノ未タ完備セサル場合ニ在リテハ特別ニ某砲臺ヲ指定シ所在地要塞砲兵隊及學校ノ演習用ニ供スルコトアリ之ヲ常用砲臺ト稱ス此ノ砲臺ノ備砲射擊及觀測ニ要スル器具ヲ含ムニ在リテハ當該隊長若ハ校長修理手入ノ責ニ任シ該費用モ亦其ノ管理費用ヲ以テ支辨スルモノトス

第八十三條 要塞臨時防禦用兵器ニシテ當該要塞ニ現在セサルモノハ本廠長之ヲ管理ス

第八十四條 第四十三條第二項演習用彈藥種類ノ變更ハ當分ノ内第一支須ノ定數外ト雖同條第三項ニ準シ交換支給スルコトヲ得

(略ス)

○陸軍第六十一號

明治三十二年六月陸軍第六十二號陸軍軍師範術範中左ノ通改正ス (改正略ス)

明治三十五年五月二十六日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第六十二號

陸軍武官進級取扱規則中別紙ノ通改正シ明治三十五年六月一日ヨリ施行セラル

明治三十五年五月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

(別紙)

第一條第三中「監督部」ヲ「經理部」ニ改メ「軍吏部士官」ヲ削ル
同條第四ヲ左ノ如ク改ム

四 曹長ヲ特務曹長ニ補除スルハ各隊但シ學校附營內居住ノ曹長ヲ特務曹長ニ補除スルハ原所
屬聯(大隊)

砲工兵曹長及砲兵一等諸工長ヲ砲工兵上等工長ニ補除スルハ各兵科一等樂手ヲ樂長補ニ補
除スルハ軍樂部

一等計手ヲ上等計手ニ補除スルハ軍隊附ニ在テハ各隊官術學校附ニ在テハ各所管臺灣共ノ
他海外ニ在ル部隊附トシテ派遣サレタル者ニ在テハ原所屬部隊

同條第五ヲ左ノ如ク改ム

五 各兵科下士ハ各隊屯田歩兵科及重砲守備隊各官術又ハ各學校衛生部下士ハ各所管經理部下士
ハ左ノ如シ

一 軍隊歩砲砲工砲ニ在テハ各隊ニ於テス

二 師團軍隊ニ在テハ團下各部ヲ通ス

三 參謀本部ニ在テハ本部及其ノ管轄セル官術學校ヲ通ス

四 教育總監部ニ在テハ總監部及其ノ管轄セル學校ヲ通ス

五 陸軍大臣ニ直隸セル官術ニ在テハ各其ノ官術及其ノ管轄セル官術ヲ通ス

六 臺灣共ノ他海外ニ在ル部隊附トシテ派遣サレタル者ハ原所屬部隊ノ補除範圍ニ屬ス

第二條中「圖例第一」ノ下ニ「砲工兵曹長及砲兵一等諸工長」ヨリ「砲工兵上等工長」ニ一等樂手ヨリ樂
長補ニ拔擢スルハ「圖例第二」ニ「加ハ」圖例第二ニ「圖例第三」ニ「圖例第四」ニ改ム

第三條中「圖例第三」ヲ「圖例第四」ニ改ム

第五條 圖例第一及第二ノ最終判定官圖例第三ノ第二判定官第二判定官ナキ及圖例第四ノ第一判
定官第一判定官ナキハ第四條ノ拔擢名簿ニ就キ點檢取捨ヲ加ヘ拔擢官ニシテ本條ノ取扱ヲナ
スモノハ第四條ノ拔擢名簿ナ
キヲ以テ左ノ區別ニ從ヒ一連ノ拔擢列序ヲ定メ別紙離形ニ依リ拔擢名簿ヲ作り上長官士官ノ名簿
ハ最終ノ判定官ニ下士ノ名簿ハ裁決官ニ進達ス但シ特務曹長及憲兵曹長ニシテ進級令第十條ニ
又樂長補ニシテ同令第十九條第二項ニ當該スル者アルトキハ拔擢名簿ニ所管長官ノ確認書並ニ
考科表寫ヲ添付スヘシ

一 大尉以上ハ各兵科

二 中少尉ハ師團附ハ各將校團共ノ他ノ者ハ圖例第三ノ第二判定官ノ區畫ニ於テ各兵科ニ分
ツ特務曹長及憲兵曹長ヲ少尉
ニ拔擢スルモ此例ニ據ル

三 經理部衛生部獸醫部ノ上長官士官ハ各部軍樂部准士官ヲ士官ニ
拔擢スルモ此例ニ據ル

四 各兵科准士官下士ニシテ隊附ノ者ハ各隊屯田歩兵科及重砲守備
隊歩兵科下士ハ各中隊共ノ他ノ者ハ圖例第一及第

二ノ最終判定官、經理部衛生部下士ハ圖例第一ノ裁決官ニ於テ便宜其ノ區域ヲ定ム
 圖例第三ニ在テ第一第二判定官圖例第四ニ在テ第一判定官ナキ拔擢區域ニ於テ拔擢官トナリタ
 ル者他ノ拔擢區域ニ於テ判定官タル者ハ其ノ兩區域ヲ合シ拔擢名簿ヲ作ルモノトス
 第十條第二中「特務曹長」ノ下ニ「及上等計手」ヲ加ヘ「及」ヲ「並」ニ改ム
 第十四條 補充上必要アルトキハ特務曹長上等計手及其ノ候補者ノ補充ハ第一條ノ區域ニ依ラサ
 ルコトヲ得
 第十五條 臨時陸軍建築部臨時電信部及清國駐屯軍各部隊附武官ノ進級取扱ハ左ノ各項ニ依ルノ
 外各圖例中相當ノモノニ準據ス
 一 臨時陸軍建築部附各兵科下士ニ在テハ裁決官及除任官ハ部長拔擢官ハ高級事務官同將校ニ
 在テハ拔擢官ハ部長トス
 二 臨時電信部附各兵科下士ニ在テハ拔擢官及除任官ハ提理同砲工兵曹長砲兵一等諸工長及將
 校ニ在テハ拔擢官ハ提理第一判定官ハ軍務局長最終判定官ハ陸軍大臣トス
 三 臨時電信部附衛生部下士ニ在テハ拔擢官ハ高級軍醫又ハ直屬上官判定官ハ提理裁決官ハ醫
 務局長除任官ハ醫務局衛生課長同衛生部士官ニ在リテハ拔擢官ハ提理トス
 四 清國駐屯軍附下士陸軍大臣ノ裁決ニ關スルモノニ在テハ裁決官及除任官ハ司令官同砲工兵
 曹長及砲兵一等諸工長ニ在テハ第三判定官ハ司令官同將校ニ在テハ拔擢官ハ司令官同衛生
 部將校相當官ニ在テハ拔擢官ハ清國駐屯軍病院長トス

拔擢圖例第一

（下主）

被拔擢者	拔擢官	判定官			候補者裁決官	除任官
		第一	第二	第三		
司令部附 高級副官	高級副官			旅團長 司令官	旅團長 司令官	旅團長 司令官
各兵隊(大)中隊附 曹長、中隊長	曹長、中隊長	大隊長	聯隊長	當該旅團長	師團長	聯隊長 司令官
軍樂隊附 隊長	隊長		警備隊長	司令官		警備隊長
陸軍監獄附 高級副官	高級副官		參謀長	參謀長		參謀長
同各兵大(中)隊附 中隊長	中隊長	大隊長		旅團長	旅團總督	旅團長
參謀本部附 高級副官	高級副官			參謀本部次長	參謀總長	參謀本部次長
陸軍大學校附 高級副官	高級副官			測量部長	參謀總長	測量部長
部番部附 高級副官	高級副官			校長	參謀總長	校長
教育總監部附 高級副官	高級副官			參謀長	部督	參謀長

陸軍禮式附錄別冊ノ通定

明治三十五年五月三十一日

陸軍大臣寺内正毅

(別冊)

陸軍禮式附錄

目次

第一章 總則

第二章 閱兵式

第一節 諸兵ノ位次及隊形

第二節 閱兵式ノ施行

第三章 分列式

第一節 諸兵ノ位次及隊形

第二節 分列式ノ施行

陸軍禮式附錄

第一章 總則

第一條 此ノ附錄ハ一師團ノ爲ニ觀兵式ノ諸動作ヲ規定スルモノナリ但シ中隊以下ノ部隊大部隊ニ相合シテ觀兵式ニ列スルトキハ同兵種ノ聯(大)隊ニ編入シ共ノ聯(大)隊長ノ指揮ヲ受クルモノトス

第二條 閱兵式及分列式ノ整頓ハ常ニ右方ニ於テス

第三條 團隊附將校特務曹長ヲ含曹長及騎兵槍ヲ携フル輜重兵隊ハ拔刀シ步兵工兵隊ハ著劍ス

第四條 觀閱者乘馬セサルトキハ乘馬將校モ亦乘馬セサルモノトス但シ乘馬隊ノ將校ニ在リテハ觀閱者ニ隨從スル者ヲ除クノ外此ノ限ニ在ラス

工兵小隊長ハ觀兵式ニ在リテハ乘馬セサルモノトス

第五條 閱兵式ノ時ハ團隊ニ附屬セサル佐官以上及外國將校ニシテ乘馬ノ者ハ天皇又ハ觀閱者ニ隨從スルモノトス

第六條 觀兵式ノ各種隊形ニ於ケル軍旗及將校其ノ他ノ位置ハ本附錄附圖ニ掲グルモノノ外各兵

操典ニ據ル

第七條 砲兵輸卒及輜重輸卒ハ觀兵式ニ列セサルヲ例トス

第八條 行李彈藥小隊並段列及輜重ハ別命アルニ非サレハ觀兵式ニ列スルコトナシ

第九條 野戰砲兵隊ハ繫繩輜重兵隊ハ乘馬編成ヲ用ウルヲ例トス

步兵工兵隊ノ大隊縱隊ニ於ケル分列式ハ驅歩ヲ以テ騎兵野砲兵及輜重兵隊ノ分列式ハ速歩若

ハ驅歩ヲ以テ山砲兵ノ分列式ハ速歩ヲ以テ施行スルコトヲ得

第十條 要塞砲兵隊觀兵式ノ隊形及其ノ方法ハ步兵隊ニ、鐵道隊觀兵式ノ隊形及其ノ方法ハ工兵

隊ニ準ス

第十一條 軍樂隊ヲ有スル師團ニ在リテハ分列中總テ喇叭ヲ吹奏スルコトナシ

第十二條 本附錄ニ於テ團隊長ト稱スルハ聯隊長以上及獨立隊長トス

第二章 閱兵式

第一節 諸兵ノ位次及隊形

第一節 諸兵ノ位次及隊形

第十二條 諸兵ノ位次左ノ如シ

- 一 歩兵隊
- 二 工兵隊
- 三 野戰砲兵隊
- 四 騎兵隊
- 五 輜重兵隊

閱兵式ニ列スル教導隊ハ總テ其ノ兵科ノ右翼、要塞砲兵隊ハ野戰砲兵隊ノ右翼、鐵道隊ハ工兵隊ノ左翼トス、又野戰砲兵隊ニ於テ野砲兵、山砲兵共ニ列スルトキハ山砲兵ヲ野砲兵ノ右翼ニ位置セシム

第十四條 閱兵ノ爲諸兵ノ採用スル隊形左ノ如シ

但シ場所ノ形狀、出場人員ノ多寡ヲ酌量シ其ノ指揮官ハ適宜之ヲ變更スルコトヲ得

- 其一 歩兵隊
 - 一 横隊 (第三表)
 - 二 縦隊横隊 (第一圖)
 - 三 閉縮大隊ノ横隊 (第二圖)
 - 其二 騎兵隊 (第四表)
 - 一 横隊 (第一圖)
 - 二 閉收縦隊横隊 (第二圖)
 - 其三 野戰砲兵隊 (第五表)

- 一 横隊 (第一圖)
- 二 閉收間隔ノ横隊 (第二圖)
- 共四 工兵隊 (第六表)

- 一 横隊 (第一圖)
- 二 縦隊横隊 (第二圖)
- 三 閉縮大隊 (第三圖)
- 共五 輜重兵隊 (第七表)
- 一 横隊 (第一圖)
- 二 閉縮大隊 (第二圖)

第十五條 隊形ノ如何ニ論ナク、團隊ノ間隔ハ旅團間ヲ四十步、異兵種間ヲ三十步トシ、敵師團相合スルトキハ師團間ヲ六十步トス、但シ場所狹隘ナルトキハ此ノ間隔ヲ閉縮スルコトヲ得、此ノ間隔ハ右方團隊ノ左翼ヨリ左方團隊ノ團隊長迄ヲ測ルモノトス

第二節 閱兵式ノ施行

第十六條 天皇觀兵武場ニ臨御アラントスル稍前ニ於テ指揮官ハ「氣ヲ付ケ」ノ號音ヲ爲サシム、此ノ號音ニテ各團隊ハ第三條ノ動作ヲ爲ス

天皇臨御アレハ指揮官(其ノ參謀長ハ常ニ隨從ス)ハ前進シテ車駕ヲ奉迎シ、軍樂隊及諸隊ノ喇叭群ハ「君カ代」一回ヲ奏シ、團隊ハ捧銃、捧刀、立槍ヲ爲シ、軍旗モ亦敬禮ヲ行ヒ、將校ハ刀ノ敬禮第一節第二節ヲ爲シ、曹長ハ捧刀ヲ爲ス、而シテ軍隊立銃、肩刀、立槍ニ復スルトキ、將校ハ第三節ヲ爲シ、曹長ハ肩刀ニ復ス

第十七條 元帥、陸軍大臣、參謀總長、教育總監、臺灣總督、都督、陸軍大將及特命檢閱使タル將官、軍隊ノ長タル將官(旅團長及警備隊司令官タル大佐ヲ含ム)ニ限ル。觀閱ニ於テモ、概ネ第十六條ノ手續ニ準スヘシ。但シ觀閱者ニ對シテハ軍樂隊及諸隊ノ喇叭群ハ其ノ官職ニ應スル譜ヲ吹奏シ、唯團隊長ノミ刀ヲ以テ敬禮ヲ行フヲ異ナリトス。

第十八條 閱兵ヲ施行セラルルニ方リ指揮官ハ前進シテ天皇ヲ奉迎シ、又ハ觀閱者ヲ迎ヘ、其ノ前面約六步ノ處ニ到リテ刀ヲ以テ敬禮ヲ行ヒ、然ル後適宜ノ距離ニ進ミ、當日出場シアル將校以下ノ總人員ヲ奏上若ハ申告シ、而シテ閱兵ノ奉導或ハ誘導ヲ爲ス。此ノ時天皇又ハ觀閱者ニ軍隊ノ方ヲ讓リ、其ノ幕僚ハ指揮官ニ隨行スルモノトス。

第十九條 天皇閱兵ノ爲整列シアル軍隊ノ最右翼ニ到ラセラルレハ軍樂隊ハ「君カ代」ヲ奏ス。

天皇各軍隊ノ右翼ニ到ラセラルレハ團隊長ハ撤步前進シテ之ヲ奉迎シ、刀ヲ以テ敬禮シ、其ノ聯隊長、獨立隊長ハ該隊將校以下ノ總人員ヲ奏上ス、而シテ天皇約三十步ノ處ニ到ラセラルレハ逐次大隊長、騎兵ニ在リテハ聯隊長又大隊長ヲ、號令ヲ以テ野戰砲兵隊ハ頭右其ノ他ノ各隊ハ捧銃、捧刀、立槍ヲ爲シ、喇叭群ハ「君カ代」ヲ吹奏シ、軍旗將校モ亦敬禮ヲ行フ。天皇各隊ヨリ約十五步過キ去ラルレハ逐次前項ノ敬禮ヲ止ム。但シ甲大隊ノ喇叭群吹奏ヲ止ムルハ乙大隊ノ喇叭群其ノ吹奏ヲ始メタル時ニ於テス。

第二十條 野戰砲兵隊ハ頭右其ノ他ノ各隊ハ捧銃、捧刀、立槍ヲ爲スト、同時ニ將校以下頭ヲ天皇ノ方ニ向ケテ迎視シ、其ノ進行ニ從ヒ漸々頭ヲ旋ラシテ目送ス、而シテ立銃、肩刀、休槍ニ復スルト同時(野戰砲兵隊ハ「直レ」ノ號令ニテ)ニ頭ヲ正面ニ復スルモノトス。

第二十一條 第十七條ニ掲グル觀閱者ニ對スル團隊長以下ノ動作ハ概ネ第十九條第二十條ニ同シ。

但シ軍隊ノ敬禮ハ目送目迎ノ外第十七條ノ但書ニ同シ。

第二十二條 天皇又ハ觀閱者其ノ軍隊ノ左方ヨリ閱兵ノトキハ指揮官及團隊長ハ其ノ方ニ移ルモノトス。

第三章 分列式

第一節 諸兵ノ位次及隊形

第二十三條 分列ヲ行フニハ諸兵ノ位次ハ閱兵ノ爲ニ記載セルモノニ同シ、而シテ其ノ採用スル隊形左ノ如シ。但シ場所ノ形狀、出場人員ノ多寡ヲ酌量シ、其ノ指揮官ハ適宜之ヲ變更スルコトヲ得。

其一 步兵隊 (第九表)

一 中隊或ハ小隊面ノ全距離縱隊 (第一圖)

二 大隊縱隊 (第二圖)

三 閉縮大隊ノ縱隊 (第三圖)

其二 騎兵隊 (第十表)

一 中隊面ノ全距離縱隊 (第一圖)

二 聯隊縱隊 (第二圖)

其三 野戰砲兵隊 (第十一表)

一 閉收間隔ニ於ケル閉縮ノ中隊縱隊 (第十二表)

其四 工兵隊 (第一圖)

一 中隊或ハ小隊面ノ全距離縱隊 (第一圖)

二 大隊縱隊 (第二圖)

三 閉縮大隊

共五 輜重兵隊

(第三圖) (第十三表)

大隊縱隊

第二十四條 各團隊ノ距離ハ旅團間ヲ八十歩聯隊及異兵種間ヲ六十歩トシ 乘馬隊速歩ヲ用ウルト
ルトキハハ 數師團相合スルトキハ師團間ヲ百歩トス
此ノ距離ハ先行團隊ノ後尾ヨリ後續團隊ノ軍樂隊又ハ喇叭群迄ヲ測ルモノトス

第二十五條 軍醫戰醫上等計手列外小隊ハ別命アルニ非サレハ分列式ヲ行フコトナシ

第二十六條 各團隊團兵ノ爲整列シ分列ヲ爲ササル者ハ指揮官ノ定ムル位地ニ停止シアルモノト
ス

第二節 分列式ノ施行

第二十七條 閉兵ニ用非タル隊形如何ニ拘ラス指揮官ハ常ニ左ノ號令ヲ下ス但シ號令ニ換フルニ
記號或ハ號音ヲ以テスルコトアリ

右正面縱隊作レ

此ノ令ニテ各團隊ハ適宜ニ右方ニ面シテ縱隊ヲ作り先頭部隊ニ閉收シ步兵及砲兵聯隊ノ喇叭群
ハ第一大隊ノ喇叭群ニ合併シ工兵隊ノ喇叭群ハ其ノ隊ノ先頭ニ位置ヲ變換スヘシ但シ野砲兵
山砲兵混成ノ聯隊ニ於テ野砲兵山砲兵ト各別ニ分列ヲ行フトキハ山砲兵ノ喇叭群ハ該隊ニ屬
ス

時宜ニ依リ各隊毎ニ閉兵終レハ其ノ隊長ハ指揮官ヨリ定メラレタル分列ノ隊形ヲ作り先頭部隊
ニ閉收ス若シ分列發起點ヲ設クルトキハ先頭部隊ハ此ノ發起點迄前進シ其ノ他ノ部隊ハ順次先

頭ニ距離ヲ閉收シテ分列ノ準備ヲ爲スコトアルヘシ

第二十八條 指揮官ハ副官ヲシテ縱隊ノ行進方向ヲ標示セシメ次ニ左ノ號令ヲ下ス但シ號令ニ換
フルニ記號或ハ號音ヲ以テスルコトアリ

分列ニ前へ
進メ

「分列ニ前へ」ノ令ニテ軍旗各隊長及押伍ハ附表各隊形ニ示ス位地ニ轉移ス

「進メ」ノ令ニテ先頭部隊ハ行進ヲ起シ軍樂隊又ハ其ノ隊ノ喇叭群ハ奏樂又ハ吹奏ヲ爲ス
各分列部隊長ハ其ノ先行部隊トノ間ニ於テ所定ノ距離ヲ得ルヲ待テ「進メ」ノ號令ヲ下ス

第二十九條 指揮官ハ各團隊ヲ率ヒテ行進シ天皇又ハ觀閱者ヨリ六歩ノ處ニ到レハ刀ヲ以テ敬禮
シ約六歩ヲ過リレハ駈歩ヲ以テ右方ニ進出シ而シテ天皇又ハ觀閱者ノ右側ニ到リ少シク背後ニ
占位シ分列式全ク終ル迄同所ニ停止ス但シ其ノ幕僚ハ直行スルモノトス

第三十條 軍樂隊又ハ喇叭群ハ天皇又ハ觀閱者ヨリ約二十歩ノ處ニ到リ左側面行進ヲナシ分列ヲ
妨ケサル距離ヲ取リ更ニ右ニ方向ヲ變換シ天皇又ハ觀閱者ニ正對停止シ連續奏樂又ハ吹奏ヲ爲ス
喇叭ヲ吹奏スル分列式ニ在リテ次ノ喇叭群ハ先頭團隊ノ後尾天皇又ハ觀閱者ヲ超過シ終ルヲ見
レハ停止シナル喇叭群ノ節調ニ準フテ吹奏ヲ始メ行進ノ步調ヲ齊一ニス而シテ停止シナル喇叭
群ハ直ニ吹奏ヲ止メ捷路ヲ取テ所屬團隊ニ復歸スルモノトス但シ乘馬隊速歩或ハ駈歩ヲ以テ分
列ヲ行フトキハ其ノ隊ノ喇叭群ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク直行ス

數師團相合シテ數個ノ軍樂隊アルトキ共ノ奏樂ノ方法ハ前項喇叭群ニ就テ示スモノニ準スヘシ
但シ最後ノ軍樂隊ハ總テノ乘馬隊分列ヲ終ルマテ奏樂ヲ繼續スルモノトス

第三十一條 各團隊長ハ其ノ團隊ヲ率ヒテ行進シ刀ヲ以テ敬禮シ天皇又ハ觀閱者ノ前面ヲ過クルノ後右方ニ進出スルコト指揮官ニ同シ而シテ階級ニ應ジテ指揮官ノ右方ニ併列シ其ノ團隊通過シ終レハ其ノ場ニ於テ敬禮シ駈歩ヲ以テ其ノ團隊ニ復歸スルモノトス

天皇ニ對シテハ聯隊長及獨立隊長ハ側方ニ進出シタル後天皇ノ左側ニテ稍後方ニ移リ聖旨ヲ俟タヌ指揮官ノ定ムル所ニ從ヒ大隊長或ハ中隊長ノ職氏名ヲ奏上スルヲ異ナリトス

第三十二條 槍ヲ携フル騎兵ハ天皇又ハ觀閱者ヨリ約三十歩ノ處ニ到レハ中隊長ノ號令ニ依リ立槍ヲ爲シ約三十歩過クレハ休槍ヲ爲ス

第三十三條 各團隊長ハ天皇ヨリ六歩ノ處ニ到レハ軍旗並將校ハ敬禮シ各中隊長ハ中隊長步兵ノ閉縮ヲハ大ノ下ス頭右ノ令ニテ頭ヲ天皇ノ方ニ向ケテ注目ス六歩過クレハ軍旗並將校ハ敬禮ヲ止メ中隊長ハ直レノ令ニテ正面ニ復ス但シ行進方向ノ線上ニ在ル小隊長若ハ下士野戰砲兵ニ在リテハ右翼砲車ノ車長及取者ハ終始正面ヲ直視スルモノトス

觀閱者ニ對シ各隊ノ注目ハ前項ノ如シ但シ團隊長ノミ刀ヲ以テ敬禮ス
軍醫、獸醫、上等計手及列外小隊分列式ニ列スルトキハ天皇又ハ觀閱者ニ注目スルコト總テ各隊ニ同シ

第三十四條 乘馬隊速歩、駈歩ヲ用ウルトキハ概ネ徒步兵ノ後尾部隊禮式點ヲ過キ終ルヲ俟テ速歩駈歩ニ移ルモノトス

第三十五條 分列全ク終レハ指揮官ハ天皇又ハ觀閱者ノ前面ニ到リ敬禮ヲ爲シ聖旨若ハ命令ヲ俟ツ

第三十六條 分列終レハ各隊ハ逐次指定ノ地ニ到リ徒歩隊ハ閉收距離ノ縱隊ヲ作りテ左向ヲ爲シ

野戰砲兵隊ハ間隔ヲ閉キ各中隊左方ニ砲車縱隊ヲ編成シ他ノ乘馬隊ハ左ニ縱隊橫隊或ハ大隊縱隊ヲ編成シ天皇ノ還御若ハ觀閱者ノ退場ニ對スル敬禮ノ準備ヲ爲ス但シ場合ニ依リ分列終レハ各隊ハ直ニ退場スルコトアルヘシ

第三十七條 天皇還御ノ時ハ指揮官、記號或ハ號音ニテ各團隊長ハ第十六條ノ如ク敬禮ヲ行ヒ軍樂隊及喇叭群ハ「君カ代」三回ヲ奏シ觀閱者退場ノ時ハ第十七條ニ準シ敬禮ヲ行フヘシ

(表略ス)

○海軍省達第六十號

軍艦進水手續第一條中「新造軍艦」ヲ下ニ「驅逐艦」ヲ加フ

明治三十五年五月二十四日

海軍大臣 岡村 武

〔參照〕

海軍省達第四十四號軍艦進水手續(明治二十八年五月十九日)抄錄
第一條 新造軍艦ヲ進水セシメラル、トキハ海軍大臣水艦ノ前面ニ立テ命名書ヲ朗讀ス朗讀終リタルトキハ之ヲ鎮守府司令長官ニ授ク

命名書ハ左ノ例ニ依ル

明治何年何月此ノ何種艦ノ構造ヲ始メ今ヤ艦體ノ成ルヲ告ケ何ヤト命名セラル

海軍大臣 某

○海軍省達第六十一號

海軍下士卒履歷表左ノ通改ム (表略ス)

但シ現ニ使用中ノモノハ改ムルニ及ハス又其ノ補足ハ海軍需品庫在庫品アル限り舊式ノモノヲ使用スヘシ

明治三十五年五月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省通第六十二號

海軍下士卒履歷表取扱及記注心得左ノ如ク定ム

明治三十五年五月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍下士卒履歷表取扱及記注心得

- 一 下士卒初メテ海軍兵籍ニ編入セラル、トキハ海兵團長ハ履歷表ヲ鎮守府兵事官ニ送附シ所要ノ記注ヲ得テ之ヲ本人所屬ノ分隊長(分隊長ナキ場合ニ於テハ下士卒ノ人事ヲ取扱フ者以下同シ)ニ移シ保管セシムルモノトス
- 二 下士卒其ノ所屬ヲ變更スルトキハ之ヲ新所屬ノ分隊長ニ送附スルモノトス但シ此場合ニ於テハ本人ヲシテ持參セシムルヲ例トス
- 三 下士卒現役満期ノ時ハ之ヲ本人ニ附與シテ服役中保持セシムルモノトス
- 四 分隊長ハ第一號ニ依ル記注ノ外下士卒ノ服役中ニ於ケル履歷事項中履歷表ノ各欄ニ適合スルモノハ漏ナク確實ニ記注スヘシ
- 五 分隊長ハ履歷表ノ正確ヲ期スル爲メ時機アル毎ニ鎮守府ノ履歷簿ニ就キ照合補正ヲ行フヘシ
- 六 履歷欄内ノ記注ハ年月ノ順序ヲ逐ヒ上欄ニハ新募入團、所屬變更(由)進級、増俸、善行章行狀ノ陞級降級及復級、彼勳、受賞、外國航海發着、從軍年ノ始終期、公務上ノ傷病疾病、満期(免役)退團等ノ事項ヲ記注シ下欄ニハ入院退院、歸省逃亡、收禁、處刑(刑名)處罰(罰名)其ノ他停年ヨリ除算スヘキ事項ヲ記注スルモノトス
- 七 記注者ハ訂正スヘキ事項中左ニ掲クルモノハ所轄長ノ捺印ヲ受ケ其ノ他ノモノハ分隊長之

ニ捺印スヘシ

新募入團、所屬變更、満期(免役)退團、實務評點、進級(率)増俸、善行章行狀ノ陞級降級及復級、服役成績、伎倆證明

八 履歷表ノ記注ハ楷書ニテ明瞭ニ之ヲ行ヒ墨ヲ用フヘク洋墨汁ヲ用ユ可ラス又數字ハ年月日ノ外壹、貳、參ノ字ヲ用ヒ一、二、三ヲ用ユ可ラス

九 記注ヲ誤ルカ若ハ訂正ヲ要スルモノアルトキハ朱線ヲ畫シテ之ヲ抹殺シ側傍又ハ下方ニ正誤若ハ所要ノ記注ヲ爲シ決シテ削リ又ハ捺リ消ス等ノコトヲ爲ス可ラス

○宮内省違甲第二號

宮内省官制中左ノ通改定ス

- 一 第三十三條中「内藏助一人」ヲ「内藏主事二人」ニ改ム
- 一 第五十條宮内省高等官俸給表内藏助「ヲ」内藏主事「ニ」改ム

明治三十五年六月十四日

奉 勅

宮内大臣子爵田中光顯

○陸軍第六十五號

明治三十三年從軍記章條例ニ依リ從軍記章ヲ授與スヘキ者ノ調査手續左ノ通り定ム

明治三十五年六月三日

陸軍大臣寺内正毅

第一條 從軍記章ヲ授與スヘキ者ハ本手續ノ規定ニ從ヒ部隊官術學校ニ於テ調査シ所管長官ニ於テ連名簿ヲ調製シ陸軍大臣ニ進達スヘシ

第二條 從軍記章條例第三條ニ掲グル者中陸軍軍人及元陸軍下士卒ノ調査ハ左ノ區分ニ從ヒ明治三十五年五月十日ニ於ケル所屬又ハ所管ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ同日所屬又ハ所管ニ變更アリタル者ハ舊所屬又ハ舊所管ニ於テスヘシ

- 一 現役將校同相當官准士官（休職停職者ヲ除ク）下士卒（除ク）ニ在リテハ所屬部隊官術學校
- 二 休職停職ノ將校同相當官准士官（除ク）ニ在リテハ所屬部隊官術學校
- 三 退役將校同相當官及元陸軍下士卒ニ在リテハ其兵籍ヲ保管スル聯隊區

明治三十五年五月十日以前ニ死亡シタル者ノ調査ハ死亡當時ノ所屬又ハ所管ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三條 從軍記章條例第三條ニ掲クル者中前條ニ列記スル以外ノ者ノ調査ハ條例第三條第三項ノ期限内ニ於ケル所屬部隊官衙ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ特設部隊ニ服務セシ者ハ其編制ヲ擔任セシ部隊官衙ニ於テスヘシ

同條例第三條第二項ノ期限内ニ於テ所屬ヲ轉シタル者又ハ官職ヲ免セラレタル者ハ事變ニ關係アル最後ノ所屬ニ於テ調査スヘシ

明治三十五年五月十日以前ニ死亡シタル者ノ調査ハ前二項ニ準ス

第四條 連名簿ハ明治三十五年五月十日ニ於ケル官位勳功學位爵氏名ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第五條 從軍記章條例第三條第一號第二號ニ該當スル者ハ戰地服務者トシ同條例第三號第四號ニ該當スル者ハ内地服務者トシ各別ニ連名簿ヲ作ルヘシ

第六條 連名簿ハ本手續第二條ニ該當スル者ニ在リテハ第一號書式ニ依リ同第三條ニ該當スル者ニ在リテハ第二號書式ニ依リ調製スヘシ但シ死亡者ニ在リテハ第三號書式ニ依ル

本手續第三條ニ該當スル者ニ在リテハ第四號書式ノ履歷書ヲ連名簿ニ添付スヘシ

第七條 從軍記章條例第五條但書ニ該當スル者ニ在リテハ從軍ノ履歷及犯罪ノ事實ヲ詳記シ特ニ申渡スヘシ

第八條 明治三十五年五月十日以後ニ於テ條例第五條第一號乃至第三號ニ該當スル者ヲ生シタルトキハ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ報告スヘシ

(書式略ス)

○陸軍第六十六號

明治二十九年陸軍第七十七號中左ノ通改正ス

明治三十五年六月四日

陸軍大臣寺內正毅

一支部ノ欄名稱中「軍馬補充部福元支部」ヲ「軍馬補充部高原支部」ニ、位置中「鹿兒島縣谿山郡谷山村」ヲ「宮崎縣西諸縣郡高原村大字大鹿倉」ニ改ム

一派支部ノ欄名稱中「軍馬補充部福元支部高原派出所」ヲ、位置中「宮崎縣西諸縣郡高原村大字大鹿倉」ヲ削リ

○陸軍第六十七號

一出張所ノ欄名稱中「軍馬補充部高原支部福元出張所」ヲ、位置中「鹿兒島縣鹿兒島郡谷山村字福元」ヲ加フ

明治三十五年六月六日

陸軍大臣寺內正毅

徽章種類	類	大(中)隊ニ附與スル個數
第一	種	大隊下士 一
第二	種	大隊下士 三
第三	種	中隊兵卒 七

○陸軍第六十八號

明治三十二年陸軍第百二十三號中左ノ通改正シ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年六月六日

陸軍大臣寺內正毅

第一條第二項中「監督補一二等軍醫」ヲ「一二等副監督同軍醫」ニ各部ヲ「上記區分」ニ改ム

同條第三項中「上等工長」ノ下ニ「上等計手」ヲ「各兵科」ノ下ニ「經理部」所管ニ「加フ」
同條第四項中「一等軍樂手」ヲ「一等樂手」ニ割註中「及」ヲ「ト」各兵ニ改ム
同條第六項ヲ左ノ如ク改ム

六 一等計手ハ任官後一ケ年以上勲績ノ者ニシテ各補除範圍毎ニ現員ノ上三分一ニ在ル者
七 一等總(靴)工長ハ任官後一ケ年以上勲績ノ者ニシテ各部隊毎ニ現員ノ上三分一ニ在ル者
第三條第四項中「砲工兵上等工長」ノ下ニ「及上等計手」ヲ加フ

第四條但書中割註「各兵二等計工長」ヲ「二等計工長」ニ在テハ所管毎ニ砲ニ「衛生部」軍吏部ヲ「經理部」
衛生部ニ改メ第三項中「十分ノ二」及「十分ノ三」ノ上ニ「各」ヲ加フ
第五條中「特別隊」ヲ「特別給」ニ割註「一等計工長」ニ在テハ所管毎ニ砲ニ「衛生部」及「軍
吏部」ヲ「經理部」衛生部ニ改ム

第六條第一項中「士官」ニシテ「ノ下」ニ「經理部」ヲ加ヘ「憲兵科」輜重兵科及「監督部」ヲ削リ「軍吏部」ヲ「經
理部」ニ改メ「但特別隊」ヲ受ケタル「一等軍吏」ヨリ「監督部」ニ轉科スル者」ヲ削ル
同條第二項中割註及第三項ヲ削除ス

第八條第二項中「監督補」一「二等軍吏」ヲ「二等副監督同軍吏」ニ改メ同項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
三 上等計手ニ在テハ所管長官ニ於テス
同條第三項中「三」ヲ「四」ニ改メ「下士」ノ下ニ「及經理部計手」ヲ加フ
同條第四項中「四」ヲ「五」ニ改メ第五項ヲ削ル

第八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
第九條 平時部隊ノ職務ニ就キタル豫備役後備役下士ハ現役者ト通算シ本規程ニ據リ其人員ヲ區

分ス

第十條 戰時若ハ事變ノ爲メ召集セラレタル豫備役後備役下士ノ増給ヲナスニハ各部各隊毎ニ之
ヲ一括シ現役ト區別シ本規程ニ據リ其人員ヲ區分ス
第九條ヲ第十一條ニ改メ第十條ヲ削ル

〔参照〕

明治三十二年十一月陸軍省陸軍第二十三號ハ陸軍武官増給給與規程ナリ

○陸軍第六十九號

明治二十四年十月陸軍省陸軍第四十六號海岸砲砲煩履歷編纂規則ヲ廢止ス

明治三十五年六月六日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第七十號

本年陸軍第六十六號中ニ左ノ一項ヲ追加ス

明治三十五年六月六日

陸軍大臣寺內正毅

一 派出所ノ欄名稱中「軍馬補充部福元支部知覽派出所」ヲ「軍馬補充部高原支部知覽派出所」ニ改ム
○陸軍第七十一號

今般陸軍第六十六號ヲ以テ軍馬補充部福元支部ヲ軍馬補充部高原支部ト改稱候ニ付福元支部長同
派出所長以下職員ハ該部改稱當日ヨリ別ニ辭令ヲ用ヒス高原支部及知覽派出所ニ於ケル相當職名
ニ換稱スル義ト心得ヘシ

明治三十五年六月六日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第七十二號

明治三十四年陸軍第五十六號陸軍報告例中左ノ通改正シ到著ノ日ヨリ之ヲ施行ス (改正略ス)
但シ第二十一表乃至第二十五表ニ限り明治三十四年度分ヲ改正表式ニ依リ來ル八月三十一日迄ニ報告スヘシ

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第七十三號

臺灣陸軍軍法會議ニ於テ處斷シ地方監獄ニ拘禁スヘキ囚徒ノ内尙軍籍ニ在ル者ハ内地ニ於ケル其ノ原所屬部隊所在師管ノ衛戍監獄ニ移送シ同監獄ヨリ其ノ地ノ地方監獄ニ交付スヘシ
明治三十五年六月十八日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第七十四號

本年十一月盡日現役滿期ノ下士ニシテ昨年ニ於テ陸地測量部修技所生徒志願漏レノ者ハ明治三十四年十二月採用ノ應募者トシテ此際志願ヲ爲スコトヲ得其應募人名進達期限ハ七月盡日迄トス
但生徒採用ニ關シテハ明治三十五年陸軍省令第四號ニ依ル

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第七十五號

獸醫材料取扱規則中左ノ通改正ス
明治三十五年六月二十日

陸軍大臣寺內正毅

但シ出納命令購買契約等別ニ規定アル事項ハ此ノ限ニ在ラス

○陸軍第七十六號

衛生材料取扱規則中左ノ通改正ス
明治三十五年六月二十日

陸軍大臣寺內正毅

第九條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ購買契約等別ニ規定アル事項ハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 臺灣陸軍補給廠ニ要スル衛生材料ハ廣島衛戍病院若ハ臺北衛戍病院 屯田歩兵隊ニ要スルモノハ最寄衛戍病院ニ於テ支給交換等ヲ行フモノトス

臺灣陸軍補給廠ニ於テ臨時所要ノ治療器械調劑器械ハ廣島衛戍病院若ハ臺北衛戍病院備附ノモノヲ應用スヘシ
(表中改正削除アリ略ス)

○陸軍第七十七號

明治三十六年度以降臺灣諸部隊^{憲兵隊}定期補充馬ハ内地軍隊若ハ軍馬補充部ニ於テ調教シタルモノヲ以テ之ニ充ツ
明治三十五年六月二十六日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第七十八號

雇員備人給料支給規則中左ノ通改正シ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十五年六月二十八日

陸軍大臣寺內正毅

第三條中「毎月末日」ヲ「毎月二十二日」^{休日ニ當ルトニ改ム}ニ改ム

第四條 月給者ノ給料ハ採用ノトキ及給額増減ノトキハ發令ノ翌日ヨリ、解雇解備ノトキハ發令

ノ當日マテ之ヲ給シ、死亡ノトキハ其月ノ全額ヲ給ス
 第七條中「算入ス」ノ下ニ「但シ休日ノ前後共ニ出務日數ニ算入セサル場合ハ此ノ限ニ在ラス」ヲ加
 備給表中「法庭取締」ノ欄ヲ削ル
 備給表備考第三項ヲ左ノ如ク改ム
 第七師管ニ在リテハ月給ノ者ニ一箇月金二圓以内、日給ノ者ニ一日金五錢以内ヲ増給スルコト
 ヲ得但シ最上限二十圓ヲ超過スルヲ得ス

〔參照〕

陸軍第二十二號原員個人給料支給規則(明治三十二年三月十七日)抄録
 第三條 原員及附人ニシテ月給ノ者ハ毎月末日ハ休日ニ當ルトキニ支給シ日給ノ者ハ出務現日數ニ依リ毎月下旬適宜ニ之ヲ
 給ス但解雇解死ノトキハ其際ニ給ス
 第四條 採用ノトキ及給額増減ノトキハ其命ヲ受ケタル當日ヨリ給シ解雇解死ノトキハ其命ヲ受ケタル前日マテ給ス但死
 亡ノトキハ其當日マテ給ス
 第七條 日給ノ者ハ祭日祝日及日曜日其他命令上ノ休暇日又ハ公務ニ起因シタル傷病疾病等ニテ不參ノ日ハ出務日數ニ算
 入ス

○海軍省第六十三號

機關官勤務錄左ノ通定ム

但シ現今使用中ノ機關士勤務錄ハ本年中ニ限り機關官勤務錄ニ代用スルコトヲ得
 明治三十五年六月五日

機關官勤務錄

海軍大臣男爵山本權兵衛

敕令

一 勤務錄ハ機關ノ構造效力、實驗調査ノ事績、造修施設ニ關スル設計其ノ他勤務ニ關スル重要ナル
 事項ヲ記載スヘキモノニシテ實務ノ練熟ヲ圖リ事務ノ遂行ヲ期スルニ必要缺クヘカラサル參考
 材料タルハ勿論又將來機關ノ進歩改良ヲ促スノ好資料タルコトヲ銘記シ之カ記載ニ努ムヘシ
 一 勤務錄ハ勤務摘要(様式三)、航海記事(様式二)、雜錄(要目表(様式一))ノ四部ニ分テ記入スヘシ
 一 勤務摘要ニハ任補、分擔ノ變更、檢査修理實驗等ノ施行其ノ他勤務上ノ要件ヲ單簡ニ記載スヘシ
 而シテ是等ノ要件ニ關シ更ニ雜錄ノ部ニ詳記シタル場合ニハ其ノ頁ノ番號ヲ(頁)欄内ニ記載ス
 ルモノトス
 一 雜錄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 機關製造方法書摘要
 二 艦體區劃、防水扉、堰戸弁ノ位置並ニ符號圖
 三 主機械、主軸及重要ナル補助機械、諸裝置ノ配備略圖
 四 蒸氣管、蒸氣排出管及之ニ屬スル諸管等ノ配備略圖
 五 給水裝置及之ニ屬スル諸管諸弁等ノ配備略圖並ニ豫備水「タンク」ノ位置並ニ容積
 六 海水唧筒及之ニ屬スル諸管諸弁等ノ配備並ニ舷外ニ通スル諸管等ノ位置略圖
 七 艦内驅水裝置及之ニ屬スル諸管諸弁等ノ配備略圖並ニ驅水全力ノ計算
 八 彈藥庫内充水裝置並ニ之ニ屬スル諸管諸弁等ノ位置略圖
 九 艦内換氣裝置略圖
 十 艦内通信裝置略圖

- 十一 蒸氣筒滑弁、膨脹弁、弁運動裝置ノ構造並ニ弁線圖
- 十二 吸錫、吸錫棒、接合棒、十字頭、同滑坐等往復運動部ノ構造
- 十三 軸系及之ニ屬スル各部ノ構造及「クランク、ダーニンク、エツフオート」ノ表圖
- 十四 發停機械及發停裝置ノ構造
- 十五 推進器ノ構造及節線圖
- 十六 復水器、抽氣唧筒、送水唧筒、給水唧筒、ビルヂ、唧筒ノ構造
- 十七 汽缸並ニ汽缸構成各部ノ構造
- 十八 電氣機關ノ構造並ニ電路連絡略圖
- 十九 水壓機關ノ構造並ニ水壓管ノ配備略圖
- 二十 空氣壓縮機械ノ構造並ニ空氣管ノ配備略圖
- 二十一 蒸化器、蒸溜器其ノ他重要ナル補助機械並ニ諸裝置ノ構造
- 二十二 諸種ノ發生力量及蒸氣膨脹ノ各度ニ於ケル指壓圖並ニ合併指壓圖
- 二十三 推力曲線圖
- 二十四 回轉數、速力、馬力、消費炭量及航續距離ノ關係ヲ表スル實驗成績
- 二十五 經濟燃燒度ノ決定並ニ各種ノ發生力量ニ對スル使用噸數ノ關係ヲ表スル實驗成績
- 二十六 諸機關及諸裝置ノ效力ニ關スル實驗成績
- 二十七 安全弁其ノ他諸弁等ノ發條試驗成績
- 二十八 汽缸ノ水壓試驗又鑽通試驗ノ成績
- 二十九 機關各部ノ檢查並ニ修理ノ實況

- 三十 軍事ニ關係アル内外ノ工場倉庫其ノ他諸般ノ設備上各自ノ視察シタル事項
 - 三十一 寄港地ニ於ケル炭水其ノ他軍需品ノ購買搭載ノ便否
 - 三十二 作業其ノ他諸問題ノ答案
 - 三十三 前諸項ノ外各自ノ實驗研究シタル事項又ハ勤務上將來ノ參考ト爲ルヘキ諸般ノ事項
 - 一 要目表ニハ船體機關ノ要目ヲ精細ニ記載スヘキモノニシテ其ノ主要ナルモノヲ掲グレハ左ノ如シ
 - 一 艦艇體ノ一般要目、排水喫水馬力速力等ニ關スル計畫ノ要領並ニ實際ノ狀態、炭水其ノ他重要ナル需品ノ貯藏量等
 - 二 主機械ノ一般要目、蒸氣筒滑弁、弁運動裝置吸錫棒及往復運動部ノ裝置、軸系、軸承、復水器、諸唧筒、蒸氣分離器、支柱、架構、螺旋推進器等總テ主機械ヲ構成セル要部及屬具ノ製式、材質、大小、形狀、尺度、強弱、作動、效力等ニ關スル肝要ナル項目
 - 三 蒸氣罐ノ一般要目、胴、爐、燃室、鏡板、管板、端管、控條、蒸氣管、安全弁其ノ他諸弁等總テ蒸氣罐ヲ構成セル要部及屬具ノ製式、材質、大小、形狀、尺度、強弱、作動、效力等ニ關スル肝要ナル項目
 - 四 補助復水器、抽氣唧筒機械、送水唧筒機械、給水機械、消火機械、海水唧筒其ノ他諸唧筒機械、發停機械、回轉機械、通風機械、舵取機械、物揚機械、製水機械、蒸化器、蒸溜器、水壓用唧筒機械、空氣壓縮機械、電氣裝置、水雷艇及汽艇ノ機關等總テ補助機關及獨立諸裝置ノ製式、材質、大小、形狀、尺度、強弱、作動、效力等ニ關スル肝要ナル項目
 - 五 機關ノ重要ナル各部諸補助機械及諸裝置ノ重量
- 一 航海記事ニハ每航海一回機關日誌ヨリ拔萃又ハ統計シテ其ノ運轉成績ヲ表示スヘシ
- (樣式略ス)

○海軍省達第六十四號

明治二十六年達第八十八號ヲ廢ス

明治三十五年六月五日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治二十六年三月海軍省達第八十八號ハ欄關士勤務録ノ件ナリ

○海軍省達第六十五號

職工入夫給與規則別表中第三及第四ノ部各第一欄「十月」ノ下ニ「北海道ニ在テハ六月及九月」ヲ、各第二欄「四月」ノ下ニ「北海道ニ在テハ十月ヨリ五月」ヲ追加ス

○海軍省達第六十六號

三十三年達第八十一號通常物品出納命令官會計官吏表中品名欄港務部ノ部「艦船緊留用具」(佐世保ニ在テハ竹敷要港部及馬公要港部ニ要スル分共)ヲ「軍港要港其他ニ要スル艦船緊留用具」ニ改ム

明治三十五年六月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第六十七號

海軍文官履歷書及身上取扱規則第十三條ノ次ニ左ノ通追加ス

明治三十五年六月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第十三條乙 奏任官待遇並到任官待遇者ニ在テハ本則中各共ノ本官ニ關スル規程ヲ準用ス

○海軍省達第六十八號

海軍監獄看守海軍警査退隱料及遺族扶助料取扱手續左ノ通定ム

明治三十五年六月十九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

海軍監獄看守海軍警査退隱料及遺族扶助料取扱手續

第一條 巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ依リ海軍監獄看守海軍警査退隱料一時金又ハ扶助料請

求ニ關スル取扱手續ハ明治三十四年閣令第一號巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規定ニ依ルノ外本規定ニ依ル

第二條 退隱料及一時金請求ニ關スル書類ハ別紙(第一及第三)書式ニ依ル

第三條 明治三十四年閣令第一號巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規定第五條ニ依リ死亡ノ履歷書ヲ其ノ遺族ニ下付スルハ本省ニ於テ取扱フモノトス

第四條 明治三十四年閣令第一號巡查看守退隱料及遺族扶助料取扱規定第三條及第六條ニ掲クル書類ハ左ノ各項ニ依リ取扱フヘシ

- 一 海軍監獄看守海軍警査ニシテ職務ノ爲傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者アルトキハ所屬長ハ現認證書負傷證書若ハ罹病證書(診察ヲ爲サシ)ヲ所管長官ニ進達シ所管長官ハ審査ノ後之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ 但シ右傷痕疾病ニ因リ退職ノ際診察ヲ爲サシメタルトキ其ノ診斷書亦同シ

二 前號ニ該當シ退職シタル者若ハ在職中死亡シタル者アルトキハ本省ニ於テ前號ニ依リ受領シタル書類ヲ本人若ハ本人ノ遺族ニ下付スヘシ

(別紙)

第一書式 二通過出スルニ
以下之ニ同シ

退隱料請求書

某 儀

何年何月何日何々被申付爾來何箇年在職何年何月何日何々ニ依リ被免職務候ニ就テハ明治三十四年
法律第三十八號ニ據リ相當ノ退隱料下賜度別紙證據書類相添請求仕候也

何府何市區何町何番地士族(平民)

何縣何市區何町何番地寄留

元職氏名 ㊦

年 月 日

海軍大臣爵氏名殿

附屬スルハ申渡證據書類

- 一 履歷書
- 一 戸籍謄本
- 一 職務ノ爲メ受ケタル傷疾ニ因ル者
- 一 證據書類
- 一 月給簿本
- 一 現職證書
- 一 免職證書若ハ備前證書
- 一 診斷證書

(用紙美濃紙)

第二書式

(用紙美濃紙)

一時金請求書

某 儀

何年何月何日何々被申付爾來何箇年在職何年何月何日何々ニ依リ被免職務候ニ就テハ明治三十四年
法律第三十八號ニ據リ相當ノ一時金下賜度別紙證據書類相添請求仕候也

何府何市區何町何番地士族(平民)

何縣何市區何町何番地寄留

元職氏名 ㊦

年 月 日

海軍大臣爵氏名殿

附屬スルハ申渡證據書類

第二書式

(用紙美濃紙)

履 歷 書

何府何市區何町何番地士族(平民)

何縣何市區何町何番地寄留

職 氏 名

何年何月何日生

明治何年	何月何日	何々申付
同	同	給何級俸
同	同	何々ニ依リ何級俸ニ改正
同	同	給何級俸
同	同	何々ニ依リ免職 <small>(免職ノハ一時期ニ限リ之ヲ受ケタリ)</small>
同	同	給何級俸
同	同	給何級俸
同	同	何々ニ依リ免職

右之通相違無之儀也

年 月 日

元 職 氏 名 ④

○海軍省達第六十九號
 海軍下士卒身上取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十五年六月二十日
 海軍大臣男爵山本權兵衛

第一條ノ左例中佐世保鎮守府ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 舞鶴鎮守府ノ兵籍ニ入ルモノ
〔徴兵ハ舞鶴何級 志願兵ハ舞鶴何級〕

第五條第一項中「下士卒ニ轉勤ヲ命シ或ハ退院若ハ」ヲ「下士卒ニ轉勤出張等ヲ命スルトキ及退院ニ改メ第二項中」之カ取締ヲ爲サシムヘシ」ヲ「之カ取締ヲ爲サレメ九人以上ナルトキハ隊伍旅行ヲ命スルモノトス」ニ改ム

第六條中「出獄セシムルトキ」ヲ「出獄セシムルニ方リ」ニ改メ但書ヲ削除ス

第六條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第六條ノ二 前條ノ場合及其ノ他ノ事由ニ依リ下士卒ヲ所屬ノ艦團其ノ他各部ニ送ルニ方リ事故アリテ出發セシムルコト能ハサルトキハ一時其ノ地ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得

第六條ノ三 下士卒轉勤若ハ出張等ノ爲メニ出發シ途中事故アリテ滞在ヲ要スルトキハ一時附近ノ海兵團ニ入團セシムルコトヲ得

第六條ノ四 前二條ノ場合ニ於テ入團者ノ身上ニ關スルコトハ該海兵團長之ヲ掌ルモノトス

第八條中但書ヲ削除ス

第十八條中「臺灣總督府海軍幕僚附及馬公水雷敷設隊」ヲ「馬公要港部」ニ改ム

第十九條中「月ノ盡日」ヲ「日」ニ改ム

〔參照〕

海軍省達第九十七號海軍下士卒身上取扱規則(明治三十一年六月二十三日)抄録

第一條 下士卒ノ入籍番號ハ左ノ例ニ依リ第一號ヨリ順次付與スヘシ

第五條 下士卒ニ轉勤ヲ命シ或ハ退院若ハ出獄等ニ依リ其ノ所屬ノ艦團其ノ他各部ニ歸致セシムルトキハ出發セシムル艦團其ノ他各部ニ於テ行路ヲ指定シ其ノ旨到著スヘキ艦團其ノ他各部ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ四人以上同一ノ地ニ發向スルトキハ其ノ先任者ヲシテ之カ取締ヲ爲サシムヘシ

第六條 下士卒ヲ退院若ハ出獄セシムルトキ其ノ乘組艦艇離隔ノ地ニ在ルカ或ハ其ノ所在不明ナルトキハ之ヲ本人在籍鎮守府ノ海兵團ニ送ルヘシ但シ事故アリテ出發セシムルコト能ハサルトキハ一時其ノ地ノ海兵團ニ入團セシムヘシ

第八條 下士卒ノ進級俸轉勤轉勤入院退院死亡逃亡賞罰及證書懸狀ノ授與其ノ他兵籍上ノ異動ニ係ルモノハ總テ其ノ所轄長ヨリ本人在籍鎮守府ノ兵籍官ニ通知スヘシ但シ懲罰ニ限リ每一箇月取極メ翌月以テ通知スヘシ

第十八條 臺灣總督府海軍幕僚附及馬公水雷敷設隊勤務ノ下士卒ニシテ轉勤百日以上ニ及ル者交代シテ内地へ歸還スルトキハ便宜各自二十日以内ノ上陸若ハ外出ヲ許可スルコトヲ得

第十九條 下士卒ノ服役ハ定限年數ニ達シタル月ノ盡日ヲ以テ其ノ終期トス

○海軍省達第七十號

雇員備人給與規則第二表中「鐵業工」ノ次ニ「鐵道線路工夫」ヲ追加ス

明治三十五年六月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十一號

雇員備人規則中ニ左ノ追加加ス

明治三十五年六月二十日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條左表中「倉庫丁」ノ欄「下瀬火藥製造所」ノ下ニ「水路部」ヲ加フ
同表中「電機工夫」ノ次ニ左ノ欄ヲ加フ

鐵道線路工夫 佐世保鎮守府經理部

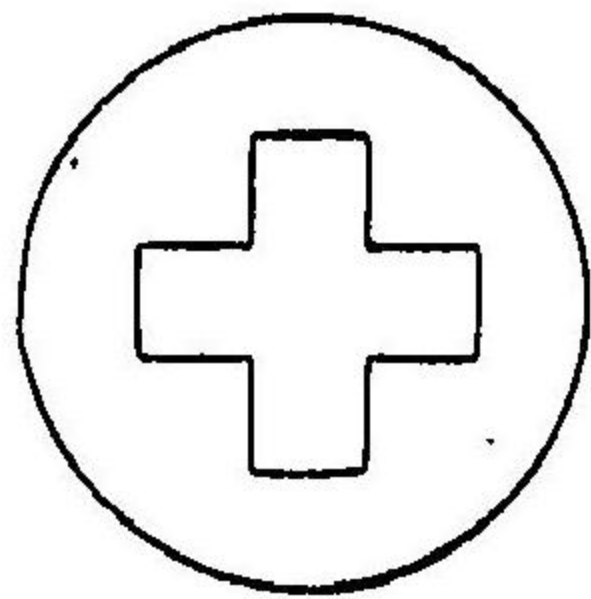
○海軍省達第七十二號

戰時若ハ事變ニ際シ戰地若ハ之ニ均シキ地方ニ在テ勤務スル海軍軍醫官同藥劑官並之ニ附屬ノ諸員ハ左記ノ符章ヲ佩用スヘシ一千八百六十四年シニエテヴァ條約ノ原則ヲ海戰ニ應用スル條約ニ依リ海軍ニ於テ艦裝シタル病院船ノ乘員亦同シ

明治三十五年六月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

赤十字符章 地質自赤絨 (原圖ノ二分一)



上表及外符ノ右臂ニ附ス

製式白地ニ赤十字圖ノ如シ

○海軍省達第七十三號

艦隊職員勤務令第二條ヲ第二條ノ一トシ同條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

明治三十五年六月二十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二條ノ二 司令長官ハ幕僚及旗艦增加定員ヲ一時麾下艦船ニ分乘セシムルコトヲ得

○海軍省達第七十四號

鎮守府處務規程第十二條中「他人」ヲ「海軍部外ノ者」ニ改メ第三十三條中「配付スヘシ」ヲ「配置シ司令長官ヲ經テ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ」ニ改ム

明治三十五年六月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

海軍省達第六十號鎮守府處務規程(明治三十四年五月十四日)抄錄
第十二條 司令長官ハ内國港灣ニ於テハ事停止ヲ得スト此場合ニアラサレハ陸下艦船ニ他人ヲ便乘セシムルコトヲ得
ス若シ之ヲ便乘セシムタルトキハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第三十三條 經理部長ハ部下ノ課員及判任官ヲ各課科ニ配付スヘシ

○海軍省達第七十五號

艦隊職員勤務令第十九條中「他人」ヲ「海軍部外ノ者」ニ改ム

明治三十五年六月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第七十六號

要港部處務規程第九條中「他人」ヲ「海軍部外ノ者」ニ改ム

明治三十五年六月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

本月十一日ヨリ來ル九月十日マテ諸官員暑中休暇ヲ賜フ但明治七年七月第八十四號達ノ通心得ヘ

各官廳

明治三十五年七月四日

内閣總理大臣伯爵桂 太郎

〔參照〕

太政官第八十四號達(明治七年七月三日)

本月十一日ヨリ九月十日迄諸官員休暇ヲ賜候條各員申合御用差支無之様可致尤賜暇中旅行ノ儀モ被差許候間其行先可届出此旨相達候事

但各廳共長官ヨリ御用ノ都合見許休暇可申達事

○陸達第七十九號

明治三十五年經理學校へ入校セシムヘキ監督學生ノ人員ハ二十七名トシ入校時期ハ十二月十二日トス

明治三十五年七月三日

陸軍大臣寺内正毅

○陸達第八十號

一等計手ニシテ明治三十六年六月末日マテニ停年最下限ヲ超ユル者ハ同年裁決期マテノ間陸軍武官進級取扱規則ノ抜擢期及裁決期ニ拘ラス隨時上等計手ニ拔擢進級セシムルヲ得ルコトニ定メラ

明治三十五年七月二日

陸軍大臣寺内正毅

明治三十五年七月

内閣無効
陸軍省陸達第七十九號 陸達第八十號

○陸軍第八十一號

明治三十一年陸軍第二十八號部隊衛戍地名及所在地名表中左ノ通改正ス
明治三十五年七月十日 陸軍大臣寺內正毅
鐵道大隊欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

步兵第三十聯隊 村 松 新潟縣中蒲原郡普名村

騎兵第四聯隊ノ欄及步兵第四十二聯隊ノ欄ヲ削ル

第八師團司令部
步兵第三十一聯隊欄中「第八師團司令部」ヲ削ル
騎兵第八聯隊
工兵第八大隊欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

步兵第五聯隊 村 森 青森縣東津輕郡筒井村

步兵第四十聯隊欄中「稻葉村」ヲ「國府村」ニ改ム

第十一師團司令部乃至輜重兵第十一大隊欄中「香川縣多度郡麻野村」及步兵第四十三聯隊乃至工兵第十一大隊欄中「同縣同郡普通寺村」ヲ「香川縣仲多度郡普通寺町」ニ改ム

由良要塞砲兵聯隊鳴門分屯隊ノ欄及函館要塞砲兵大隊ノ欄ヲ削ル

○陸軍第八十二號

明治三十五年陸軍經理學校學生試驗格例別表ノ通定ス
明治三十五年七月十日 陸軍大臣寺內正毅

(別表)

明治三十五年陸軍經理學校監督學生試驗格例

考關	試本	試本			備
		記	代	作	
一	筆記試驗ニ係ルモノモ口述試驗ヲ以テスルコトアルヘシ	幾	何	數	初等
		三	角	平三角	立體
二	外國語學ハ俄國英語支那ノ内受驗者ノ希望ニ依リ必ス其ノ一ヲ試驗ス	外國語學	文法	原文和譯	和文反譯
		會計經理	作製	ニ關スル給養後方勤務	

○陸軍第八十三號

工科及理科大學陸軍砲工學校員外學生修學規則中左ノ通改正ス
明治三十五年七月十日 陸軍大臣寺內正毅

第三條 砲工學校長ハ員外學生中帝國大學ニ入學セシムヘキ者及其修ムヘキ學科ヲ定メ教育總監

ニ上申シ教育總監ハ審査裁決ノ上豫メ之ヲ大學總長ニ通報ス

第六條 員外學生ハ砲工學校卒業ノ翌年九月ニ於テ工科若クハ理科大學ニ入學シ其修學期ハ總テ約三箇年トス

第十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第十一條ノ二 員外學生中病氣其他ノ事故ニ因リ所定ノ時期ニ帝國大學へ入學シ得サル者又ハ所定ノ期限ニ於テ大學ノ科程ヲ修了シ得サル者アルトキハ砲工學校長事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ入學又ハ修學期ヲ延ハスコトヲ得

〔參照〕

陸軍第七號工科及理科大學砲工學校員外學生修學規則(明治三十三年一月二十九日)抄録

第三條 砲工學校長ハ學生卒業ノ時期ニ方リ帝國大學ニ入學セシムヘキ員外學生及其修學スヘキ學科ヲ定メ之ヲ教育總監ニ呈ス同監ハ審裁裁決ノ上十二月下旬迄ニ之ヲ大學總長ニ通報ス

第六條 工科員外學生ハ九月理科員外學生ハ一月入學シ其修學期ハ工科ニ在テハ約二年理科ニ在テハ約二年半トス

○陸軍第八十四號

明治二十四年陸軍第七十號第三項但書ヲ左ノ通り改ム

明治三十五年七月十四日

陸軍大臣寺內正毅

但シ再審試験ノ爲派遣セラレタル陸軍大學校學生候補者ノ滞在日當及復歸旅費竝ニ本試験ノ爲派遣セラレタル陸軍經理學校學生候補者及監督講習生候補者ノ滞在日當ハ原部隊ニ於テ支給スヘシ

○陸軍第八十五號

本年採用スヘキ經理學校學生ニ係ル事項左ノ通定ム

陸軍大臣寺內正毅

一 豫備試験問題左ノ通

論文

軍隊會計經理ノ組織及實行法ヲ論ス

二 學生志願者ハ本年九月二十日迄ニ經理學校條例ニ依リ答按ヲ提出スヘシ

○海軍省達第七十七號

海軍戰時給與規則施行細則第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治三十五年七月八日

海軍大臣野島山本權兵衛

戰地若ハ之ニ均シキ地方ニ在リテ勤務スル軍醫官藥劑官竝ニ之ニ附屬ノ諸員及病院船ノ乘員ニハ赤十字臂章二箇ヲ給與ス

○會計検査院達第三號

明治二十三年十二月ニ 本院達第三號政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ受クル各會社收入支出決算證

明規程第一條ニ據リ株式會社日本興業銀行ヨリ證明スヘキ收入支出計算書式ハ明治三十一年三月十七日本院達第二號ニ準據スヘシ

明治三十五年七月十九日

會計検査院長法學博士野田尻稻次郎

○陸連第八十六號

明治二十三年陸連第三十三號中供給ヲ買買ニ改メ左ノ一項ヲ追加シ本年九月一日ヨリ施行ス

明治三十五年八月二日

陸軍大臣寺内正毅

第三 公債證書ヲ以テ納付セントスル者ハ利附ノモノニ限ル
但公債證書ノ價格ハ時價ニ依ル

〔参照〕

明治二十三年六月陸連第三十三號ハ工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ契約ヲ結ハントスル者ノ保證金ニ關スル件ナリ

○陸連第八十七號

明治三十二年陸連第百三十四號隊附現役下士、現役兵卒中營外ニ居住又ハ外泊セシムヘキ人員ノ規定中左ノ通改正ス

陸軍大臣寺内正毅

明治三十五年八月九日

第一項中「及一等看護長」ヲ「一等看護長及一等計手」ニ改ム

第二項第一號中「及二等看護長」ヲ「二等看護長及二等計手」ニ改ム

第二項第四號中「二等蹄鐵工長」ノ次ニ「二等計手」ヲ加ヘ「上半數」ノ次ニ「但當分ノ内ニ二等計手ハ總テ營外ニ居住セシム」ヲ加フ

○陸連第八十八號

清國駐屯歩兵大隊及韓國駐節隊ノ下士兵卒ニハ歩兵射擊教範第十一章第百五十二ノ規定ニ依ラス射擊徽章別表ニ依リ附與スルコトニ定メラル

明治三十五年八月 陸軍省陸連第八十六號 陸連第八十七號 陸連第八十八號

明治三十五年八月二十二日

陸軍大臣寺內正毅

(別表)

射擊徽章附與區分員數表

種	類	區	分	員	數
第一	種	特別	射手	大隊ヲ通シ二十名毎ニ一箇トシ十一名以上二十名ヲ増ス 毎ニ更ニ一箇ヲ増ス但シ射手ノ總數二十名ニ滿タサル トキハ附與スルコトナシ	
第二	種	一等	射手	下士ハ大隊、兵卒ハ中隊内ヲ通算ス其ノ徽章ノ員數ハ前 ニ同シ	
第三	種	二等	射手	中隊ノ兵卒ヲ通算ス其ノ徽章ノ員數ハ前ニ同シ	
第四	種	三等	射手	中隊ノ兵卒ヲ通算シ四十名毎ニ一箇トシ二十一名以上四 十名ヲ増ス毎ニ更ニ一箇ヲ増ス但シ射手ノ總數四十名 ニ滿タサルトキハ附與スルコトナシ	
考備	本表ノ區分員數ハ一地ニ駐在スル分遣中隊ニ在リテモ之ヲ準用スルコトヲ得				

○陸軍第八十九號

諸學校學生及教導隊分遣下士卒取扱規則左ノ通定ム

但シ明治三十三年陸軍第五號、明治二十二年訓令乙第七號及明治三十一年訓令乙第九號ハ之ヲ廢止ス

明治三十五年八月二十六日

陸軍大臣寺內正毅

諸學校學生及教導隊分遣下士卒取扱規則

第一條 戶山學校、騎兵實施學校、野戰砲兵射擊學校、要塞砲兵射擊學校學生及教導隊分遣下士卒ハ左ノ規定ニ依リ取扱フヘシ

第二條 學生中退學シタル者アリテ其ノ時期之ヲ補缺スルヲ適當トスルトキハ學校長所管長官ノ認可ヲ請ケ當該隊長ニ補缺員ヲ分遣スヘキ旨通報シ隊長バ直ニ之ヲ分遣シ後師團長(旅團下ノ聯隊ニ在リテハ旅團長ニ報告スヘシ)

第三條 學生ハ他ニ轉セシメサルヲ例トシ止ムヲ得サル必要アリテ轉セシメタル時ト雖依然修學ヲ終ラシムルモノトス

第四條 學生ハ進級ノ爲退學セシメサルモノトス但シ大尉ヨリ少佐ニ進級シタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 下士候補生又ハ短期下士候補生ハ教導隊ハ分遣セシメサルモノトス

第六條 教導隊分遣ノ軍曹中曹長ニ進級セシムヘキ者アルトキハ原隊ヨリ學校長ニ照會シ代人ヲ分遣シテ交代セシメ師團ノ上進級セシムヘシ但シ其ノ時期本人定期交代ニ間近ヤトキハ隊長ヨリ學校長ニ照會シ代人ヲ分遣セシメテ本人ヲ師團ニ歸隊セシムルコトヲ得

第七條 教導隊分遣下士中該學校附ニ轉シタル者若ハ同下士卒中病氣其ノ他事故ニ依リ歸隊セシムル者アルトキハ學校長ヨリ隊長ニ照會シ之カ代人ヲ分遣セシムヘシ但シ前條但書ノ規定ハ本條ニモ亦之ヲ準用ス

第八條 教導隊分遣下士卒中前二條該當者ヲ除クノ外ハ進級進階若ハ命課換ノ爲定期交代ニ先チ歸隊セシムルコトナシ

○海軍省第七十八號

雇員備人規則第三條別表中舞鶴水雷團ノ次ニ左ノ欄ヲ追加ス

明治三十五年八月 海軍省第七十八號

明治三十五年八月一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

大湊水雷團

一 二 三 一

○海軍省達第七十九號

海軍諸法令中定緊港ノ境域ヲ左ノ通定ム

明治三十五年八月九日

海軍大臣男爵山本權兵衛

橫須賀軍港 烏帽子島ヨリ夏島ノ東端ヲ經テ勝力崎ニ至ル接合線以內

吳軍港 隠戸瀬戸以內早瀬々戸以內切串崎ト龜石鼻トヲ接シタル一線以內

同 江田島 津久茂瀬戸以內

佐世保軍港 早岐瀬戸以內針尾瀬戸以內向後崎ト水尻鼻トヲ接シタル一線以內

舞鶴軍港 黒鼻ト金ヶ崎トヲ接シタル一線以內

竹敷要港 大口以內久須保水道以內大船越瀬戸以內

馬公要港 風櫃尾南西端ト東鼻頭トヲ接シタル一線以內橫濱馬ト牛角トヲ接シタル一線以內

大湊 葦崎ト大荒川口トヲ接シタル一線以內

長崎 香燒瀬戸以內雀島ト松島ト觀音崎トヲ接シタル一線以內

○海軍省達第八十號

航泊日誌摘要報告第一頁中此ノ報告ハ月報トシ毎月軍艦定期現狀報告ト共ニ進達スヘシ及此ノ報告ハ艦艇及水雷敷設隊現狀報告規則第二條ニ依リ之ヲ調製進達スヘシヲ削ル

但現在用紙ハ訂正ノ上使用スヘシ

明治三十五年八月十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十一號

海軍軍人俸給加俸支給細則第四條中左ノ通改正ス

明治三十五年八月二十八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第二項ヲ左ノ通改ム

俸給令第六條第一項及第二項ノ航海加俸ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ支給ス

一 在役軍艦ノ定員及乗組候補生若ハ在役水雷艇ノ乘員ニハ就役ノ命令受領ノ日ヨリ解役ノ命令受領ノ日マテ但シ俸給令第六表ノ航海加俸ハ定緊港外ニ出航ノ日ヨリ入港ノ日マテ

二 豫備軍艦ノ定員及乗組候補生若ハ豫備水雷艇ノ乘員ニハ定緊港外ニ出航ノ日ヨリ歸港ノ日マテ但シ修理等ノ爲メ出航スルトキハ指定地著ノ翌日ヨリ其ノ地發ノ前日マテ航海加俸ヲ支給セシ

三 定緊港外ニ於テ解役ノ命令ヲ受ケタル軍艦ノ定員及乗組候補生若ハ水雷艇ノ乘員ニハ定緊港ニ歸港ノ日マテ但シ特ニ滞泊ヲ命シタルトキハ其ノ翌日ヨリ其ノ地發ノ前日マテ航海加俸ヲ支給セシ

第三項中「第二項」ヲ「第三項」ニ「第四項中「第三項」ヲ「第四項」ニ改ム

○會計検査院達第四號

明治三十四年會計検査院達第二號第三號及第四號各徵收額證明規程中左ノ通追加ス
右相違ス

明治三十五年八月五日

會計検査院長法學博士男爵田尻稻次郎

- 一 租税徴収額證明規程第二條第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ追加ス
- 三 金庫出納區域以外ノ金庫ニ納入セシメタルモノアルトキハ其金額及金庫名
- 一 海關稅噸稅及稅關雜收入徴収額證明規程第一號書式收入未濟額ノ次備考欄ニ左ノ一項ヲ追加ス
- 金庫出納區域以外ノ金庫ニ納入セシメタルモノアルトキハ其金額及金庫名ヲ備考ニ詳記スヘシ
- 一 租税外歳入徴収額證明規程第三條第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ追加ス
- 七 金庫出納區域以外ノ金庫ニ納入セシメタルモノアルトキハ其金額及金庫名

○會計検査院達第五號

明治三十四年會計検査院達第二號租税徴収額證明規程第三號海關稅噸稅及稅關雜收入徴収額證明規程第四號租税外歳入徴収額證明規程明治三十三年第二號收入證明規程明治三十二年第一號支出證明規程第二號仕拂證明規程明治三十三年第一號金庫出納證明規程明治三十二年第三號政府ヨリ現金前渡ヲ受ケタル銀行仕拂證明規程明治二十四年第二號歳入歳出外現金出納證明規程中左ノ通

改正ス

明治三十五年八月二十八日

會計検査院長法學博士男爵田尻稻次郎

- 一 租税徴収額證明規程第一條ニ左ノ一項ヲ加フ
- 歳入徴収額計算書ノ提出期限ハ翌年度七月十五日マテトス
- 一 海關稅噸稅及稅關雜收入徴収額證明規程第一條ニ左ノ一項ヲ加フ
- 歳入徴収額計算書ノ提出期限ハ翌年度五月三十一日マテトス但處分未了ノ者アルトキハ共事由ヲ會計検査院ニ報告シ七月十五日マテニ提出スヘシ

一 租税外歳入徴収額證明規程第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

歳入徴収額計算書ノ提出期限ハ翌年度五月三十一日マテトス但處分未了ノ者アルトキハ共事由ヲ會計検査院ニ報告シ七月十五日マテニ提出スヘシ

一 收入證明規程第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

收入計算書ノ提出期限ハ年度經過後一箇月以内又交替ヲ爲シタルトキハ其交替後三十日以内トス

一 支出證明規程

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

支出計算書ノ提出期限ハ翌月十五日マテトス

第九條第一項中第十條第一項中第十一條中及第十二條第一項中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム

第九條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五 會計規則第七十三條但書ニ依リタルモノアルトキハ共事由書

一 仕拂證明規程

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

仕拂計算書ノ提出期限ハ翌月十五日マテトス

第八條第一項中第九條第一項中第十條中及第十一條第一項中「五百圓」ヲ「千圓」ニ改ム

第八條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

五 會計規則第七十三條但書ニ依リタルモノアルトキハ共事由書

一 金庫出納證明規程

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

金庫出納計算書ノ提出期限ハ年度經過後三箇月以内又金庫出納内譯書ハ翌月十五日マテトス
第二條中「七月ヲ六月」ト改ム

一政府ヨリ現金前渡ヲ受ケタル銀行仕拂證明規程第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

仕拂計算書ノ提出期限ハ翌月十五日マテトス

一歳入歳出外現金出納證明規程

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

歳入歳出外現金出納計算書ノ提出期限ハ年度經過後一箇月以内又交替ヲ爲シタルトキハ其交替後三十日以内トス

第四條 下検査ヲ執行スル官吏ニ於テ現金出納計算書及證據書類ヲ受ケタルトキハ十五日以内ニ下検査ヲ執行シ之ヲ提出スヘシ

○陸運第九十號

陸軍藥局方中別冊ノ通改正ス (別冊略ス)

明治三十五年九月五日

陸軍大臣寺内正毅

○陸運第九十一號

臺灣島及澎湖島駐紮陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十五年九月六日

陸軍大臣寺内正毅

第一條中「糧食」ノ下ニ「及各兵隊馬ノ馬糧」ヲ加フ

第八條第一項中「第五表ニ」ノ下ニ「應附ノ者ハ」ノ割註ヲ加フ

第九條中「出發ノ日」ヲ「出發ノ時」ニ「歸著ノ日」ヲ「歸著ノ時」ニ改ム

附表第四表ノ備考中「調理用鹽節及砂糖」ヲ「調味用品」ニ改ム

附表第五表ヲ別表ノ如ク改ム

附表第六表附料ノ區畫中「八錢四厘」ヲ「七錢五厘」ニ「三錢六厘」ヲ「三錢」ニ「第五表ニ依リ補給廠長所定ノ額」ヲ「第五表ニ依ル」ニ備考第三項中「一錢」ヲ「二錢五厘」ニ改ム

附表第八表備考第二但書中「二箇年」ノ下「工兵ノ作業衣ノ割註ヲ加フ」

附表第十表摘要ノ區畫中「守警」ノ次ニ「庫手」ヲ加フ

附表第十二表ヲ別表ノ如ク改ム

附表第十三表中夏外套及木小絨襦袢、木小絨腹巻ノ摘要區畫中「守警」ノ次ニ「庫手」ヲ加ヘ防蚊覆面同手套ノ支給區分區畫中「毎年一箇」ヲ給ス」ヲ「實際ノ損破ニ依リ換給ス」ニ改ム

附表第十五表ヲ別表ノ如ク改ム

(別表)

第五表

備考	米		貯料ノ額	夜食料
	一人一日ノ額	標準額		
海軍總督ハ經理部長ヲシテ地方ノ狀況ヲ酌量シ各地方ノ貯料定額ヲ定メシメ之ヲ陸軍大臣ニ報告シ且經理部長ヲシテ各隊ニ通報セシムヘシ但各地也在部隊ノ人員ト木文所定ノ額トヲ以テ算定シタル一人一日ノ平均額ハ本表貯料標準額ニ超過スルヲ得ス 各衛戍病院ノ貯料ハ各其所在地ノ額ニ依ル	六	十	五	六
	六	十	五	六

第十二表

備考	品目	保存期限	備附定數	
			臺北衛戍病院	臺中衛戍病院一臺南衛戍病院
	厚毛布六枚一組	十年	六〇五	六二〇
	包布	五年	六〇五	六二〇
	大蒲團	五年	六〇五	六二〇
	敷布二枚一組	二年	六〇五	六〇〇
	大枕	三年	六〇五	六〇〇
	大蚊帳	五年	六〇五	六二〇
	單病衣	一年六箇月	九三〇	一、一四五

第十五表

備考	隨着						用						
	蚊帳	枕	敷布二枚一組	蒲團	包布	厚毛布四枚一組	上靴	散步笠	狂病衣	帶	襪	綿入病衣	給病衣
看護用上靴ハ患者用定數中ニ包含ス 本表定數ハ營隊各分院ノ分ヲモ包含ス	五年	三年	二年	五年	五年	十年	六箇月	二年	三年	二年	一年	六年	三年
	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇五	一四〇	一〇	八四〇	九三〇	四六五	八四〇
	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六二〇	一四五	一〇	八六〇	九五五	二八五	八六〇
	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	六〇	一四〇	一五	八七五	九二〇	一八五	八三〇

種	雨	外		表				日	襪	絨					帽		
		乘	徒	工	砲	騎	步			衛	經	工	砲	騎	步	衛	經
		馬	步	兵	兵	兵	兵			部	部	兵	兵	兵	兵	部	部
三六〇	二〇	四五	三〇	三三	四八	二五	二七五	三六〇	三八〇	二〇	二〇	三三	四八	二五	二三五	二〇	二〇
一年六箇月	十年	十一年六箇月	二年六箇月				七年六箇月	二年六箇月	四年六箇月					五年			

背	作	水	飯	拍	靴	手	麻	絨	背				長	半	工	短
									第	第	第	士				
									三	二	一	官				
三六〇	三〇	三八〇	三八〇	三五	三八〇	三五	二〇	八八	三三	二二五	二〇	二二五	三三	三六〇		
五年	七年六箇月	五十年	二年六箇月	十五年	一箇月	三箇月	二年六箇月	十五年				一年六箇月	一年三箇月			

厚毛布	一五〇	四十二年六月
蒲團	五〇	二十二年六月
敷布	五〇	十年
枕	五〇	二十二年六月
蚊帳	五〇	四十二年六月
被服手入具	五〇	十年
夏外	五〇	五年
本小被褥	五〇	二年六月
同	五〇	
備考	本表ノ被服ハ海軍總務部ニ各守備隊ニ分配スヘシ 本表ノ外六週間現役兵ニハ軍隊手帳ヲ給ス	

○陸軍第九十二號

聯隊區司令部服務規則中左ノ通改正ス

明治三十五年九月十二日

陸軍大臣寺內正毅

- 第二條 司令官ハ司令部職員及部務補助ノ爲派遣セラレタル將校以下ノ事務分掌ヲ定ムヘシ
- 第六條 削除
- 第七條中「任ス」ヲ「任シ且廳印ヲ管守スヘシ」ニ改ム
- 第八條 削除
- 第十一條中「庶務」ヲ「事務」ニ改ム

第十二條 削除

第十三條中第九號「第一補充兵」ノ下ニ「召集ニ應シタル者」ヲ加ヘ第十號ヲ左ノ如ク改ム

十 未教育第一補充兵及第二補充兵ノ補充兵名簿召集ニ應シタル者ヲ加ヘ其ノ兵籍及戰時名簿在リテハ其ノ兵籍及戰時名簿

第十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

補充兵名簿ハ前項ト同一ノ取扱ヲナスヘシ但シ第一補充兵輜重輸卒ノ補充兵名簿ハ本人召集ニ應シタル後ハ之ヲ保存スルヲ要セス

第二十條中「其許可狀」附錄第一樣式ヲ附與スヘシ「ヲ」許可ノ指令ヲ爲スヘシニ改ム

第二十一條中「寄留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ許可ノ者」聯隊區外ニ係ルトキ亦同シ「ヲ」寄留地聯隊區ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ許可シタル者アルトキ亦同シニ改ム

第二十五條中「別ニ其要領ヲ記シタル書面」附錄第二樣式ニ「願屆書ノ末尾ニ其ノ要領ヲ記シ」ニ改メ同條ニ左ノ一項ヲ加フ

總テ指令ヲ與ヘメルモノハ其ノ要旨ヲ記シ保存スヘシ

第二十六條中「聯隊區司令部」ノ下ニ「ニ」ヲ加ヘ「爲サシムヘシ」ヲ「爲サシムルモノトス」ニ改ム

第二十七條 削除

第二十八條但書削除

附錄第一樣式及同第二樣式削除

附則

本則ハ明治三十五年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治三十四年及其ノ以前徵集ノ第一補充兵中未教育ノ者ノ兵籍及戰時名簿ハ從前ノ規定ニ據リ其ノ補充兵名簿若ハ抽籤名簿ハ本人召集ニ應ス

ルマテ之ヲ保存スヘシ

〔參照〕

陸軍第六十七號陸軍司令部服務規則(明治二十九年四月二十一日)抄録

- 第二條 司令官ハ副官書記ノ事務分掌ヲ定ムルコトヲ得
- 第六條 司令官一時不在ノ時ハ高級故參ノ副官部内ノ事務ヲ代理スヘシ
- 第七條 副官ハ部内ノ事務ヲ管理シ專中申請照會回答等ノ文書ヲ起草シ及書記ノ勤務ヲ監視シ部内一切ノ取締ニ任ス
- 第八條 高級故參ノ副官ハ司令官ノ職印及職印ヲ管守スヘシ
- 第十一條 書記ハ司令官ノ庶務ニ服シ他ヨリ到來スル一切ノ文書ヲ受領シ其親展ニ非サルモノハ總テ開封シ之ニ受領番號ヲ附シ副官ニ送付スヘシ
- 第十二條 書記中軍吏部下士ハ上官ノ指揮ヲ受ケ事務會計ノ事務ニ服ス
- 第十三條 聯隊區司令部ニ備置クヘキ簿冊左ノ如シ
- 九 第一補充兵籍及戰時名簿
 - 十 第二補充兵籍
 - 第十四條 凡兵籍簿及戰時名簿ハ兵種ヲ分チ編綴シ増減異動アル毎ニ加添訂正スヘシ
 - 第二十條 豫備役後備役下士兵卒歸休兵及第一補充兵中勤務演習召集ノ豫備者ヲハ簡閱點呼免除ヲ願出ル者アルトキハ其事實ヲ審察シ確實ト認ムルモハ其許可狀一紙式ヲ付與スヘシ
 - 第二十一條 豫備役後備役將校同相當官下士兵卒歸休兵及第一補充兵中 管留地師管ニ於テ勤務演習ヲ爲サンコトヲ許可ノ者アルトキハ之ヲ管留地聯隊區司令部又ハ管留隊司令部ニ通報スヘシ 管留地ニ於テ簡閱點呼ヲ受クルコトヲ許可ノ者聯隊區外ニ係ルトキ亦同シ
 - 第二十五條 豫備役後備役下士兵卒歸休兵及補充兵ノ願屆書ハ總テ一週ヲ出サシメ其指令ヲ與フヘキモノハ別ニ其要領ヲ記シタル書面ニ添付シ司令官ノ署名押印ヲ爲シ本人ニ交付スヘシ
 - 第二十六條 聯隊區司令部ハ書記一名交番ニ當直ヲ爲サシムヘシ
 - 第二十七條 屯田兵條例ニ依リ服役スル 豫備役後備役下士兵卒ノ取扱ニ關スルコトハ第九條第十三條第十八條第二十條第二十五條兵卒ニ關スルノ條例ニ依リテ之ヲ除クノ外別ニ定ムル所ニ依ル
 - 第二十八條 本則ハ之ヲ管留隊司令部及管留隊司令部ニ適用ス但第六條ハ管留隊司令部ニ適用ノ限ニアラス

○陸軍第九十二號

明治三十三年陸軍第五十七號、明治三十四年陸軍第二十號ハ之ヲ廢ス

明治三十五年九月十三日

陸軍大臣寺內正毅

〔參照〕

明治三十三年五月十日陸軍第五十七號ハ出納官吏身元保證金ニ代用セントスル公價證書價格ノ件同三十四年三月九日陸軍第二十號ハ陸軍省所管出納官吏身元保證金取扱規程ナリ

○陸軍第九十四號

各兵科中尉ニシテ陸軍經理學校條例第九條第十一條ニ據リ豫備試驗論文提出後大尉ニ進級スル者ハ依然陸軍經理學校學生志願者タル資格ヲ有スル備ト心得ヘシ

明治三十五年九月十三日

陸軍大臣寺內正毅

○陸軍第九十五號

明治三十四年陸軍第五十四號ハ之ヲ廢止ス

明治三十五年九月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

〔參照〕

明治三十四年八月二日陸軍第五十四號ハ陸軍里程表ナリ

○陸軍第九十六號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

明治三十五年九月二十六日

陸軍大臣寺內正毅

第五十條第一項中「經理部長」ノ下ニ「時價ニ依リ」ヲ加ヘ同項但書並同條第二項ヲ削ル

第八十六條第一項中「第五十條ノ區分ニ依リ之レヲ指定スヘシ」ヲ「當該師管ヲ管轄スル師團ノ經理部長時價ニ依リ之ヲ指定スヘシ」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

○陸軍第九十七號

明治三十四年陸軍第六十九號中左ノ一號ヲ追加ス

明治三十五年九月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

七 聯隊區司令官タル大中佐

一頭

【參照】

明治三十四年十一月陸軍第六十九號ハ陸軍乘馬飼養條例第二條定數中當分ノ内減少頭數ノ件ナリ

○陸軍第九十八號

聯隊區司令官ニシテ本年勅令第二百二十三號乘馬飼養條例改正發布前ヨリ引續キ在職ノ者ハ明治三十六年三月三十一日迄乘馬ヲ飼養セシメス

明治三十五年九月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

○海軍省第八十二號

明治三十三年陸軍百十四號ヲ左ノ通改ム

明治三十五年九月一日

海軍大臣野澤山本權兵衛

雜役船舟ハ其ノ附屬處所在ノ海軍區ヲ管スル鎮守府ヲ以テ本籍ト定ム

但馬公要港部附屬船舟及水路部附屬船舟ノ内沖繩臺灣及韓國沿岸ニ使用スルモノハ佐世保鎮守府ヲ本籍トス

○海軍省第八十三號

雜役船舟還納及廢却手續左ノ通相定メ雜役船舟還納及賣却手續ヲ廢ス

明治三十五年九月八日

海軍大臣野澤山本權兵衛

雜役船舟還納及廢却手續

第一條 艦團部校所附屬ノ船舟不用ニ屬シタルトキハ其引換ニ因リタルモノハ直ニ其他ハ理由ヲ記シ本籍鎮守府司令長官ノ承認ヲ受ケ(所屬長官アルモノ)附屬物ト共ニ該鎮守府ニ屬スル海軍港務部ニ還納スヘシ

第二條 海軍港務部長還納船舟ヲ受領シタルトキハ直ニ其還納元艦團部校所名、船種、船名若ハ公稱番號、公稱番號ナキモノハ其要領(長、短、深、排、水、量、等)還納ノ理由及受領ノ月日ヲ記シ附屬物目錄(艦船目録)ノ分ニ就テハ(トモ)ヲ添ヘ所管鎮守府司令長官ノ承認ヲ受ケ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第三條 海軍港務部長ハ還納船舟ノ保管出納ヲ掌リ適宜帳簿ヲ備ヘ船舟及其附屬物ノ受授ヲ明ニスヘシ

第四條 還納船舟ハ鎮守府司令長官所屬海軍造船廠長ヲシテ總テ之ヲ検査セシメ將來使用ノ見込ナク且修理ヲ加フルノ價值ナキモノハ之ヲ廢船舟トナシ其内造船材料ニ使用シ得ルト認ムルモノハ同資金材料ニ組入レンシメ其他ハ同廠ヲシテ賣却處分セシメ其旨海軍大臣ニ報告スヘシ但排水量百噸以上ノモノ又ハ小蒸汽船ニ就テハ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第五條 造船廠長前條ニ依リ廢船舟及附屬物ヲ賣却處分シタルトキハ其賣却代價及豫定價格ヲ一艘毎ニ明記シテ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第六條 鎮守府司令長官所屬海軍港務部保管ノ船舟ヲ艦團部校所ニ附屬セシメントスルトキハ理

由ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第七條 海軍港務部長保管ノ船舶ヲ其部ニ附屬セシメラレ若クハ一時使用ヲ許サレ又ハ他ノ艦團部校所ニ引渡シ或ハ廢船舟トシテ海軍造船廠ニ引渡シタルトキハ其理由及受授月日ヲ記シ直ニ海軍艦政本部長ニ報告スヘシ

第八條 艦團部校所長其所屬ノ船舶ヲ亡失シタルトキハ其事由ヲ具シ本籍鎮守府司令長官ニ報告シ(所屬長官アルモ)鎮守府司令長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ附屬物ヲ亡失シタル場合亦同シ

○海軍省達第八十四號

明治三十五年九月三十日限り明治三十四年達第三號ヲ廢ス

明治三十五年九月八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治三十四年ハカク海軍省達第三號ハ艦團艦ニ於テ支拂ツ要スル經費ハ所管鎮守府經理部第一課主任課員ヲ現金前渡官吏トシ該艦團組主任官ヲ其分任官吏トシ之レカ仕拂ヲナサシムル件ナリ

○海軍省達第八十五號

明治二十六年ハカク達第百二十五號出納官吏身元保證金取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十五年九月八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條 其取扱官廳以下ヲ其取扱官廳ハ經理局取扱主任ハ經理局長トスニ改ム
第七條 身元保證金ニ代用セントスル公債證書ノ價格ハ身元保證金納付前月ノ東京取引所ノ平均

第七條 身元保證金ニ代用セントスル公債證書ノ價格ハ身元保證金納付前月ノ東京取引所ノ平均

相場ニ依リ爾後五箇年毎ニ其年三月中ノ同所平均相場ニ依リ改定スヘシ

第八條 身元保證金ニ代用セントスル土地ノ價格ハ總テ土地臺帳ニ登記ノ價格ニ依ルヘシ

第九條 明治二十三年勅令第四號第三條及第四條ヲ前二條ニ改メ左ノ一項ヲ加フ

海軍大臣ハ身元保證金ノ納付済トナリタルトキハ納付済證(第五號書式)ヲ出納官吏ニ交付スヘシ但明治三十五年勅令第二百五號第二條ニ依リ分納ヲ許可シタル場合ニハ納付ノ都度假納付済證(第六號書式)ヲ交付シ完納ニ至テ納付済證ト交換スヘシ

第十條及第十七條ヲ削除ス

第十四條 損失金ノ上ニ「公賣ニ關スル費用」ヲ加フ

○海軍省達第八十六號

海軍軍人軍屬ニアラサル者ノ旅費支給ニ關スル規程中第三項但書ヲ左ノ通改正ス

但シ臺灣島、澎湖島及北海道ノ旅行ニ限り該定額ヲ以テ支辨シ難シト認ムル場合ニ於テハ海軍大臣ノ認許ヲ經テ増額ヲ爲スコトヲ得

本達ハ明治三十五年九月二十一日ヨリ施行ス

明治三十五年九月八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第八十七號

職工入夫給與規則中左ノ通改正ス

本達ハ明治三十五年九月二十一日ヨリ施行ス

明治三十五年九月八日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第五條 職工ヲ定時間外ニ使役スルトキハ每一時間ニ賃錢十分ノ一ヲ給シ其ノ他定時間外及特種

事業ニハ尙別表ニ依リ加給ヲ給ス
 停業時限後始業時限マテ當直トシテ艦船ニ服務セシムル者ニハ每一時間ニ賃銀三十分ノ一ヲ給ス
 第十三條但書中「死亡若ハ解備」ヲ「死亡解備若ハ轉備」ニ改ム
 別表ヲ左ノ通改ム

種別	種別	別	毎一時間加給額
第一 第一	定時間外服業	停業時限三時間外六時間マテ及始業時限前二時間以内	日給二十分ノ一
第一 第二	停業時限後六時間外及始業時限前二時間外		日給十分ノ一
第二	砲臺製造ノ服業		日給五十分ノ一
第三	潜水事業	水底五尋未満 水底五尋以上	六錢乃至十五錢 八錢乃至二十錢
第四	潜水器ヲ用ヒサル水中ノ事業	五月及十月、北海道ニ在テハ六月及九月 十一月ヨリ四月マテ、北海道ニ在テハ十月ヨリ五月マテ	八錢乃至二十錢 十二錢乃至三十錢
第五	艦及艦下ヲ水中ニ入ルヘキ事業	五月及十月、北海道ニ在テハ六月及九月 十一月ヨリ四月マテ、北海道ニ在テハ十月ヨリ五月マテ	一錢五厘乃至三錢 二錢乃至五錢
第六	病者傳染ノ恐アル場所ニ於ケル服業 天災其ノ他非常防禦ノトキノ服業		二錢乃至五錢

備考	第八	第七	第六
第一乃至第三ニ於ケル端時間ハ三十分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス 第四ニ於ケル端時間ハ十分毎ニ一時間ノ割合額ヲ給ス 第五乃至第八ニ於ケル一時間ニ滿タサル端時間ハ計算セズ 船具工場ニ使役スル職工ニハ橋上及艦船機突上其ノ他之ニ準スヘキ場所ノ服業ニシテ第七ノ加給ヲ給ス 水底ニ掘ケル事業ニシテ二種以上同時服業スルトキハ第一第二ヲ除クノ外多額ノ一種ニ依テ加給ス	艦船機突内ノ事業 水雷艇機突内ノ事業 機突内ニアラサル事業	艦船二重底及二重底ノ如キ被服不健康ナル場所ノ服業 艦船内厨修理ノ服業 橋上及艦船機突上其ノ他之ニ準スヘキ場所ノ服業	一錢乃至二錢五厘 二錢五厘乃至五錢 四錢乃至六錢 一錢乃至三錢五厘

○海軍省達第八十八號
 兵器ノ主管者ヲ自今左ノ通定ム

但各種試驗器具及消耗兵器ハ各主管相流用シ得ル儀ト心得ヘシ

明治三十五年九月十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

- 一 信號器具、各種信號燈、喇叭及其附屬器具等
- 一 砲銃、水壓駐退機、軍樂器、發砲電路及其附屬器具等
- 一 水雷、各種發射機、探海燈、電氣通信器及其附屬器具並電氣試驗器具等
- 航海長
- 砲術長
- 水雷長

一 空氣壓搾唧筒機、發電機、電動機、水壓唧筒機、大砲水壓旋回機、電燈、機關ニ屬スル電氣器具及其
附屬器具等

機 關 長

(備考) 兵器及屬具等ノ種類細目ハ兵器簿ヲ以テ之ヲ定ム

○海軍省達第八十九號

下士教員資格ニ關スル規定左ノ通り定ム

明治三十五年九月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

一 左ノ證書證狀ヲ有スル下士及運用術教員タルニ適當ナル兵曹ヲ以テ教員ニ充ツヘシ但シ下士
不足スルトキハ同證書證狀ヲ有スル卒ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

砲術教員適任證書

水雷術教員適任證書

一等信號適任證書

軍樂教員適任證書

一等船匠工證狀

機關術教員適任證書

一等水雷工證狀

一等兵器工證狀

二等裝創證狀

一等掌記證狀

二 前號ノ資格ヲ有スル者不足スルトキハ左ノ證書證狀ヲ有スル下士ヲ以テ教員ニ充ツヘシ但シ

下士不足スルトキハ同證書證狀ヲ有スル卒ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

掌砲證狀

掌水雷證狀

二等信號適任證書

軍樂高等科卒業證書

二等船匠工證狀

機關工證狀

二等水雷工證狀

二等兵器工證狀

二等裝創證狀

二等掌記證狀

三 第一號第二號ノ資格ヲ有スル者不足スルトキハ特科兵助手及特ニ選拔シタル適當ノ者ヲ以テ
教員ニ充ツヘシ

○海軍省達第九十號

明治二十二年達第四百八十一號ヲ廢ス

明治三十五年九月十六日

海軍大臣男爵山本權兵衛

〔參照〕

明治二十二年九月十六日ニ海軍省達第四百八十一號ハ准士官下士教員資格ニ關スル規定ナリ

○海軍省達第九十一號

明治二十七年達第五十六號軍艦機關來歷簿改令中左ノ通り追加ス (追加略ス)

明治三十五年九月二十二日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十二號

海軍通常物品會計規程中左ノ通改正ス

明治三十五年九月二十三日

海軍大臣男爵山本權兵衛

第三條中學術其他試驗用物品ノ下ニ「備品器具機械ノ修理用物品」ノ十二字ヲ追加ス
第十條乙ヲ左ノ通改正ス

艦船取外ノ物品ハ前條ニ依リ受入レ造船材料資金會計法第五條ニ據リ資金材料ニ組入ルヘシ
物品會計官吏前項ノ物品ヲ受入ルルトキハ第三號物品納票ヲ用ニヘシ

第十三條第二項中「及造兵材料」ノ五字ヲ削リ第二項中割註「造船材料資金」ヲ「造船造兵材料資金」ニ改ム

第十八條中「鎮守府監督部」ヲ「鎮守府經理部」ニ改ム

第二十三條中「二十八年六月會計検査院達第二號」ヲ「三十四年四月會計検査院達第一號」ニ改ム

第一號表中動物ノ部ニ「鳥類」ヲ追加ス

○陸達第九十九號

明治二十九年陸達第七十七號中へ左ノ通追加ス

明治三十五年十月七日

陸軍大臣寺内正毅

一 派出所ノ欄名稱末尾ニ「軍馬補充部大山支部旭川派出所」ヲ位置末尾ニ岡山縣真庭郡八束村大字上長田ヲ加フ

○陸達第一百號

陸軍經理學校條例第二十條ニ依リ採用スヘキ第三期監督講習生ニ係ル事項左ノ通定ム

明治三十五年十月十日

陸軍大臣寺内正毅

一 第三期監督講習生ハ七十名トシ明治三十六年一月入校セシム
二 各兵科士官ニ施行スヘキ豫備試験問題左ノ通

受験者ハ本年十二月一日マテニ陸軍監督講習生試験規定ニ依リ其答案ヲ提出スヘシ

論文

陸軍經理ニ關シ團隊長ノ責任ヲ論ス

○陸達第一百一號

清國駐荷陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

明治三十五年十月十三日

陸軍大臣寺内正毅

第四條第二項ヲ左ノ如ク改ム

駐荷地ニ出發前一箇年以内ニ臺灣又ハ韓國ニ旅行シタル者ニハ既ニ受ケタル旅行手當トノ差額ヲ給ス

考備	一	水袋中准士官以上下士兵卒ノ衣ニハ肩章ヲ附ス 駐荷地交付ノ官品ハ歸還者ノ還納品ヲ以テ逐次免用スヘシ	同 日 履	准士官以上	一箇	定期交代者ニハ駐荷開啓用セシム
			同 日 履	准士官以上	一箇	定期交代者ニハ駐荷開啓用セシム
			茶褐色夏衣袴	下士兵卒判任文官雇員看病人應工從卒及馬卒代用者	二組 一箇 一箇	常服部隊附ノ者ニハ一箇年經過ノ後毎年新品一箇(組)ヲ交付ス
			同 日 履	下士兵卒看病人應工從卒及馬卒代用者	一箇 一箇	
			絨 衣 袴	下士兵卒看病人應工從卒及馬卒代用者	一組 一組	
			帽	看病人應工從卒及馬卒代用者	一箇	
			外 袴	下士兵卒看病人應工從卒及馬卒代用者	一箇	
			防 寒 胸 袴	准士官以上下士兵卒文官雇員看病人應工從卒及馬卒代用者	一箇	
			同 手 套	下士兵卒看病人應工從卒及馬卒代用者	二組	
			混綿メリヤス襪袴袴下	下士兵卒看病人應工	二組	
			同 靴 下	下士兵卒看病人應工	十組	
			本 小 絨 履 卷	准士官以上下士兵卒文官雇員看病人應工	一箇	
			防 寒 用 毛 皮	准士官以上下士兵卒文官雇員看病人應工	一箇	
			麻 脚 絆	看病人應工	一組	
			同 靴	看病人應工從卒及馬卒代用者	二組	

○陸軍部百一號

憲兵服務規程中左ノ通改正ス

明治三十五年十月十四日

陸軍大臣寺內正毅

第六條中若クハ下ニ准士官ヲ加フ

第八條 副監督ハ憲兵司令官又ハ憲兵隊長ノ命ヲ承ケ會計事務ヲ掌ル

上等計手ハ上官ノ命ヲ承ケ金銀物品ノ出納保管及計算記簿ノ事ニ服ス

第九條中憲兵伍長ヲ憲兵班長ニニ伍ヲ二班ニ伍長ヲ班長ニ改ム

第十四條中分隊副長之ヲ代理シ又ハヲ削ル

○陸軍部百三號

陸軍武官進級取扱規則中左ノ通改正セラル

明治三十五年十月十四日

陸軍大臣寺內正毅

第一條中憲兵曹長ヲ削ル

第二條中若クハ憲兵曹長ヲ削ル

第五條第七條第九條及第十二條中及憲兵曹長ヲ削ル

○陸軍部百四號

陸軍給與令細則中左ノ通改正ス

明治三十五年十月十四日

陸軍大臣寺內正毅

第六條第一號ヲ左ノ如ク改メ同條第三號ヲ削ル

一 在職將校同相當官職ヲハ甲額ニ依ル

第七條中「上級ノ職務心得勤加給俸、在勤加俸」ヲ其ノ他總テノ加給俸ニ改ム

第二十條第一項中「第七」ヲ削リ「下士」ノ上ニ「准士官」ヲ加フ

第二十九條ニ左ノ一項ヲ加フ

生死不明トナリタル者ハ其ノ生存ヲ認ムヘキ最後ノ日ノ翌日ヨリ起算シ百八十日ヲ經過スレハ

生死分明トナル迄職務俸共ノ他總テノ加給俸ノ支給ヲ停止ス

第四十三條ヲ削ル

第八十五條第一項第二項ヲ左ノ如ク改ム

本令第四十七條ノ增削ハ實際ノ勞働ニ應シ其ノ最高級部隊長ノ定ムル所ニ依リ之ヲ給ス但シ旅費規則ニ依リ馬匹旅費ヲ受ル者ニハ之ヲ給セス

第八十七條中「並増廣資料」ヲ削ル

附 則

第六條中ノ改正ハ明治三十五年十一月一日ヨリ施行ス

○陸軍部第五號

臺灣島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則細則中左ノ通改正ス

明治三十五年十月十四日

陸軍大臣寺內正毅

第六條ニ左ノ二項ヲ加フ

清國又ハ韓國ニ引續キ旅行ノ者ニハ手當金ノ多額ニ就キ之ヲ給ス

駐劄地ニ出發前一箇年以内ニ清國又ハ韓國ニ旅行シタル者ニハ手當金ヲ支給セス

第二表中「曹長」ヲ「特務曹長」ニ「一等軍曹」ヲ「軍曹」ニ「二等軍曹」ヲ「伍長」ニ改ム

○陸軍部第六號

清國駐劄陸軍部隊給與令細則中左ノ通改正ス

明治三十五年十月二十五日

陸軍大臣寺內正毅

第十四條ヲ削ル

○陸軍部第七號

本年陸軍部第二十六號別表中「陸軍諸學校長」ノ欄ノ次ニ左ノ一欄ヲ加フ

明治三十五年十月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

電信教導大隊長 電信教導大隊ニ係ル收入、經費

○陸軍部第八號

明治三十五年陸軍第十六號上等計手及計手補充區分表中左ノ通改正ス

明治三十五年十月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

附屬スヘキ軍隊及官術學校ノ欄中「教育總監部及其ノ管轄セル諸學校」ノ下ニ「並電信教導大隊」ヲ加フ

○陸軍部第九號

陸軍部治隊下士兵卒分遣規定別紙ノ通定

明治三十五年十月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

(別紙)

懲治隊下士兵卒分遣規定

第一條 懲治隊分遣下士以下ノ分遣區分ハ左表ニ依ルヘシ

區分	師團													
	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	第八	第九	第十	第十一	第十二	計	
歩兵軍曹														
同上等兵	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二〇	六
同一等兵														

第二條 總治卒ノ現員寡少ナルトキハ第十師團長ハ分遣下士以下ノ定員ヲ減スルコトヲ得

第三條 分遣期ハ下士ニ在リテハ約一年半兵卒ニ在リテハ約一年トシ概ネ半數宛交代セシム

第四條 下士ハ第一條ノ分遣區分ニ基キ兩師團ヨリ交互ニ之ヲ出ス但シ最初ハ第一第三第五第七第九第十一師團ヨリ分遣スルモノトス

第五條 分遣人員及到着期日ハ第十師團長之ヲ定メ關係師團長ニ通報スヘシ

○陸軍部百十號

明治三十二年十月陸軍部百十一號中左ノ通改正ス

明治三十五年十月二十七日

陸軍大臣寺內正毅

第一表中横登「大學校」ノ前並「臺灣陸軍獸醫部」ノ次へ「東京要塞砲兵聯隊」ヲ「野戰砲兵射擊學校」ノ次へ「東京要塞砲兵射擊學校」ヲ、繼而「顯微鏡」ノ下「臺灣陸軍獸醫部」ノ次へ「東京要塞砲兵聯隊各一營及顯微鏡器具」ノ下「臺灣陸軍獸醫部」ノ次へ「東京要塞砲兵聯隊各一具」ヲ、溫保毛巾(附帶共)ノ下「大學校」ノ前へ「東京要塞砲兵聯隊各九具」ヲ又「野戰砲兵射擊學校」ノ次へ「要塞砲兵射擊學校三具」ヲ追加ス

〔參照〕

明治三十二年十月陸軍部百十一號ハ獸醫材料取扱規則ナリ

○陸軍部百十一號

明治三十五年陸軍部百八十九號諸學校學生及教導隊分遣下士卒取扱規則中左ノ通改正ス

明治三十五年十月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

第一條中「要塞砲兵射擊學校」ノ下ニ「電信教導大隊」ヲ加フ

第二條中「學校長」ノ下ニ「電信教導大隊長」ヲ加フ

○陸軍部百十二號

陸軍服裝規則中左ノ通改正ス

明治三十五年十月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

第四十四條中「野戰砲兵」ノ下ニ「要塞砲兵聯隊乙大隊」ヲ加フ

第四十九條第一號中「要塞砲兵」ノ下ニ「割註」乙大隊及割註「山砲隊」ノ項ニ「短」ノ下ニ「要塞砲兵聯隊乙大隊」ヲ加フ

同條第三號中「要塞砲兵」ノ下ニ「割註」乙大隊ヲ加フ

同條第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 野戰砲兵要塞砲兵聯隊乙大隊軍曹伍長及兵卒ハ銃劍ヲ佩ビ半長靴ヲ袴上ニ穿ツ(山砲隊ノ裝束及助卒輪傘ハ短靴ヲ穿シテ隊伍ニ列スルトキ徒歩ノ者ハ野戰砲兵ニ在リテハ背蓋ヲ負ヒ外者ヲ脚絆ヲ袴下ニ著ス)而シテ隊伍ニ列スルトキ徒歩ノ者ハ野戰砲兵ニ在リテハ背蓋ヲ負ヒ外者ヲ脚絆ヲ袴下ニ著ス

查シ蹄鐵狀ニ附著シ(各各ニ依リ蹄鐵及外)要塞砲兵聯隊乙大隊ニ在リテハ尙彈藥盒ヲ附著シ銃ヲ携持ス但シ輪傘ハ外蓋ヲ卷キ左肩ヨリ右脇ニ掛ク

同條第九號中「野砲隊附」ノ下ニ「及要塞砲兵聯隊乙大隊附」ヲ加フ

第五十條第三號中「要塞砲兵」ノ下ニ割註「乙大隊」ヲ加フ

○陸軍第九十三號

明治二十一年陸軍第九十五號明治二十二年陸軍第四十九號明治三十一年陸軍第七十四號及明治三十一年陸軍第九十三號ハ之ヲ廢止ス

明治三十五年十月二十九日

陸軍大臣寺內正毅

〔參照〕

明治二十一年五月陸軍第九十五號ハ海岸砲臺其他要塞等ニ設置スル電信視號及電氣燈ノ勤務ハ工兵科ノ任務ト定ムル件
同二十二年三月陸軍第四十九號ハ電信術傳習員分道規則同三十一年九月陸軍第七十四號ハ要塞通信員及電燈使用員
教育假規則同三十二年七月陸軍第九十三號ハ要塞通信員電燈使用員ニ附與スルハキ學術修得證書難形ナリ

○海軍省第九十三號

第七號天及第三橫須賀丸ヘ左ノ通信號符字ヲ照付ス

明治三十五年十月十三日

海軍大臣野村權兵衛

G Q M V 第七號 天
G Q M W 第三橫須賀丸

○海軍省第九十四號

明治三十一年陸軍第九十三號中「備人」ハ日給ヲ「備人中割烹及舟夫長」ハ日給一圓二十錢其ノ他ハ同ニ改正ス

明治三十五年十月十八日

海軍大臣野村權兵衛

【參照】

海軍省達第九十三號(明治三十一年六月二十日)抄録
臺灣島及澎湖島ニ於テ備役スル雇員備人ハ經費豫算内ニテ雇員ハ月給三十圓備人ハ日給八十錢以内ヲ以テ雇員備人規則ニ依ラズ應宜備役スルコトヲ得但給料ノ支給法ハ總テ雇員備人給與規則ニ依ル

○海軍省達第九十五號

明治十九年海軍省令第七十四號海軍軍人虎列刺病ニ罹ル者取扱手續ニ依リ虎列刺病患者ヲ地方設置ノ避病院ヘ委托治療スル件ハ軍港ニ於テハ事情ノ許ス限り之ヲ適用セサル儀ト心得ヘシ

明治三十五年十月二十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十六號

横須賀海軍造船廠ニ於テ製造ノ第十七號驅逐艦ヲ春雨ト命名セラレ

明治三十五年十月三十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

○海軍省達第九十七號

驅逐艦春雨信號符字左ノ通號付ス

明治三十五年十月三十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

G Q N B 海軍

○海軍省達第九十八號

海軍准士官下士卒任用進級試験規則第十五條第四號ヲ左ノ如ク改ム

明治三十五年十月三十一日

海軍大臣男爵山本權兵衛

四 驅逐艦水雷艇ノ乘員タル兵曹、水兵及機關兵曹、機關兵ニ在テハ驅逐艦水雷艇員教育科目ヲ第二號ノ練習號教育科目ニ換ヘ試験ヲ行フモノトス